学習支援センター（SLAサポート）
年次活動報告書
2023年度

Annual Report 2023/ Center for Learning Support (SLA Support Office)

CLSLA

東北大学
高度教養教育・学生支援機構
Institute for Excellence in Higher Education,
Tohoku University

巻頭言

自ら生成するもの、自らが価値の根源であるもの

―学習支援センターのめざすところ―

学習支援センター長　芳賀　満

勇気こそ地の塩なれや梅真白
中村草田男

1944 年、教え児たちが学徒出陣する際に中村草田男が餞（はなむけ）として詠んだ句（『来し方行方』1947 所収）である。自らを生成しつつ、他者のために存在し働き助けることは我々の目指す境地である。学習支援センターで教え教わる学生たちに一教員として贈りたいと思いここに掲げる次第である。

季語は「梅」で春、しかしまだ寒い。歳寒という困難に遭って、常緑の松柏の本性が顕現し、梅も節を守り不変の心を持ち凜とした気の中で百花に先駆け蕾みをほころぶ。「地の塩」はイエスが山上の垂訓（新訳聖書マタイ伝第 5:13）で弟子たちに語った言葉である。「汝らは地の塩なり、塩もし効力を失わば、何をもてか之に塩すべき。後は用なし、外にすてられて人に蹈（ふ）まるるのみ。」と説いた。高等教育機関在学中に徴兵され戦争へと動員される学徒に向けて、草田男は君たちの「勇気こそ」が「地の塩」を塩ならしめ、その効力を発揮させているのだ、と謂う。大学等の学生は戦争当初から徴兵が猶予されていたが、長年続く戦いに兵力不足がもはや顕著となり戦争終盤に至って学徒が次々に「火のルツボのごとき」（草田男の自句自註にある言葉）戦場に送り込まれた。塩も君たちの勇気も、邪を寄せ付けぬ存在感があり、微かであっても世界には必要なのである、君たちはそのような存在だ、と言って遣る以外に、出征する教え児たちに対して教員は他に何を垂訓などできようか。

一方、上五の意味、つまりどのような「勇気こそ」であるのかは明示されていない。「玉砕」「特攻」の勇気なのか、逆に「生きて虜囚（りょしゅう）の辱（はずかしめ）を受け」る（勿論『戦陣訓』には「受けず」とある）勇気なのか。但し、それは下五の「梅真白」の意味に沿うものなのであろう。誰もが知るようにマタイ伝でイエスは「地の塩」に続いて、「汝らは世の光なり。山の上にある町は隠るることなし。また人は燈火（ともしび）をともして升（ます）の下におかず、灯台の上におく。かくて燈火は家にある凡ての物ものを照てらすなり。斯くのごとく汝らの光を人の前にかがやかせ。」（マタイ伝第 5:14-16）と説く。高く掲げられた一点の光が周囲を照らすように、君たちの善き行為を世の人々の前に輝かせなさい、との意である。しかしこれは出陣する学徒に贈るには不適である。戦場はそのような簡単なことではないからである。「勇気」、あるいは学徒を待ち受ける戦場での死とは、世の中にあって貴重な働きではあるが、それは光らず低く全く華々しくなく、地味であるどころか誰の目にも留まらず且つそれを省みもしないのが天皇の赤子（せきし）として国民に課せられた自己

犠牲の大前提であった。明治神宮外苑競技場で行われた出陣学徒壮行会では、例によって「海行かば水漬く屍山行かば草生す屍大君の辺にこそ死なめ かえりみはせじ」（8 世紀大伴家持作、1937 年信時潔作曲）が斉唱されたが、こういった戦争の「屍」は、「世の光」では決してあり得ず、それはまさに水漬き草生す「地の塩」に他ならない。

本句では草田男は「世の光」ではなく「梅真白」と置き結ぶ。キリスト教から東洋文化の真髄への急転直下である。草田男による自句自註には「折から、身辺には梅花が、文字どおり凛冽と咲き誇っていたのである。」とあるが、蕪村の辞世の句「白梅に明くる夜ばかりとなりにけり」がその念頭にあると考えてよい。この句でのように「梅真白」とは、夜のほどろのなかにひろがる白い香気が純白の微光のごとくにあたりを包んでいる、現を超えた次元の世界なのである。「世の光」などよりも遙かに凛冽たる「梅」、特に一際高潔な「真白」の梅。「梅真白」とは、自句自註にある「他者によって生成せしめられるものでなくて自ら生成するもの、他者によって価値づけられるものではなくて自らが価値の根源であるもの」の象徴である。出征にあたり、これほど鼓舞し志を与えてくれる言葉は他にないだろう。この結句こそが草田男の教え児たちへの祈りの言葉である。

勿論、今がこのような言葉を戦場に征く学生たちに贈ることのない時代であることをこそ寿ぎたい。しかし昭和 100 年・戦後 80 年の今こそ、大学等から動員され戦場へと征かされた先輩学生のことを覚えておかなくてはならない。また、共に学び共に育つことは共に互いの「地の塩」である覚悟だ。そしていずれの道においても各自の胸に、この凛冽と咲き誇る「梅真白」を抱いて進んでほしい。2025 年度から高度教養教育・学生支援機構が改編されそれに伴い各センターも変わる。本句は私から現状の学習支援センターへの餞ともして、更なる次元への発展を期待する。

目次

巻頭言　自ら生成するもの、自らが価値の根源であるもの ―学習支援センターのめざすところ―
センター長　芳賀 満---------- 1

◆ 2023 年度事業内容・成果 ---------- 4
1. センター概要 ---------- 6
2. センター活動･実績報告 ---------- 10
3. 歴代センター教員による論考 ---------- 20
1)　SLA と私の思い出 ―「働きかける/応える」「個/集団」の２つの循環のなかで―　西塚 孝平（20）
2)　SLA サポートと歩んだ道のり―何を為し、何を成せなかったのか―　佐藤 智子（32）
4. 研修実績報告 ---------- 36
1) 活動説明会（37）
2) 活動報告会（48）
3) グラフィック・レコーディング研修会（62）
5. 部会活動報告 ---------- 65
1) 物理部会（65）
2) 数学部会（67）
3) 化学部会（69）
4) ライティング部会（71）
5) 英語部会（73）
6) 日本語部会（77）
7) 企画部会（79）
6. SLA 卒業プレゼンテーション ---------- 82

資料 ---------- 87

編集後記 ---------- 98

◆2023 年度事業内容・成果

１．スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施

SLA（Student Learning Adviser）とは本学学生による学生のための学習支援スタッフである。学部生の授業時間外の教科学修や英語学習、留学生の日本語学習、及び学際的なテーマに関する協同学習実践への支援を行っている。2023 年度の SLA 数は、前期 48 名、後期は 50 名であった。うち当該年度中に新規採用した SLA は計 20 名である。

SLA による学習支援は、①理系科目の学習支援、②ライティング支援、③英会話、④日本語会話学習支援、⑤学習イベント企画、⑥学習情報発信・広報活動という 6 つに大きく分けられる。2020 年度以降は新型コロナウィルス感染拡大のためオンライン対応を導入したが、感染拡大収束に伴い、本年度は対面対応へと切り替えていった。一方、言語系科目は事前予約制・オンライン対応を併用し、学生の利用機会促進を図った。

結果、2023 年度の全体の窓口利用者数は延べ 1,369 名であった。

①　理系科目支援

2023 年度は、昨年度と比較すると情報科目（プログラミング）や高度な専門科目など、これまであまり見受けられなかった科目の対応が増加した。また、理系科目全体では、2023 年度の利用者数が延べ 528 名、実数では 165 名であった。昨年度と比較すると、利用者実数・延べ数ともに増加した。また、複数回利用をする「リピーター」も例年以上に多くみられた。

個別対応以外にも、積極的な情報発信を行った。数学部会と化学部会では、部会内研修の一環だった「説明選手権」イベントを一般公開形式で開催した。また、教科の学びに関わる情報を X や SLA ラウンジ内の掲示板・ホワイトボードで発信した。

②　ライティング支援

2023 年度はドロップインと事前予約、対面とオンラインの方式を併用した。ライティング支援の 2023 年度の窓口利用者は、延べ 194 名、実数で 74 名、留学生利用者数は延べ 102 名だった。日本語の文法チェックとレポート作成の支援を中心に、卒論の相談などの応用的・専門的な対応もおこなった。

個別対応以外にも、引用方法、パラグラフライティング、文献収集の方法などを分かりやすく解説したポスターを作成し、SLA ラウンジおよび各講義棟に掲示した。

③　英会話

2023 年度はドロップインと事前予約、対面とオンラインの方式を併用した。2023 年度の英会話支援の利用者数は延べ 469 名、実数 141 名だった。昨年度と比較すると、利用者延べ数・実数がともに増加した。予約がほぼ毎日埋まり、特に学部 1 年生が多くみられた。また、例年より多くのリピーターの利用があった。

個別対応以外にも、英会話カフェや、季節のテーマに関するウィークリーイベントといった複数人参加型のイベントを開催した。

④　日本語会話（留学生対象）

2023 年度は事前予約制で、対面とオンラインの方式を併用した。2023 年度の日本語支援の利用者数は延べ 292 名、実数 86 名だった。予約がほぼ毎日埋まる状況で、日本語能力の中上級者（日本語だけで会話できる、N1～2 レベル）を中心に、年間を通じて多くのリピーターが利用した。利用者としては中国の留学生が多いが、多様な地域・国の留学生の利用があった。

個別対応以外にも、複数の留学生が参加して実践的な日本語練習ができるカフェイベントを定期開催した。

⑤　学習イベント企画

2023 年度は哲学カフェと美術館企画を中心とし、そのほかにビブリオ関連企画、英語の学習相談、グループディスカッションとタイム・マネジメントに関するワークショップなどを実施した。2023 年のイベント開催数は 22 回であり、参加者数は 183 名であった。

⑥　学習情報の発信および広報活動

2024 年度に向け、SLA ホームページのリニューアルをおこなった。また、SNS による情報発信として、センター公式の Instagram と LINE アカウントの運用を開始した。

２．学習支援の組織開発および支援者育成システムの開発・実践

2023 年度は、対面での研修を中心に実施した。全ての SLA を対象として、各セメスターの始期に活動説明会、終期に活動報告会を開催した。これらの活動により期間を通した SLA サポート活動の目標の共有と、その目標に対する成果・課題のふりかえりを行った。さらに、新規 SLA 向けの研修として、研修用資料（SLA ハンドブック）と理解度確認テストなどを実施した。セメスター中には SLA の担当分野別に「部会」（担当別研修会）を構成し、担当科目等に関する学習支援の課題の共有と対応の検討等を行った。その他にも、セメスター末には全 SLA に対してアンケートやヒアリングを実施した。そのデータや日頃の教職員による観察から得た情報に基づいて課題を抽出し、個別課題に応じた育成方針をセンター教職員で検討し、全体課題の精査を行った。

３．情報還元による正課カリキュラムの改善・充実への貢献

半期ごとに、学務審議会においてセンターの利用状況・活動報告を行った。化学については、後期の終わりに化学委員会に、化学関連科目の相談内容や、学生のつまずきの原因、SLA の見立てと支援法などといった対応記録一覧を SLA が作成し、授業フィードバックとして情報提供した。また、自然科学総合実験についても同様に対応記録一覧を作成し、前後期の終わりに代表担当教員にフィードバックした。

４．正課カリキュラム外における学生の自主的な学習の支援・促進

学生の学習意欲の向上や教養への興味喚起、正課カリキュラム外での学習活動推進を図るため、SLA による学習支援活動を中心に様々な学習企画や学習支援活動を実施した。哲学カフェ関連企画として、学内でおこなう「かんがえるソファ」と、高校生、社会人、学外大学生などの多様な参加者と対話を深める「合同哲学カフェ」を開催した。また、宮城県美術館との合同企画として、美術館学芸員の方を講師に招き、美術の楽しみ方を知り、アートを触媒にして自分自身が学びを得るイベントを開催した。そのほか、ビブリオ関連企画として、SLA がビブリオバトル公式予選会のホストを務めたほか、本の読み方や読書の面白さを学び知るイベントを開催した。

５．学内外における学習支援ネットワークの構築

留学生等への学習支援に関する情報交換や広報等において、グローバルラーニングセンターとの効果的な連携を継続できた。学外との学習支援ネットワークとしては、企画部会が高知大学と哲学合同カフェを 4 回開催した（オンライン）。

１．センター概要

学習支援センターは、2014 年度の高度教養教育・学生支援機構の発足に伴い設立された業務センターの一つである。その前身となったのは、高等教育開発推進センターにおける「SLA サポート室」の活動（2013 年度）であり、さらにはそれ以前の「全学教育学習支援プロジェクト―SLA（Student Learning Adviser）制度の実践―」（総長室付け、2010 年度～2012 年度）の活動が土台となっている。

2019 年 6 月、「学習支援センター運営要領」を一部改訂した。

（１）理念・使命

学習支援センターの使命には、次の 3 点を掲げている。

(1)　学生の主体的・自律的な学習を実践的に支援・促進し、研究大学で学ぶ学生が習得すべきコンピテンシーを育成する。
(2)　初年次教育や学習支援に関する国内外の動向を調査研究し、大学における学習支援の質的向上に寄与する。
(3)　教職員・学生の間に「学び合い」文化を醸成し、学習共同体（ラーニング・コミュニティ）の形成に寄与する。

学習支援センターの支援対象は主に学部生を対象とした全学教育（教養教育）である。特に 1・2 年次学生にとっては、高校教育から大学教育への移行において「学びの転換」が課題となっており、その転換を実践的に支援・促進するのが本センターの重要な役割の 1 つである。

本センターの学習支援の特徴は、学習支援活動の主な担い手が「SLA (Student Learning Adviser)」と呼ばれる学生スタッフであることにある。「学生による学生のための学習支援」の在り方を模索し、開発していくことも本センターの使命の一つである。

（２）事業

学習支援センターが行う事業は、次の 4 点である。

(1)　スチューデント・ラーニング・アドバイザー（SLA、 Student Learning Adviser）制度の運用を基盤とした学習支援の開発・実施
(2)　正課カリキュラムの改善・充実への貢献および全学教育に対する教育開発支援
(3)　正課カリキュラム外における学生の自主的な学習の支援・促進
(4)　学内外における学習支援ネットワークの構築

本センターでは、高大接続の円滑化と大学教育での「学びの転換」、そして「単位制度の実質化」に対応するため、大学初期段階での学びのスタートアップ支援を行う。研究大学における学習支援としては「リメディアル教育」に資する支援を行うと同時に、学生が学修を深化させ、あるいはより幅広い学習へと拡張していくための「レベルアップ」のための支援を開発・実施していく。

（３）センタースタッフ構成（2023 年度）

センター長	芳賀　　満	高度教養教育・学生支援機構　教授、　考古学
副センター長	佐藤　智子	同　准教授、　生涯学習・社会教育
センター員	新井　庭子	同　助教、　計量言語学
	西塚　孝平	同　助教、　教育学・教育アセスメント
	佐々木　雅子	教育・学生支援部　教務課　事務補佐員

SLA　　前期 48 名、　後期 50 名（下表のとおり）

2023 年度 SLA 一覧

	担当	名前	所属	学年	活動開始
1	物理	鈴木　善久	理学研究科	D1	2020 年前期～
2		安田　陸人	理学研究科	D1	2020 年前期～
3		中村　悠斗	工学研究科	M2	2020 年前期～
4		中村　牧人	理学研究科	D1	2020 年後期～
5		菅野　翼	理学研究科	M1	2021 年後期～
6		千葉　公哉	理学部	B4	2022 年前期～
7		雨宮　功来	理学部	B4	2022 年後期～
8		森田　大暉	理学研究科	M2	2023 年前期～
9		岡　和俊	工学部	B3	2023 年後期～
10	数学	渡辺　孝佳	理学研究科	D3	2018 年前期～
11		竹平　航平	理学研究科	D2	2019 年前期～
12		渡辺　楓	理学研究科	M2	2020 年前期～
13		吉野　舜太郎	情報科学研究科	M2	2021 年後期～
14		上田　龍磨	理学研究科	M2	2022 年前期～
15		檜山　快	工学研究科	M2	2022 年前期～
16		大橋　春希	工学研究科	M2	2022 年前期～
17		越川　崇貴	工学部	B4	2023 年前期～
18		鄒　暁城	理学部	B3	2023 年前期～
19		木村　陽来	工学部	B4	2023 年後期～
20		西淵　裕太	理学部	B3	2023 年後期～
21		中島　優斗	理学研究科	D1	2021 年前期～
22		菊地　渉	農学研究科	M1	2022 年前期～
23	化学	宇那木　優斗	工学部	B4	2022 年後期～
24		川音　遼真	理学部	B4	2023 年前期～
25		松本　康汰	理学部	B4	2023 年後期～

26	ライティング	服部　祥英	工学研究科	D2	2020 年後期～
27		増田　友哉	文学研究科	D3	2021 年前期～
28		小田切　裕史	文学研究科	D2	2022 年前期～
29		野々瀬　真理	文学研究科	D2	2022 年前期～
30		加藤　里彩	工学研究科	M2	2022 年後期～
31		森谷　菜々絵	教育学研究科	D1	2023 年前期～
32		伊藤　黎史	文学研究科	M2	2023 年前期～
33	英語	ZHANG XINYU	国際文化研究科	D2	2021 年前期～
34		槙島　千仁	文学研究科	D1	2021 年後期～
35		近森　藍璃	文学研究科	D1	2021 年後期～
36		Belli Komessu Pedro	工学部	B4	2022 年前期～
37		LO CHUAN	医学研究科	D1	2022 年後期～
38		原　幸日	工学部	B4	2022 年後期～
39		佐野　嵩	工学部	B4	2023 年前期～
40		KALOYAN EMILOV BOGDANOV	教育学部	B3	2023 年前期～
41		根本　浩希	文学部	B3	2023 年後期～
42	日本語企画	鏡　耀子	文学研究科	D3	2018 年後期～
43		江村　玲	文学研究科	D1	2020 年後期～
44		小森谷　仁子	文学研究科	M2	2022 年後期～
45		松尾　美祐	工学部	B4	2022 年後期～
46		畑　敦也	文学部	B4	2023 年前期～
47		曽我部　沙也加	法学部	B4	2023 年前期～
48		猪股　達也	文学部	B3	2023 年前期～
49		大津　杏優	工学部	B4	2023 年後期～
50		須田　華	工学研究科	M2	2020 年前期～
51		福士　海伊	工学研究科	M2	2021 年後期～
52		生方　颯真	理学部	B4	2022 年前期～
53		日下部　翔大	薬学部	B4	2022 年後期～
54		田村　彩奈	教育学部	B4	2022 年後期～
55		藤田　脩椰	工学研究科	M1	2023 年前期～
56		田中　幸希	環境科学研究科	M1	2023 年後期～
57		馮　美賀	工学部	B4	2023 年後期～

2023 年度前期 SLA 活動説明会（2023.4.6）の集合写真

2023 年度後期 SLA 活動報告会（2024.2.14）の集合写真

2．センター活動・実績報告

1. 2023 年度 SLA サポート事業重点目標と成果

① 学習者の自律的な学習態度形成と学習成果の質保証を意識した協同的リフレクションの実施・強化

・部会（＝担当分野別 SLA 組織）の垣根を越えた振り返り活動を導入したことにより、対応事例の検討と対応技術の共有が多角的におこなわれるようになり、望ましい支援の方法と態度を SLA 自身で見出し、それらを意識した対応ができるようになった。

・部会間振り返り活動によって部会マネジメント上の情報共有も活発に交わされた。他部会の取り組みを参考にするなど、部会内業務の見直しや効率化を進めることができた。

・対応と活動環境の両面から学習支援としての質向上に意欲的に取り組み、利用者からの高い満足度が得られた。

② 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

SLA と学生、学生同士の交流と協同的な学習を促す「複数人参加型のインタラクティブな学習イベント・ワークショップ」を多数開催し、多様なジャンルの学びを核としたコミュニティづくりに取り組むことができた。

・理系科目は窓口での個別対応のほか、SNS 発信などの間接的に学生と関わる機会を作ってきたが、今年度は複数の学生がリアルタイムで参加できるイベントを開催した。また、掲示板企画やチェックテスト企画では SLA が一方的に情報発信するのではなく、ホワイトボード上での学生間交流や学生のテスト回答に対するフィードバックを取り入れるなどの双方向性を意識した手立てを講じることができた。

・COVID-19 流行以降、英会話と日本語会話はオンライン対応と 1on1 セッションが主な活動であったが、今年度は複数の参加者が集まり実践的な言語学習ができるカフェイベントの対面開催に向けて試行錯誤を繰り返した。SLA が徐々にノウハウを身に付けたことで開催を定常化させ、SLA ラウンジに活気を取り戻すことができた。

2. 支援の実施方法

対面とオンライン、当日受付（drop in）方式と事前予約方式の支援を組み合わせて実施

- 対面での支援
  - 学生の休み時間や放課後での利用を想定し、理系科目、ライティング、英会話・日本語会話（1on1 セッション・カフェイベント）では、対面での drop in 方式を採用。
  - 企画部会によるイベントの多くは対面実施で、基本的に事前予約制を採った。
- オンラインでの支援
  - ライティング、英会話、日本語会話の個別対応を事前予約した学生は、対面かオンライン（Meet）かを選択できるようにした。
  - 理系科目の説明選手権イベント、企画部会による高知大学との合同哲学カフェはオンライン（Zoom）で開催。

＜表 1. 2023 年度 SLA 部会別の支援方法＞

	理系科目			言語系科目			
	物理	数学	化学	ライティング	英語	日本語	企画
対面対応	○	○	○	○	○	○	○
オンライン対応	×	×	×	○	○	○	○
drop in	○	○	○	○	○	×	○
事前予約	×	×	×	○	○	○	○

3. SLA の体制

前期：SLA 48 名（新規 12 名）/ 後期：SLA 50 名（新規 9 名）

＜表 2. 2021～2023 年度 SLA の構成＞

	物理	数学	化学	ライティング	英語	日本語	企画	合計
2021 前期	7 (0)	8 (2)	5 (1)	6 (2)	8 (3)	5 (1)	8 (3)	47 (12)
2021 後期	8 (2)	8 (1)	5 (0)	6 (0)	7 (2)	4 (0)	6 (1)	44 (6)
2022 前期	9 (1)	10 (4)	4 (1)	6 (2)	8 (3)	6 (2)	5 (1)	48 (14)
2022 後期	8 (1)	10 (0)	5 (1)	7 (1)	8 (2)	4 (0)	7 (2)	49 (7)
2023 前期	8 (1)	9 (2)	4 (1)	6 (2)	8 (2)	7 (3)	6 (1)	48 (12)
2023 後期	7 (1)	10 (2)	5 (1)	6 (1)	9 (1)	7 (1)	6 (2)	50 (9)

（括弧内は新規採用者の内訳人数）

4. 2023 年度 SLA サポート利用状況・活動報告

1)2023 年度 SLA サポート利用者数

＜表 3. 2023 年度 SLA サポート利用者数＞

	前期	後期	年間
窓口利用者の延べ数	779 人	590 人	1,369 人
SLA 活動日数	65 日	71 日	136 日
1 活動日あたりの利用者数	11.9 人	8.3 人	10.0 人
イベント参加者の延べ数	129 人	298 人	427 人

2)2023 年度の全体的な成果と課題

成果：

❖ 年間を通じて、利用満足度の高い個別対応ができた。2020 年に導入したオンライン対応から対面対応へと切り替えつつも、言語系科目は事前予約制・オンライン対応を積極的に取り入れていることにより、学生の利用機会を増やすことができた。

❖ 今年度は部会間振り返り「協同リフレクション」を導入し、勤務終わりの 20 分間に活動の省察と改善を強化した。それにより、対応技術の向上と情報共有の機会、SLA への即時フィードバックを充実させることができた。

❖ 例年、後期は個別対応の利用者が減る傾向にあることに鑑み、すべての部会で、学びの機会を創り出す支援を積極的に展開した。理系のホワイトボード企画と説明選手権イベント、ライティングのポスター企画、英会話/日本語カフェの定常化、企画部会によるイベント実施などである。

❖ SLA の働き方改革とデータ活用を推進できた。対応記録記入作業の効率化と活用の模索、資料の引き継ぎ方法の提案など、日々蓄積しているデータの収集と整理、引き継ぎのあり方を SLA 自身が主体的に提案し、かたちにした。その進捗や成果は、協同リフレクション内でも報告され、他部会内にもアイディアが共有された。

今後の課題：

❖ 今後は、SLA による支援の幅を豊かに広げていく必要がある。SLA サポートは、学びに悩む学生のみならず、現状の学びに課題意識を感じていない学生に揺さぶりをかけるとともに、もっと先の学びをしたいと考えている学生の受け皿になることもできる。専門・部会分野の魅力を SLA が引き出し、学ぶこと・学問することの楽しさや面白さを前面に出した活動も推進したい。

❖ 研修をさらに充実させ、SLA が「学び合う」ことが重要である。今年度は協同リフレクションのほか

に、6 月と 12 月に中間自己評価を、毎日の始礼時には対応方法やマネジメントの Tips 紹介をおこなったが、日々の対応の振り返りを具体的かつ即時にできたほうが学習効果は高い。ピアレビューシートを用いた SLA どうしでの定期的な対応の振り返りや、協同リフレクションおよび部会ミーティングでの事例検討の積極的な導入を進めていきたい。

❖ 曜日間の SLA どうしの情報共有が上手くいかず、部会内での活動の進捗把握とフィードバックが滞ることもあった。部会内連携を促すコミュニケーションツールを活用したり、センター教員が SLA どうしのあいだに立って積極的に情報を伝えたりといった工夫が考えられる。

3)理系科目支援：高い利用満足度で多くの学生がリピート利用、発信型企画も強化

実施形態：

- 個別対応型支援は対面 drop in 方式で、1 セッション原則 45 分。次の枠に予約が入っていなければ延長して対応。

利用傾向：

- 全体としては昨年度と比較し利用者実数・延べ数ともに増加。また、複数回利用をする「リピーター」も例年以上に多くみられた。
- 情報（プログラミング言語）科目や高度な専門科目など、これまであまり見受けられなかった科目の対応が増加した。SLA が各自の専門性を活かし、複数人体制でサポートをするなどして柔軟に対応した。
- 留学生による利用は延べ 8 名。（2022 年度は延べ 18 名、2021 年度は延べ 16 名。）

＜表 4. 2019～2023 年度 利用者数等変遷 理系＞

	2019	2020	2021	2022	**2023**
前期 延べ	625	259	248	201	**345**
後期 延べ	386	201	260	140	**183**
合計 延べ	1,011	460	508	341	**528**
予約枠数	-	1275	759	120	**-**
予約枠充足率	-	36.1%	39.9%	28.4%	**-**
合計（実数）	257	160	194	146	**165**

＜表 5. 2019～2023 年度 科目群別利用者数変遷 理系＞

科目群(授業)名	2019	2020	2021	2022	**2023**
物理	271	153	112	84	**133**
数学	436	203	261	143	**200**
化学	112	48	60	31	**84**
自然科学総合実験	45	20	24	55	**50**
数学物理学演習	136	30	36	18	**16**

窓口以外の支援（イベント開催など）：

- 数学部会と化学部会では、学部 1、2 年次の学習内容でつまずきやすいポイントや、その先の応用を SLA が分かりやすく説明し、参加者とディスカッションをする「説明選手権」イベントを計 3 回開催し、合計延べ 35 名が参加した。部会内研修の一環だった本イベントを一般公開型にし、研修の充実と支援対象の拡大の両方を実現することができた。

- 学生が窓口に来なくても利用できる学習支援を継続。教科の学びに関わる情報を X と SLA ラウンジ内の掲示板・ホワイトボードで発信した。
- 前後期の終わりに自然科学総合実験の代表担当教員に、後期の終わりに化学委員会に化学関連科目の対応記録一覧を SLA が作成し、授業フィードバックとして情報提供した。対応記録一覧には、相談内容、学生のつまずきの原因、SLA の見立てと支援法などを 1 件ずつまとめている。

4）ライティング支援：留学生の利用定着、発信型企画も実施

実施形態：

- 1 対 1 での個別対応は 1 セッション 45 分。次の枠に予約が入っていなければ延長して対応。
- drop in と事前予約、対面とオンラインの方式を併用した。
- レポートの添削には Google Document の編集・コメント機能を利用し、学生が後から見返せるように工夫した。

利用傾向：

- 前年度比では、個別対応の延べ数・実数が増加。留学生を中心に、文系大学院生の利用が過去 2 ヶ年で増加している。
- 日本語の文法チェックとレポート作成の支援を中心に、卒論の相談などの応用的・専門的な対応もおこなった。
- 初年次学生向けに発行している『レポート指南書』に書かれていない細かな事項の相談・確認が多くみられた（→高度教養教育・学生支援機構にて『レポート指南書・別冊』を制作。来年度より希望する学生に配布する予定）。
- 対面とオンラインの利用比率は、前期は 64%と 36%、後期は 87%と 13%で、後期になって対面の利用が増加した。
- drop in と事前予約の比率は、前期は 19%と 81%、後期は 16%と 84%で、年間を通じて事前予約の割合が多かった。確実に利用をしたいリピーターが一定数いることによるものと思われる。

＜表 6. 2019～2023 年度 利用者数変遷 ライティング＞

		2019	2020	2021	2022	**2023**
前期	延べ	348	42	115	155	**185**
	個別対応	146	42(22)	115(25)	62(31)	**103(49)**
	セミナー	202	-	-	93	**82**
後期	延べ	92	47	67	59	**91**
	個別対応	78	47(42)	67(47)	59(43)	**91(53)**
	セミナー	14	-	-	-	**-**
合計	延べ	440	89	182	214	**276**
	個別対応	224	89(64)	182(72)	121(74)	**194(102)**
	セミナー	216	-	-	93	**82**
予約枠数		-	175	346	147	**234**
予約枠充足率		-	50.9%	52.6%	82.0%	**74.4%**
合計（実数）		111	34	99	60	**74**

※セミナーの人数は、予約枠充足率及び実数には加算されていない。括弧内は「うち留学生」の数。

窓口以外の支援：

- 学生の SLA サポート利用の促進と、レポート作成の Tips 提供を目的に、引用方法、パラグラフライティング、文献収集の方法などを分かりやすく解説したポスターを作成し、SLA ラウンジおよび各講義棟に掲示した。

5）英会話支援：1on1 セッションの需要が高く、イベントも定期開催

実施形態

- 1 対 1 での個別対応型支援（1on1）は 1 セッション 30 分。事前予約制と drop in どちらの利用も可。
- 新規利用者獲得・利用促進および利用者同士の交流のため、複数人参加型のイベントである英会話カフェと、季節のテーマに関するウィークリーイベント「SLA カフェ Week to make the most of 夏休み」「Halloween Party in English」「Winter Holiday Event」を開催した。カフェイベントの定常化は後期から開始し、週 2～3 日の 13:30-17:10 の時間帯に対面 drop in 方式で実施した。ウィークリーイベントはカフェイベントの時間帯などに対面での事前予約方式で実施した。

利用傾向

- 昨年度比で、利用者延べ数・実数が増加。予約がほぼ毎日埋まる状況で、全学部・学年での利用があったが、特に学部 1 年生が多くみられた。また、学生の高い満足度が維持され、例年より多くのリピーターが利用した。
- 英会話カフェは年間 30 日開催をして延べ 58 人、ウィークリーイベントは年間 14 日開催をして延べ 56 人が参加。全学教育の英語科目を担当する複数の教員にも告知を依頼した。
- 対面とオンラインの利用比率は、前期は 62%と 38%、後期は 70%と 30%で、後期になって対面の利用がやや増加した。
- drop in と事前予約の比率は、前期は 18%と 82%、後期は 5%と 95%で、後期になって事前予約の利用が増加した。

＜表 7. 2019～2023 年度 利用者数変遷 英会話＞

		2019	2020	2021	2022	**2023**
前期	延べ	232	164	276	190	**220**
	1 on 1	44	119	243	113	**193**
	イベント	188	45	33	77	**27**
後期	延べ	217	271	201	88	**249**
	1 on 1	56	177	190	62	**162**
	イベント	161	94	11	26	**87**
合計	延べ	449	435	503	278	**469**
	1 on 1	100	296	433	175	**355**
	イベント	349	139	44	103	**114**
予約枠数		-	524	582	253	**397**
予約枠充足率		-	71.6%	78.8%	-	**80.6%**
合計（実数）		91	129	129	69	**141**

※イベントの人数は、予約枠充足率及び実数には加算されていない。

6）留学生向け日本語会話支援：1on1 セッションの需要が高く、カフェイベントも定期開催

実施形態

- 1 対 1 での個別対応型支援は、事前予約制で 1 セッション 30 分。対面とオンラインによる対応を利用者が選択できる。
- 16:30-17:10（16:20-17:00）の 40 分間で、複数の留学生が参加して実践的な日本語練習ができるカフェイベントを対面・drop in 方式で定期開催した。前期は 3 回、後期は月・火・金曜日に 18 回開催した。主なアクティビティはカードを用いたゲームで、ゲームの平易な日本語説明書も独自に作成した。

利用傾向

- 予約がほぼ毎日埋まる状況で、日本語能力の中上級者（日本語だけで会話できる、N1～2 レベル）を中心に、年間を通じて多くのリピーターが利用した。
- 所属学部・研究科は多様だが、文系・修士以上の学年の利用者が昨年度よりも増加した。
- 利用者の出身は中国が多いが、多様な国・地域出身の留学生が利用している。
- カフェイベントは年間 18 回開催し、延べ 77 名参加した。
- 対面とオンラインの利用比率は、前期は 49%と 51%、後期は 64%と 36%で、後期になって対面の利用がやや増加した。

<表 8. 2019～2023 年度 利用者数変遷 日本語会話>

		2019	2020	2021	2022	**2023**
前期	延べ	99	109	186	152	**145**
	1 on 1	-	109	116	123	**138**
	イベント	99	-	70	29	**7**
後期	延べ	144	180	163	118	**224**
	1 on 1	-	180	112	114	**154**
	イベント	144	-	51	4	**70**
合計	延べ	243	289	349	270	**369**
	1 on 1	-	289	228	237	**292**
	イベント	243	-	121	33	**77**
予約枠数		-	390	319	329	**374**
予約枠充足率		-	74.1%	71.5%	72.0%	**77.5%**
合計（実数）		-	111	75	67	**86**

※イベントの人数は、予約枠充足率及び実数には加算されていない。

7）企画 SLA によるイベント：哲学カフェと美術館企画を軸に、参加者の安定的な呼び込みに成功

- イベントの目的と内容を分かりやすく設定した。また、SLA ラウンジ内のホワイトボードや X でイベント内容関連のミニ企画を実施する「動線づくり」と、類似イベントを継続開催する「フォローアップ」の機会を増やしたことで、参加者を安定的に呼び込むことができた。
- 留学生は参加者全体の約 25%を占めており、英語を用いた美術鑑賞やアートを介したコミュニケーションを実施した美術館企画に多くの参加があった。

<表 9. 2019～2023 年度 企画担当 SLA 主催イベント参加者数 企画>

	2019	2020	2021	2022	**2023**
前期 延べ	10	92	70	54	**77**
後期 延べ	122	81	45	56	**106**
合計 延べ	132	173	115	110	**183**
イベント開催回数	18	23	23	19	**22**

<表 10. 2023 年度 企画 SLA 主催イベント一覧>

	イベント名	実施日	実施時間	参加数	うち留学生
〇哲学カフェ関連企画					
1	高知大学との合同哲学カフェ＠オンライン	7 月 12 日（水）	19:00-20:30	15	3
2	高知大学との合同哲学カフェ＠オンライン	10 月 30 日（水）	19:00-20:30	14	0
3	かんがえるソファ	11 月 15 日（水）	16:20-17:50	12	3
4	かんがえるソファ	12 月 13 日（水）	16:20-17:50	3	0
5	高知大学との合同哲学カフェ＠オンライン	12 月 20 日（水）	19:00-20:30	4	0
6	かんがえるソファ	12 月 25 日（月）	16:20-17:50	5	2
7	かんがえるソファ	1 月 10 日（水）	16:20-17:50	6	2
8	かんがえるソファ	1 月 15 日（月）	16:20-17:50	5	2
9	高知大学との合同哲学カフェ＠オンライン	1 月 29 日（月）	19:00-20:30	7	1
〇美術館学芸員との合同企画					
10	美術館クイズラリー	4 月 19 日（水）	14:45-16:00	11	0
11	美術館で国際交流しよう！	6 月 13 日（火）	14:45-17:45	12	7
12	美術館で国際交流しよう！	6 月 15 日（木）	14:45-17:45	13	8
13	かたちをさがす＠東北大	8 月 4 日（金）	10:00-12:00	8	5
14	「みる」を観察する	12 月 11 日（月）	15:00-16:30	6	2
15	「みる」を観察する	12 月 18 日（月）	15:00-16:30	10	2
〇ビブリオ関連企画					
16	読書会イベント”問い”で深める読書 入門編	8 月 4 日（金）	15:00-17:00	6	2
17	全国大学ビブリオバトル 2023 予選	10 月 25 日（月）	18:00-19:30	28	0
18	ビブリオトーク	12 月 4 日（月）	16:30-17:50	5	0
〇その他企画					
19	英語のお悩み相談会	5 月 17 日（水）	16:20-17:20	3	1
20	グループディスカッション入門編	6 月 14 日（水）	15:00-16:30	5	0
21	グループディスカッション実践編	7 月 12 日（水）	16:00 - 17:30	4	4
22	Productivity System@オンライン	1 月 22 日（月）	15:00-17:00	1	0
			合計	**183 名**	**44 名**

- 哲学カフェ関連企画：日々の暮らしの中で疑問に思っている、正解が決まっていない「問い」について、年齢や肩書きにとらわれずに気楽に・じっくり語り合い、考えるイベント。SLA のファシリテーションのもと、参加者が身近なテーマについて話し合い、聴き合う場を提供する。学内でおこなう「かんがえるソファ」と、高校生、社会人、学外大学生などの多様な参加者と対話を深める「合同哲学カフェ」を開催した。
- 宮城県美術館学芸員との合同企画：美術館学芸員を講師に招き、美術の楽しみ方を知り、アートを触媒にして自分自身が学びを得るイベント。美術館の見どころを体感する、英語で美術鑑賞を

する、素材から未知のモノを創る、アートをミる（見る・観る・視る）ことの意味を探るといった多彩なコンテンツを提供した。

- ビブリオ関連企画：SLA がビブリオバトル公式予選会のホストを務めたほか、本の読み方や読書の面白さを学び知るイベントを開催した。
- その他企画：英語の学習相談、グループディスカッションとタイム・マネジメントの理論と方法を学び体験するワークショップをおこなった。

8）利用学生の声：高い満足度を維持、問題解決を越えて「学びの主体」を育む支援へ

- 前後期を通じて、高い利用満足度が得られた（以下の表は、100 点満点／個別対応・1on1 のみでイベントは除く）。

＜表 11. 2023 年度 利用満足度の平均点と回答数＞

	前期平均	前期回答数	後期平均	後期回答数
物理	98.7	26	98.8	8
数学	98.1	63	100	22
化学	98.9	35	94.4	28
自然科学総合実験	100	11	97.1	7
数学物理学演習	100	4	100	1
ライティング	99.1	62	99.3	56
英会話	97.9	105	97.9	72
日本語会話	98.5	84	98.6	76
合計		390 件		270 件

＜表 12. 2023 年度後期 利用学生アンケート(一部)＞

【理系科目】真摯になって考えてくださった。今習っている事の発展的な内容まで教えてくださった。/ 問題の解法の指針を一緒に考えていただけたのみならず、数式の定義のイメージに返って教えていただき、質問前より理解が深まった。/ 2 変数関数について、図的なイメージを持つことができました。テストに向けてモチベーションが上がりました。ありがとうございました。/ 曖昧にしていたところを丁寧に概念を例を挙げながら説明していただいて非常にスッキリしました。/ 手を変え品を変え、様々な説明をしてくださいました。90 分弱掛かってしまいましたが、丁寧に教えてくださいました。/ 空間把握能力が著しく乏しい私でも何とか説明できるようになるまで教えてくださいました。/ 細かい疑問が沢山あって、レポートが進まず困っていました。SLA さんのおかげで、全て解決しました。うまくまとまってないことを話すと、私が自分で答えに辿り着けるように誘導してくれました。おかげで、レポート完成のためにすべき事を把握できました。本当にありがとうございました。
【ライティング】執筆中の文章を見ていただいたので相談材料が少なかったが、現時点で導いただけるなかで最大限のアドバイスがいただけた。/ 自分では気づけない点をご指摘してくださり助かりました。/ 教授のコメントに沿ってどこをどう変えればいいか丁寧に見てくださったのでとてもありがたかったです。タイピングミスの見直しの仕方も教えて頂いたので、完成したらやってみようと思います。
【英語】表現がわからないときも笑顔で待ってくれて、助け舟も出していただいて、かつたくさん話題を振ってもらったので充実した 30 分だった。ありがとうございました。/ 今回は主に留学のご相談がしたくて、利用させていただいたのですが、どの質問にも親身になって答えてくださいました。留学経験があるからこそできるお話もしてくださり、とてもためになりました。/ 最近英語勉強のモチベーションが低下していたため、良い刺激になりました。/ 英会話をするという目的の達成だけでなく、SAP で行くところのおすすめの所などの話題で盛り上がれた事が良かったです。

【日本語】日本の政治と社会構造についてたくさん勉強になっていて、新しい言葉も学びました。/ 難しいなところで話すとき、先生からちゃんと手伝って、どうやって伝えるのは分かるになります、その上話しが楽しかった。今度もうこういうクラスで参加したい。/ 先生が優しいです。私の日本語が苦手でも、先生は辛抱強く聞いてくれました。
【企画】自分のやり方が先良ではなくどうアップデートした方が良いか分かった。/ 自分の問題意識とは違った角度から意見が飛んでくるので自分の発想の狭さや偏りに気づけた。/ デジタルとアナログの違いで「本当に同じものと言えるか」という哲学的なところまで考えられたので充実しました。/ 美術に関してあまり知らなくても新しい視点を多くの人と関わることで得ることが出来た。

9）学習情報の発信

X（旧 Twitter）（@sla_tomosodachi）や SNS での学習情報の発信

- フォロワー数は 1,956 名（2024 年 3 月 10 日現在）。
- 物理・化学：主に 1 年生に向けて、参考になる教科書の紹介、プログラミングの問題解決、化学 A/C のチェックテストなど、学びに役立つ情報を投稿。多いものでは 4000 件の閲覧数があった。
- 英語：日常会話の中で使える便利なフレーズやおすすめの学習方法、イベント案内を X（@SLAenglish）で発信した。
- 日本語：日本語部会の公式 LINE を独自に運用し、カフェイベントのお知らせや日本語のフレーズ紹介を不定期に配信した。
- 企画：SLA 主催イベント案内や大学生活に役立つ情報を X（@sla_event）で発信した。イベント参加者を任意で Slack ワークスペースに勧誘し、参加者間交流を促すオンラインコミュニティの構築を試み、イベント案内もおこなった。

ホームページ（http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/）のリニューアル（2024 年 3 月下旬～）

- 視認性の高いレイアウトに変更し、SLA 混雑状況をリアルタイムで表示できる仕組みを整えた。
- レポート作成の要点を整理した記事を新たに作成するなど、学習 Tips を充実させた。
- これまで毎年度発刊していた『SLA SUPPORT GUIDE BOOK』の内容を HP に移行し、SLA から新入生に送るメッセージや分野別学習のヒント、SLA ラウンジの案内を HP に掲載した。
- センター旧 HP ではブログを月に数回更新し、SLA の利用案内やイベント告知をしたほか、SLA 対応可能科目のスケジュールを毎週更新し、利用しやすくする工夫を図った。

Instagram（https://www.instagram.com/center_for_learning_support）の運用開始

- フォロワー数は 73 名（2024 年 3 月 10 日現在）。
- Instagram を使用している学生（留学生を含む）や学生コミュニティにアプローチする目的で、SLA 利用案内やイベント案内を発信した。

センター公式 LINE アカウント（https://lin.ee/C2i6o92）の運用開始

- 予約サイト（実際の運用は 2024 年度から）と連携させることにより、友だち追加した学生は SLA 利用の事前予約・キャンセルと、リマインド確認が LINE 上で容易におこなえるようになった。
- イベント案内やセンターからのお知らせを定期配信する準備を整えた。

講義棟や M 棟内でのポスターやチラシ掲示

- SLA の周知・利用促進のため、イベント・対応案内や学びのヒントを、主に川内北キャンパス講義棟と SLA ラウンジ内、学内掲示板に掲示した（以下にポスターの一部を掲示）。
- SLA ラウンジ内では学習内容をまとめたポスター掲示や、ホワイトボード掲示もおこなった。

10）SLA 研修

活動説明会・活動報告会の実施

- 前期　　4/6 前期活動説明会（対面・オンライン開催）、8/8 前期活動報告会（〃）
- 後期　　10/10 後期活動説明会（対面・オンライン開催）、2/14 活動報告会（〃）

11)『SLA サポート利用ガイド』の作成

- 全学部 1 年生に配布。学習支援センターの利用案内・利用者の声を見開き 1 枚で紹介。

3. 歴代センター教員による論考

SLA と私の思い出

ー「働きかける/応える」「個/集団」の２つの循環のなかでー

学習支援センター　助教　　西塚 孝平

１．流動的なアイデンティティのために

昨年度よりセンター年報では、歴代センタースタッフが SLA マネジメント業務で心がけてきた行為の成果と課題をオートエスノグラフィー（自己再帰的・内省的記録）として叙述し、実践知を蓄積および継承する試みを始めた（縣，2023；中島，2023）。私たちスタッフの関心は、SLA という制度、コミュニティ、そして担い手が学内の学習支援にどれだけ貢献しているのかを検証するといった、「SLA と利用学生」「SLA と SLA」「利用学生と利用学生」により創り出される学びだけにとどまらない。彼らの諸活動を可能にしている環境が学習にとって最適なものとなるよう常に目を配り、ネガティブな事実を受けとめ、ポジティブな変化を学習支援システム全体に行き渡らせる。そのような「スタッフと SLA」の関わりを豊かにしていくこともまた業務の根幹であり、それによって初めて学習支援システムに持続発展性を与えることができる。しかしながら、良くも悪くも「研究する側に立つ」スタッフは SLA を自分自身とは切り離して考えるという性格上、自らのふるまいは考察対象からしばしば外されがちであり[注1)]、また、「スタッフと SLA」の在りようは記録よりも口頭伝承で引き継がれるか、経験を重ねていく過程で自分なりに最適解を導出するスタイルがとられてきた。そうしたなかで、当事者自身が経験を振り返り、綴ることは、「何が SLA の活動を可能にしているのか」、「どのような環境が優れたチュータリングを引き出すのか」にアプローチするための１つの有効な手段になりうるものである。

この記録では、私自身による働きかけやそれによって生じた出来事の最終的な価値判断は控える。この場で語られるひとつひとつの行為の正しさは、行為の担い手（私）、SLA、センター他スタッフの個性（信念を含む）、能力（ゆとりを含む）、互いの関係性、立ちはだかる問題状況に応じて認められ否定されるものである。また、その行為を別な文脈で試そうとする人の個性、能力、その人を取り囲む諸々の外的要因によって、正しさを捉える尺度も正しさの程度も変わりうる。したがって、普遍的に優れた実践を探すよりも、それぞれの人や状況に適した実践が良いものになるとの前提に立ち、あらゆる人々に対してここでの行為を理解できる文脈を提供することが重要である。価値判断の意図的な留保は、新たなチュータリング理論やマネジメント方法論の吸収と、社会、大学、学生の要求充足を通じて学習支援システムを更新し続ける、センター特有の「流動的なアイデンティティ」（Sanford & Steiner, 2021: 13）を確保することにもつながるのではないだろうか。

２．私について

私は 2023 年度の 1 年間、スタッフとして SLA マネジメント業務を担当した。前任の中島啓貴先生と同じく、私も SLA に所属していた時期があり、修士 1 年次だった 2018 年度前期から博士 2 年次の 2021 年度前期まで、企画 SLA（2024 年度より SCC：Student Community College に活動母体を移行）として、哲学カフェ「かんがえるソファ」の企画運営や部会長を務めていた。恥ずかしながら学部生の頃は SLA を知らずにいた私であったが、学習支援に全力を傾ける学生主体コミュニティが利用学生の大学生活や人生までも好転させるほどの活力に満ち溢れたチームであるという事実を、SLA に入ってから知ることになる。

そこで哲学対話に出会い、ファシリテーションや対話の実践を積んだ。哲学対話が上手くできたと感じることはそう多くはなかったが、仲間の言葉を借りながら曖昧な思考を明晰にしていく過程を全員で体験し、参加者に満足してもらえたとき、さらなるモヤモヤを抱えながら帰ってもらったとき、そしてリピーターさんが来てくれたときは嬉しかった。私自身の教育学研究を発展させる機会にも恵まれ、「評価はみんなで創るもの」というアイディアを実証的につかみとることもできた。

SLA は自身を成長させてくれる場であったと同時に、どこか異質な感覚も抱いていた。私はそれまでもワークショップの企画と進行を課外で取り組んできていたが、それとはまったく異なる使命と責任を感じていた。今でこそ、情報共有や議論ができる部会別ミーティングや、学習支援への理解と SLA 間の交流を深める活動説明会・報告会は有意義な場であると強く認識しているが、当時はそうした諸活動への参加に多少なりともプレッシャーを感じており、どちらかといえば消極的な側に立っていたと思う。私の力量不足によるものだが、新しい企画のアイディアを気軽に出し合って協力的にかたちづくる雰囲気を部会内になかなか醸成できずにいた。企画 SLA のメンバーが短期間のうちに辞めてしまうときはどこか自分のせいであるような気がして、悩んだときもあった。

このような SLA に対するまなざしは極めて個人的なものである。あるライティング SLA は「他学部や他研究科の SLA と交流できたり研究の中休みができたりするから SLA は貴重な場所だ」とスタッフになった私に教えてくれた。SLA をしていた頃は「学生の居場所を作れるような活動をしていきたい」と自分の SLA プロフィール文に書いていたが、SLA が私にとって居心地の良い場所であってほしいとはあまり考えていなかったことにそのとき気がついた。コミュニケーションに自信がなく、何かあると 1 人で抱え込みがちで、人の顔色をうかがいながら行動する私は、遠慮しすぎていたのか臆病だったのか、当時のスタッフや他の SLA とのあいだに埋め難い距離を感じていたのかもしれない。SLA は卒業をするときに、SLA で学んだことや、残る SLA へのメッセージを伝え残すプレゼンテーションを活動報告会で披露する。当然私にもその出番がやってきたのだが、SLA の心に届くような言葉をどうしても編むことができなかった。オンライン報告会の終盤に設けられていたプレゼンタイムが始まる直前に、私は無言でその場から逃げ出した。

酸いも甘いも噛み分けるほどではないが、あの頃の経験や感覚がなぜ起きたのだろうかという問いは、常に SLA マネジメント業務の根っこの部分にあったように思う。SLA にとって快適だと思える環境の構

築は、過去の私が活動しやすいと思える環境の実現と明らかに重なるところがあった。逆にいえば、ある SLA にとっては活動しづらくなるリスクが生じるため、自分の型にはめようとして SLA の動きに制限をかけることのないように、SLA からは常にフィードバックを受け取れる状況を作った。そして、SLA との関わりには、私自身の性格や得手不得手が少なからず影響することもまた言及しておかねばならない。私たちは他者との社会的相互作用を起こすさいに、表面上の言葉や行為を支えている自他の信念や性格も推論でき、強く実感できるときもある。人との関係性の強度を決定する要因は幅広く考えられるため、意識したことや心がけたことを書き手の顔が見えるように記録することが、前述の「行為を理解できる文脈を提供する」ことにつながるのだろう。

他者からみたときの自分の姿もこの記録に反映させると、「行為を理解できる文脈」をより鮮明に伝えることができる。これまで SLA には、前期と後期の期末になると「活動振り返りシート」を記入してもらい、窓口対応の自己評価と目標の振り返り、自身の成長などを言葉にしてもらっている。私はそのシートに「サポ室スタッフとの関わり（スタッフとの関わりのなかで印象に残っていること）」という質問項目を新たに追加し、私たちスタッフの日々の行為がどのように受け止められているのかを把握することにした。そのシートの記述や、SLA との実際のやりとりも頼りにして、以下に私が SLA マネジメント業務で心がけてきた事柄をまとめたい。

３．歴史を活かす

2023 年度は、COVID-19 により個別対応中心のオンライン支援を余儀なくされていた頃から、COVID-19 流行時に確立させた手法を取り入れつつ、ラーニングコミュニティ形成を促す対面支援を充実させる時期に差し掛かっていた。2022 年度の状況を簡単に述べると、理系科目支援は前期途中から対面での当日受付制（ドロップイン）に戻して活動しており、年間を通じて初年次学生の利用が低調ではあったが SNS や SLA ラウンジ内での情報発信に努めていた。ライティング、英会話、留学生向け日本語会話支援は現状の事前予約制オンライン対応に加え、当日受付制を一部再開したほか、企画 SLA の活動も含めて、学部と学年の垣根を越えて参加者間の学び合いを促す各種イベントを成功させていた。SLA 向け研修の多くはオンラインで開催され、勤務開始時の始礼は全員 SLA ラウンジに集合していたが Meet で実施する方式であった。こうした前年度までの成果と部会ごとの特徴を踏まえ、スタッフが交代しても SLA 活動がスムーズに進むよう工夫を凝らすことが求められていた。

私は前年度までの取り組みを一部踏襲し、良いものを引き継ごうとした。Meet 始礼は活動写真や Google Drive 上にある資料を共有しやすくなると考え、このやり方を継続した。前任の中島啓貴先生が毎日の始礼で「学習支援ハンドブック」を紹介するミニ研修をしていたことを知り、モジュール的に設けることは良案と感じた私は、「学習支援ハンドブック」内の理系科目向けの対応 Tips を言語系科目にも当てはまるように加筆修正したうえで、始礼で紹介することにした。ある数学 SLA は 2023 年後期の活動振り返りシートに、「毎回の始礼で、対応 TIPS を紹介していただけるのが大変勉強になりました。対応の質の向上のために、普段あまり言語化できないことを成文化された形で学べるので、血肉になったと思います。」と答えてくれている。また、SLA の宣伝・広報ポスター類はスタッフがその都度作成していたが、過去ポスターの一部表現を変えて再利用し、業務の効率化を図った。

一方で、SLA 業務をひととおり確認し、SLA 文庫、自主ゼミ、SLA ラウンジの環境整備、広報など、対面活動中心に戻すにあたり準備を要する業務もいくつかあった。特に 2022 年度は広報面で課題が残ったようだった。学生実験棟に貼られていた SLA 利用案内ポスターは COVID-19 以前のものだったため新しく差し替え、教育・学生総合支援センター付近の電光掲示板や川内駅前の掲示板、SLA ラウンジ内モニターなど SLA を周知できるスペースを積極的に開拓し、活用した。旧 SLA ホームページのブログには SLA 利用案内や活動説明会なども数年前に投稿されていたことを確認し、そういった SLA を身近に感じてもらえるようなブログ投稿を不定期に更新した。また、部会別およびイベント別の広報に関する学務情報システムの投稿回数を増やし、旧予約サイトの閲覧総数を前年度の 2 倍以上に伸ばした。そして、SLA サポート室や SLA ラウンジ内にある古い張り紙や過去の掲示物を一掃し、意味のあるものだけを残して新しいものに変えた。

SLA についても、理系部会は過去のホワイトボード・SNS 発信で使用した成果物を再活用していたが、活動が対面からオンラインへ、データ保存が紙媒体と HDD ドライブから Google Classroom へと変化していくなかで、成果物の引き継ぎがしづらくなってきている印象を受けた。英語 SLA には、過去に作成した英会話のアクティビティ教材や過去に実施したイベントの資料を、ライティング SLA には、数年前の SLA がまとめた対応 Tips を示し、参考にできるのではと提案した。2023 年度後期にはデータの整理と引き継ぎ、利活用について各部会で話を進めてもらった。

SLA サポート室のスタッフや過去の SLA の活動を知るために、センター年報に加えて、サポート室内とラウンジ内にある資料、川北合同研究棟資料室内の書類、HDD ドライブや Google Classroom のデータ、SNS の投稿、メーリングリストの履歴をずいぶんと漁った。10 年以上にわたる SLA 活動で生み出されてきた膨大な成果物の一部が眠ったままになっており、その多くは今でも活かせるものだと思った。例えば、過去に SLA が自らの専門分野や研究内容を紹介する公開型イベントを開催していたが、同じ学習支援センターの学生コミュニティである SCC で復刻できないか目下検討を進めている。より良い学習支援のために、物事をゼロから創造するのではなく、過去の（実験的なものも含めた）成果物から学び、再編成する視点は意外と盲点になっている。

４．開かれた存在になる

スタッフと SLA の関係性は、縣先生（2023）と中島先生（2023）が述べているとおり、フラットな「仕事上のパートナー」であり、SLA に「指示を出しすぎず自分たちで考えることを阻害しない」ことだと私も考えている。つまずきの石を予め取り除いて安全な道を歩ませたり、批判をして可能性の芽をむやみに摘み取ったりすると、活動への責任感が薄らぎ、スタッフの顔色をうかがうようになり、自発性とアイディアが生まれにくい状態になる。私が企画 SLA にいた頃は、哲学カフェやアートイベント以外の企画がなかなか生まれなかった。メンバーが、哲学対話にディスカッションの要素を加え、社会課題を対話のテーマにしたらどうかという案を出してくれたときは、あえて「なぜそれをするのか」ではなく「どうしたらそれを実現できるか」を優先的に考えた。その経験から、アイディアの根底にあるもの（その人が大事だと思っていることもその中によく埋め込まれている）をひっくり返すのではなく、そのアイディアに賛同し協力してかたちづくる人でいたいと思うとともに、学びは実験であることも痛感した。私は「開かれた存在」として、経験的に先回りして言動の価値を推論せず、過剰介入を避けて SLA が委縮しないように気を配り、常に味方だと感じてもらえるように努めた。程度別の働きかけは次のような

ものである。

SLA への弱い働きかけの 1 つとして、選択と決定を SLA に促した。ライティング SLA から利用者ノート（利用者の個人カルテ）をどう活用すれば良いか相談を受け、「英語部会や日本語部会で運用しているカルテの活用方法をブリーフミーティング（対応終了時の部会間振り返り）で聞いてみて、参考にしてみると良いのではないか」と提案したことがあった。SLA が自ら考え、SLA 間で連携できる条件が揃っていると判断した場合には自身で方向性を探し決めてもらうようにし、「こうしたほうが良い」と伝えるよりも「任せるよ」や「どっちが良い？」といった委ねる声かけを好んで使った。

中程度の働きかけとして、SLA のこだわりを見極め、それを保護した。私には、力を入れて取り組んでいる物事が誰かに否定されると本人は不快な気分になる、という先入観がある。SLA 個々の専門性や強みを見つけ、長所とした。こだわりを見極めるのは、さほどこだわらないところに対して積極的に関わるためでもあった。数学 SLA の説明選手権イベント企画注２）では、進行やコンテンツについて多くの時間を費やしていた。私はそこにあまり触れず、簡素に仕上げられていたイベント参加者アンケートを勝手に修正し、回答率を上げるためにアンケートが匿名でおこなわれることやアンケートの使用目的を明記した。自分たちのキャパシティが溢れている状況で他人が「こうしたほうが良い」と伝えると、「そこまで言うならあなたがやってくれ」と私なら思う。SLA には手を加えたことを後で報告し問題がなかったか尋ねてみたが、感謝をされ不快な思いはしていない様子だった。

比較的強い働きかけでは、自分のフィードバックにチャリタブルな性格を与えた。2023 年度は参加型イベントやワークショップなどの発信系企画に力を入れたこともあり、SLA から提案を受けることが多くあった。私は SLA を尊重できるような接し方として、SLA の考えていることが部分的に正しいと思い込み、その場合に何が問題になり、その問題をどう解決できるかを一緒に考えることをした。提案されたアイディアを打ち壊し根本から否定するのではなく、アイディアを活かす方法を探る。このような考え方は、「チャリタブル・リーディング（チャリタブルに相手の意見を読むこと）の対話への応用」でもあった。チャリタブル・リーディングとは、「相手の論の方向性に賛同を示しつつ、さらにその論の中で抜け落ちている論をこちら側から補うような視点やアイディアを提供する（施す）」ことであり、「相手の主張を全否定する態度でもなく、相手の主張を全肯定する態度でもない」（田中，2016；山野，2021）。「そうではなくこうするともっと良くなる」ではなく、「それをやったうえでこれもするともっと良くなる」という支援的で協調的な目標志向型の対話は、クリティカルな態度が苦手な私の性分にも合い、SLA の自律性とモチベーションを高める方法として多用した。

山野（2021）はチャリタブルな問いの例として次の 2 つを挙げている。

- もしその主張が正しいとすると、〇〇の部分を説明できなくなってしまうと思うのですが、その点についてはどう思われますか？
- 一体どのような立場や前提を取れば、相手の言っていることを合理的に理解できるようになるのだろうか？

クリティカルな態度は、そのアイディアに意味や価値があるかどうかを判定するの対して、チャリタブルな態度はアイディアに意味を与え価値を高めようと働きかける。私は上記 2 つの問いをもっと柔らかい表現に直して、「こういう場合もあるだろうからその時の対処法も考えたほうが良い」とか「その考え

にこれも付け加えるともっと良くなるのでは？」と伝えた。ある企画 SLA は、「西塚さんのフィードバックが印象に残っています。『〇〇さんは、全体を見れる人だね』と言ってくださったことで、企画の中での自分の立ち位置が見えました。また、西塚さんにアイディアを話すと、方法や実行案をフィードバックしていただきました。」と記しており、そのアイディアをワークショップとして実現させていた。

一方で、こうしたチャリタブルな姿勢から発露する過度な優しさのようなものが、かえってスタッフへの依存を高め、自律的に動かなくなることを SLA は指摘してくれてもいる。「西塚先生は、こっちにすごい合わせて貰えるので、こちら側で計画が出来ていたら、非常に上手い具合に行くのですが、新入りの SLA だと、とりあえず西塚先生に許可貰おう、西塚先生の意見を聞こうと、素直なタイプ程なってしまう気がします。なので、もうちょっと新人 SLA ほど突き放した（もっと自分の考えを引き出すような）対応をして頂いた方が、個人的には嬉しいです」。この活動振り返りシートの記述を見て、SLA が受け身になるという逆効果の事実に驚いたが、チャリタブルな態度に部分的な従属性が伴っていたのだとすれば、出てきたアイディアを一緒にふくらませる作業はできていたとしても、アイディアを創り出すきっかけを作る実践をチャリタブルという概念に落とし込むことができていなかったといえる。

私はそれ以外に、強い提案をして明確に方向づけることも時折あった。学生目線に合わせた関わりはコストと時間が過剰にかかる懸念があり、効率の悪さが活動の推進を阻害してしまう可能性がある。説明選手権イベントを企画している数学 SLA には、参加者から質問が大量に来たときの対処法をどうするか事前に考えたほうが良いと伝えた。もしそれが本当に起きてしまうと、当日進行に大きな支障が出ると思ったからである。今活動している物事が立ちいかなくなるような事態になりうる、もしくは実際に陥ったときや、明らかな事実誤認やミスがあるときは、曖昧な態度を避けた。化学 SLA は「チェックテスト等の部会資料の発信の方法や、普段の活動の中で困ったことがあった際に的確にご対応いただいた点が嬉しかったです。他の SLA の困りごとに対応していく際の自身の姿勢としてぜひ参考にしていこうと思いました。」と書いている。

フィードバックの良悪を決める基準には内容の妥当性やタイミングなどが考えられるが、フィードバックの受け手が送り手のことを味方だと思っているかどうかという認識論的で情意的な観点も含まれている。例えば、「後出しの指摘」は関係性を引き裂く行為の 1 つになる。私が高校生のとき、オリジナルのテレビ番組を作るワークショップに参加した経験からそれを学んだ。グループ内で一番学年が上だった私は進行役を務めることになったが、1 時間を費やしても、既存番組の構成を真似しただけの番組にしかならなかった。各グループの全体発表後にある講評で、各グループに数人ずつ配置されていた見守り役の大人（企画側）の 1 人が、私たちが作った番組がいかにひどい作品であるかを長々と語った。私は「なぜそれを話し合いの途中で言ってくれなかったのか」「なぜ彼は私たちに協力してくれなかったのか」と裏切りのようなものを感じ、会が終わるまで私はその大人をずっと睨みつけていた。このような他人事のように聞こえる指摘は、タイミングを誤っている以前に、受け手側の尊厳を傷つけるほどの暴力性を帯びている。SLA では諸活動の振り返りをたびたびおこなうが、私はその活動をしたからこそ気づき得られた事柄だけを改善点として伝えようとした。そうした改善点には「SLA が何をすべきだったのか」ではなく「スタッフとしての私に何ができるはずだったのか」が込められているからである。

５．応える側に立つ

「仕事上のパートナー」や「指示を出しすぎない」という心がけは、ともすればスタッフは SLA に働

きかける立場であることを示唆しているが、スタッフと SLA の関係が相互作用的であるならば、スタッフが SLA の声に応答する立場でもあることを十分考慮しておく必要がある。どのように応えてみせるかもまた信頼関係の構築と関わっており、スタッフとしての力量が試される瞬間ではないだろうか。正確に応えることができたと感じるときもあれば失敗したと感じたときもあるが、このことに当てはまる経験をいくつか挙げてみたい。

はじめに、上手くいかなかった場面を書き留めておく。ある日、化学 SLA が波動関数をテーマにした説明選手権を実施した。SLA がそれぞれ発表し質疑応答もひととおり済ませた後、ある SLA が「先生は私たちの発表を聞いてどう思いましたか？」と私に問いを投げかけた。私を試そうとする意図はなく、素朴な疑問だったのだと思う。だが、文系の私は大した答えを持ち合わせていなかったため、非常に困惑し、本当にありきたりなことしか言えなかった記憶がある。そして、スタッフとしての素質を問われているような気持ちになったこともよく覚えている。同じようなことはたびたび起きた。部会ミーティングが終わる間際に、「先生から何かありませんか？」と SLA から聞かれたことが何度かあったが、私にとっては「ここは外してはいけない」と緊張する一幕だった。パターンや習慣が身につけば徐々に対応の準備ができるようになるが、中身のある言葉を紡ぐための即興力が求められ、それを苦手とする私は最後まで苦労していた。

SLA への応答は上記のように予兆もなく唐突に要求されるケースもあるが、それ以外にも応答の環境を意図的に設けたり、自分自身に問われていることであると積極的に解釈したり、SLA との交流のなかで私が「応答できる者」であることを示そうすることによって、応える側に立つ者としての役割を果たそうとした。

1 つ目はハード面で、フィードバックを受け取る環境を整えた。活動振り返りシートにも項目があるが、スタッフに対するリクエストや意見を受け付ける欄を様々に設定した。一番多く意見が書き込まれたのは、ブリーフミーティングで記入するフォームだった。そこには、予約サイトを改善してほしい、始礼資料をもっと見やすくしてほしい、始礼時間が長くて最初の準備時間が取れないなど色々なことが報告された。SLA も直接言いづらいこともあれば、わざわざ言うまでもないが一応報告しておきたいこともあるだろう。このフォームは匿名で記録されるため、気負いなくコメントできる点で口頭とは違う良さがある。私は SLA の要求を満たせるように、予約サイトの注意書きをすぐに直し、始礼資料をできるだけ見やすく整え、始礼が 5 分で終わるように毎日説明の事前練習をした。

2 つ目は窓口対応や SLA サポート活動のソフト面で、SLA が今何に取り組み、これから何をしようと計画しているのかを把握し、自分自身がすべきこともその中に含まれていると解釈した。各部会が毎日書き溜めている部会日誌や日報には必ず目を通し、そこで挙がった疑問点などに対してコメントを書き残すなどした。また、部会ミーティングでの議論を受けて、自分で行動できるところは勝手に動き始めた。日本語 SLA は「西塚さんは私たちが円滑に働けるように色々気遣ってくださいました。部会 MTG でポロっと話したことも、西塚さんに改めて報告しなくても対応してくださっていて、助かりました。」と活動振り返りシートに書いてくれている。

3 つ目もソフト面だが、できるかぎり SLA と接する機会を作り、私が「応答できる者」であることを示そうとした。活動振り返りシートの記述を見ると、SLA は様々な場面でスタッフとの印象的な思い出を作っていたことが分かる。日本語 SLA は、「西塚さんは、たびたびスタッフを気にかけてくださり、私のパソコンが不具合を起こした時も余裕をもって対応してくださった。」と説明している。ある数学 SLA

は、「化粧室前の掲示板について議論を交わしたり、対応の合間にした雑談はとても楽しかったです。」と書いており、私と数人の SLA がホワイトボードの前で哲学対話をしたときの思い出を綴っている。別な数学 SLA は、「私が忘れものをした際に、結局私のリュックの中にはいっていたのですが、相談すると見つかるまで学校のほうでも探してくださり、優しい方だなと感じました。」と書いてくれている。SLA は活動全体を通じてスタッフがどんな人物であるかを定義づけており、具体的には、どのように自身の要求に応えたのかという視点から私たちを価値づけている。

私は SLA からどのように見られているのかを意識し、的確な聴解・読解と応答を試みようとしていた。前述の「働きかける」と「応える」が循環を始めると、より良い学習支援システムの構築に向かうだけではなく、SLA との信頼関係を結ぶきっかけになる。信頼は権威に代わるフィードバックの重要な授受要件である。「スタッフだから言うことをきこう」ではなく「あの人は頼りになる」と思ってもらえれば私の声が届きやすくなり、風通しの良い活動環境になると考えていた。信頼の悪い面があるとすれば、頼りになるがゆえに何でも鵜呑みにしてしまうリスクが生まれてしまい、これがチャリタブルな優しさの弊害と関係している可能性がある。

６．１人の声を全体に響かせる

私は、1 人が指摘する問題はその人自身に原因があるのではなく、問題を生み出しているシステムに由来していると考えていた。だからこそ、1 人の指摘や提案であっても誠実に応えるべき事項であった。そして、この前提は個のフィードバックを集団に還流させる根拠にもなった。

ブリーフミーティングで話し合った対応のコツや、ミーティング議事録、部会日誌、日報に記録されている事項のうち全員が知るべきと思ったものは漏れなく始礼資料に追加し続けた。期末には始礼資料が数ページにも及びかえって見づらくなってしまったのは反省しているが、始礼時間以外にも始礼資料を見てくれるものと信じて、余計な削除は施さなかった。2023 年度前期の活動振り返りシートに、日本語 SLA は「ブリーフミーティングの資料（西塚注：始礼資料）が変わり、先週に他の曜日から出た反省点や悩むところの解決法などの tips を紹介していただくことで、自身の活動に活かすことができた」と書いている。また、ライティング SLA が書き溜めていたカウンセリングスキルも全員に共有したい内容だと思い、始礼で一部紹介させてもらうことにした。

これまでも活動説明会後の振り返りでは、スタッフに向けたコメントを記述してもらっていたが、それらがどのようにスタッフに受け取られていたのかを SLA は知らないようだった。コメントには、説明会全体の時間配分が悪い、オンライン参加者は会場の会話が聞こえづらそうだった等の運営上の改善事項が忌憚なく寄せられる。SLA はマスク着用を任意としても良いのではないか、ディスカッションで話し合ったことがどう活かされるのか等の質問もたくさん記入してくれる。SLA がお互いに何を感じ考えながら活動しているのかを知るべきだと思い、私は説明会の感想と質疑応答を一覧表にして SLA に共有することにした。これには「こういうことは言って良いんだ」というフィードバックの許容範囲を知らせるねらいもあった。

このように、1 人の声をより広い文脈に位置づけることはスタッフだからこそできる役目でもある。個から集団につなげる回路と、全体で共有された情報ないし知識を個へ届けるための回路を両方整備できれば、対応スキルの向上、他部会の進捗把握、部会間の連携といった密度の濃い活動が促される。回路の設計は、SLA ひとりひとりが保有する情報の価値を増幅させ、その情報を SLA 全員が有効活用できるよ

うに編纂していく積極的な作業である。あるとき、日々のセッション対応の振り返りをしたいと英語 SLA は提案してくれた。賛成した私は、長い間更新されていなかった理系科目と言語系科目のピアレビューシート（対応前、中、後に気をつけ工夫するべき事柄を項目別に評価できるツール）を見直し、SLA 同士でも SLA 個人でも使えるように情報を修正した。私は始礼でシートの存在を伝え、評価項目を確認し、適宜手直してもらうように SLA にお願いした。作業に着手したのが 2023 年度の後期末だったため広く使用されるには至らなかったが、ライティング SLA と物理 SLA が 1 人ずつ試しに使用してくれた。私は「日々のセッション対応の振り返りをしましょう」と始礼で声をかけるだけでは SLA の心に刺さらず、ほとんど意味を成さないことを知っていた。そのため、情報共有以上の戦略的な働きかけが私の重要な業務になっていた。

７．モチベーションをアセスメントする

SLA は忙しい日々を送っている。研究や学業だけではなく、学内外アルバイト、インターンシップ、就職活動、ボランティアなどにも力を入れており、多忙な SLA は 1 週間経ってもメールが返ってこないときもある。大学院生はキャリアの悩みが増え、私もときどき話を聴かせてもらった。早ければ半年で SLA を卒業してしまうが、SLA をして良かったと思えるときまで活動を続けてほしいと私は考えている。モチベーションを把握、予察、調整する手立てをいくつか講じ、SLA も含めた活動全体のバランスの取れた生活を送ってもらうことを期待した。

SLA にはこれまで、半期ごとの活動説明会で、学習支援者としての目標と、SLA の運営に携わる者としての目標の 2 つを設定してもらっていた。目標の把握は、学習支援センターの重点目標および SLA の理念の理解度と、SLA の関心や課題意識を知るためにおこなう。その他に、目標には自分を映し出す鏡として、モチベーションを作る機能もある。私は 6 月と 12 月に SLA が目標の中間自己評価をする機会を設け、目標到達状況の確認を通じて残り 1 ヶ月間の活動のモチベーションを高めてもらおうと考えた。ある物理 SLA は、「今年度はリフレクションのタイミングが多く設けられていたので、自分の目標を再確認しながら活動に取り組めたことが良かったと思いました。」と書いてくれている。

期末の 7 月下旬と 1 月下旬には、活動振り返りシート上で目標の最終振り返りをおこなう。中間と最終の 2 回の振り返りから SLA の変容を捉えることもできた。ある日本語 SLA は、学習支援者としての目標に「利用者さんのゴールに沿った支援をする。ゴールの設定が特にない場合は一緒に考える。」を掲げていた。2023 年 12 月初旬の中間自己評価では、「利用者さんに SLA でやりたいことを聞きながら、現状の把握（日本語使用場面、日本語運用能力のレベル、どうなりたいか）を行った。30 分間に行いたいことを聞いてそれに沿った支援を行ったが、目標が達成されたかどうか自信がない。」と記述していた。2024 年 1 月下旬では、「ゴールがない利用者さん（主に日常会話が目的）に対して、Can-do でのゴールは立てられませんでした。日常会話の練習が目的の場合、話す話題によってゴールが異なり、それを立てることによって時間内にできることを狭めてしまう可能性があると考えられました。リピーターさんの場合、長期的な目標を一緒に考えることで毎回の支援にその目標を反映できると思いました。」と最終振り返りをしている。この記述の変化から、対応スキルを獲得していく過程の一部が読み取れる。

なるべくなら SLA ひとりひとりの声を直接聴くことが理想だが、1 週間のうちに SLA50 名全員とコミュニケーションをとることは叶わなかった。その代わり、ブリーフミーティングでの回答のほか、目標の中間自己評価で活動の疲労度を自己評価してもらい、改善の参考にした。「まったく疲れていない」と

答えた数学 SLA は「自分の能力内で解決できるものが多いので、疲れより達成感が多い」とその理由を説明している。その一方で、おおよそ半数の SLA が疲労を感じていた。「疲れるときもある」と回答した英語 SLA は「〇曜日はほとんど毎回予約でいっぱいになっているため、1 日 3 対応になっており、対応の間にヒアリングシートなどを記入する必要があるため、休憩の時間があまりない」と報告している。私はそれを知り、予約枠を減らしてドロップイン受付を増やし（ドロップインの利用は比較的少ない)、シフトを 2 名体制にしてカフェイベントの開催を増やした（カフェイベントのときはヒアリングシートの記入は不要)。同じく「疲れるときもある」と回答した化学 SLA からは、「対応が毎回 2 件から 3 件ほどあり、部会作業を取り組む時間が不足している。また、日にちによっては対応が追いつかないことがある。」との報告があった。そこで私は、学務情報システムや SNS に、特定の曜日と日時は混み合いがちで待たせる可能性があるため他曜日やなるべく早めの時間帯に利用することや、特に理系科目は課題の締切に余裕をもって利用をするように等の広報をときおり流し、利用学生の動きを調整しようとした。

SLA の調子を完全に整えることはできないとしても、SLA に合わせた環境の構築に努めることはできる。半年ごとに実施する活動継続希望調査時に、学部卒業・大学院修了に伴う就職や学内外進学、研究専念の理由以外で、つまり、スタッフへの不満、極度のストレス、事前に防げたはずのトラブルを理由に SLA を卒業する人がいないことに私は安堵した。すべての声に応えることができたわけではないが、絶えざる最適化の過程に身を置くことで SLA のモチベーションの維持と向上が達成されるのではないかと考えていた。

８．すべてのことが私に深く関係する

これまで述べてきた 5 つのカテゴリーに共通点があるとすれば、SLA で起きているすべてのことが私に深く関係しており、行為を喚起するということである。では、そのような態度にはどのような信念が前提としてあるのだろうか。良い成果が良い過程に基づいているとはかぎらないが、良い過程を踏めば必ず良い成果が得られる。異見や思いどおりにならない事態を積極的に吸収できれば、より良いものを追求できるはずである。けれども、自分の取り組みや考えが否定される感覚を持ちたくない人からしてみれば、異見との対峙にはある程度の抵抗やストレスを感じる。少なくとも私は、「学生を教える立場」から生まれるメンツ、プライド、意地を捨て（そもそもこうしたものに自覚的ではないが)、変化のきざしを素直に受け入れるようにした。問題の原因をその渦中にいる人間ではなく出来事に求めることで、恥ずかしさ、劣等感、自己嫌悪に苛まれる状態を防ぎ、関係者を協力的な仲間と捉えた。そうして、働きかけと応答、個と集団のあいだで起こる循環をより活発にしようとあれこれ試みていたのだと思う。

以上の SLA マネジメント業務の心がけは、私自身の取り組みのうち比較的共通性の高い要素を 5 つのカテゴリーにまとめたものであり、一部のエピソードは複数のカテゴリーにまたがる説明をしていたり、成果が十分に確認できていなかったりする。SLA のコメントは私の行為を認めてくれている一方で、なかにはそうではない内容もある。私とは相性の悪さを感じていた人もおそらくいただろう。いずれにせよ、ここで記した事柄は、ピア・サポート・プログラムにおけるスタッフの役割、ピア・サポート・プログラムの 1 つである SLA の特性注３)、スタッフの行為を含み入れた学習支援システムの持続発展性などを解析し検証するための素材になりうる。

SLA 制度ではこれまで 10 年以上、関係者（スタッフ、SLA、学生など）が各種ニーズに即応し、どの時期もそのときに見据える最適な学習支援システムの構築をめざして異なる活動を展開してきた。そし

て 2024 年 4 月には、学内外のあらゆる人々を包摂するような革新的な学習環境を創り出すことを通じて、人々の主体性と創造性を育み、コミュニティのレジリエンスを強化させることを使命とする学生コミュニティ SCC が学習支援センターに創設された。SCC は SLA から分離独立した組織では決してなく、両者は「ライフスタイルとしての学び」の価値を高め上げ、その活動と考え方を支え広めていく点で軌を一にしており、双方の交流の内部にシナジーの源泉がある。私は現在 SCC のコーディネーターとして彼らの活動環境の形成に携わっていると同時に、センタースタッフとして SLA との新しい関わり方を探求している。このことは私にとって、個と集団の関係で活動を捉えていた旧来の発想を超えて、集団と集団の関係性に対してより優れた介入を試みようとするまったく新しい挑戦である。

注釈

1）岩﨑（2023）は、初年次教育で学習支援に従事する学生スタッフ（LA : Learning Assistant）の育成方法および育成要件を明らかにするために大学教員にインタビューをおこない、カテゴリーの分類とカテゴリー間の関連を探っている。そのうち以下のカテゴリーは「教員に求められる事柄」に置き換えて考えることもできるだろう。1 つは「LA 同士で成長しあう場づくり」であり、具体的には「複数の LA で活動できる場をつくる」「先輩 LA と後輩 LA がともに活動できる場を作る」「授業以外に LA 活動の場を作る」ことが奨励されている。2 つ目は「教員と LA による調整と挑戦できる場づくり」であり、「授業目標や意図に関わる必要な情報を提供し、授業での LA による自発的な活動や提案を待つ」「教員が LA の行動を観察することで適宜助言を行い、LA と意思疎通を図る機会を持つ」「LA の提案を試行的に実施できる場を設ける」ことをしている。最後のカテゴリーは、「LA の能力や成長に対する教員の認識」であり、「LA は教員では作れない学びの場を形成できるという認識がある」「LA が成長するには時間がかかるため、待つ必要がある」「試行錯誤を経ることで、効果的な育成方法を見出せる」ことを語りから抽出している。LA と SLA の活動目的や学生（チューティー）との関わり方は異なるが、ここでの教員の実践と学習支援センタースタッフの実践（縣，2023 ; 中島，2023）、そして本論考の内容には重なる部分もある。本報告も含めて、ここで述べられる教員の姿が「望ましい」ことを証明するための具体的な方法論は今後提案されていくものと思われる。

2）説明選手権とは、あるテーマについて短時間でプレゼンをし、様々な説明の手法や理解のアプローチを獲得することを目的とした理系部会向けの SLA 研修である。説明選手権イベントは、学部で学んでいる学習内容の要点と応用を分かりやすく説明し、理解と有用感を促すことを目的とした公開型の研修でありセミナーである。

3）本学には、学生が学生をケアするピア・サポート・プログラムが数多く運用されている。高等教育の学習支援に携わる学生スタッフは SLA の他にも、TA、BTA（Basic Teaching Assistant）、TF（Teaching Fellow）、グローバルキャンパスサポーター（グローバルラーニングセンター）、異文化交流の場を創る国際交流オアシス（文系四研究科共同による企画運営）、理学部/理学研究科が利用できる学習支援・相談窓口（キャンパスライフ支援室）、システム・情報科目関連の質問に応えるテクニカルアシスタント（データ駆動科学・AI 教育研究センター）、障害のある学生の学習支援に協力する学生サポーター（学生相談・特別支援センター）が設置されている。学生支援においては留学生ヘルプデスク（グローバルラーニングセンター）、留学生コンシェルジュ（図書館）、東北大生協学生委員会「おおわん」（東北大生協）といった組織が活動を展開している。

参考文献

縣拓充（2023）「私が SLA のマネジメント業務の中で重視していたこと」，東北大学高度教養教育・学生支援機構『学習支援センター（SLA サポート）年次活動報告書 2022 年度』pp. 20-24. https://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/wpsys/wp-content/uploads/2024/03/annual_report_2022.pdf（2024 年 5 月 31 日閲覧）

岩﨑千晶（2023）「初年次教育で活動する学生スタッフに対して教員が求める能力・経験と学生スタッフの育成方法」『日本教育工学会論文誌』47 (2), 281-296.

中島啓貴（2023）「SLA サポート運営の心がけ」，東北大学高度教養教育・学生支援機構『学習支援センター（SLA サポート）年次活動報告書 2022 年度』pp. 25-27. https://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/wpsys/wp-content/uploads/2024/03/annual_report_2022.pdf（2024 年 5 月 31 日閲覧）

Sanford, D. R. & Steiner, M. (2021). *Guide to Learning Center Administration: Leading Peer Tutoring Programs in Higher Education*. Rowman & Littlefield.

田中一孝（2016）「講演記録：哲学教育における学習成果とは何か：哲学分野におけるチューニングの可能性」国立教育政策研究所高等教育政策セミナー（7）「哲学教育研究会キックオフミーティング兼研究会：高等教育における哲学教育の意義」https://www.nier.go.jp/koutou/heps_nier7.html（2024 年 5 月 29 日閲覧）

山野弘樹（2021）「『独学の思考法【第 5 回】対話的思考とは何か?：コミュニケーションの哲学入門』produced by Liberal Arts Lab」 https://www.youtube.com/watch?v=m8mlL2CA0z0（2024 年 5 月 29 日閲覧）

SLA サポートと歩んだ道のり

―何を為し、何を成せなかったのか―

学習支援センター副センター長　准教授　　佐藤 智子

１．はじめに

ここに文章をしたためるのは、SLA サポート事業が形づくられ、あるいは変容してきた歴史を刻んでおこうという意図からである。そして本稿は、SLA（学生たち）に向けてというだけでなく、私の後に続いて頂けるかもしれない教員に向けて、記すこととしたい。とはいえ、私が SLA サポート事業のすべてを把握できているはずもなく、あくまでも一個人の視点から見た歴史、そして個人的なナラティブの域を出ないものであることを、はじめに断っておく。

SLA サポート事業は、すべての SLA のものでもあり、SLA サポートを利用するすべての学生のものである。それぞれの学生が、それぞれにとっての SLA の物語を有していることだろう。もちろんすべてが美しく愉しい物語ではないかもしれないが、SLA サポート事業の枠組があればこそ、学生生活や人生をより豊かにすることができたと感じている学生が、少なからず存在することを願ってやまない。

２.「孤独な」仕事？

私が東北大学学習支援センターに着任したのは 2016 年 4 月のことである。赴任した初年にもっとも強く印象に残っていることは、同一の対象や現象を見ているつもりでも、個人によって、立場によって、こうも見え方や評価が異なるのかという驚きであった。ある状況を一方では非常にネガティブに捉えており、よりその現場に近いスタッフはそれを問題とは捉えておらず、あるいはセンター外の教職員の話を聞いてみると、まったく異なる評価をすべき状態だと感じることもあった。つまり、SLA サポート事業に限らないことではあるが、あらゆる事業（ビジネスやプロジェクト）、あらゆる組織運営は、主観と主観とがしばしばぶつかり合い、時にすれ違い、たまに調和して進んでいくようなものだということだ。

ここに記す内容のすべては、私という主観的な個人の視点から見た史実であり、その意味づけは時間の経過とともに変化するし、それは他者にとっての「事実」とは異なるに違いない。特にこの点を強調するのは、私が学習支援センターで SLA サポート事業に向き合いながら過ごした時間が、SLA やセンター教職員という多くの同志に恵まれたという幸運に反して、究極的に孤独で孤立した立場であった点がある。副センター長という立場で、センター内の誰にも相談できない状況がたくさんあった。センター外の同僚には話しやすい状況もあったが、担っている業務が異なるがゆえに、的確で具体的な助言をもらうのは難しかった。この「相談できなかった」事こそが、私が何を為してきたのかを説明する上で不可欠な要素であるが、ここでその詳細を記せないことを残念に思う。

ただ１つ言えることは、あらゆる物事には長所と短所の両面が必ず存在するということである。ここでの「孤独で孤立した立場」というのは、社会的な文脈で用いられるそれとは異なる意味で使用している。SLA サポート事業に関わるあらゆる仕事は、独りの働きだけでは完結し得ない。その時々の目的や状況に応じて、多くの学生、あるいは多くの教職員とコミュニケーションを取らなければならない。しかし、学習支援センターの専任教員（無期雇用）が他にいない状況の中で、誰にも相談できず、あるいは誰も私の仕事内容を把握しておらず、相談にのってもらえるような状況にない点は、客観的な意味において「孤

独」で「孤立」した状態だった。個人的には、自分の裁量と責任で伸び伸びと新しい挑戦をすることができたという良い面も感じていた。無論これは「独力で為してきた」という意味ではなく、当然ながらセンターの他のスタッフの理解と協力がなければできなかったことである。一方、私が直接に判断したり行動したりしたことでなくとも、すべての批判が私の置かれた立場に集中しやすい状況でもあった。「いざという時にすら代わりが存在しない」という人員配置は、組織上の深刻な課題だとも認識していた。

やや批判的な論調になったかもしれないが、属人的な業務分担の問題点、責任の集中や情報の非共有が生じることの弊害、そしてパフォーマンスの高い組織運営の方法について、ぜひ後進のみなさんにも考えてもらえることを願っている。これは、教職員に限らず、SLA においても同様である。各学生が SLA として各々の個性と能力を存分に発揮し、コミュニティに貢献してもらうことは望ましい。一方で、いつかそのコミュニティから「卒業」することを見据え、「伝えていくこと」や「自分がいなくても機能すること」を意識しなければならない。自分の強みとして高度な技術を持っており、それを使えば短時間で効率よく業務を処理でき、それにより短期的には組織に貢献し得ることでも、今後それを使うべき他の SLA たちがその仕組みをよく理解して使えるようにならなければ、「新しい仕組みの導入」は完結しない。

SLA の活動の中では、「SLA が SLA サポートを創る」という理念を大切にしている。それに共感してくれる多くの SLA が、現在の SLA の形を築いてくれたことは紛れもない事実だ。ただ、発案者が SLA を退職していなくなった後、画期的なアイディアが後進の SLA たちに活用されないまま「お蔵入り」してしまうこともある。つまり、ひとりの発案で新しい仕組みを導入するものの、後進の SLA たちが仕組みや意義を理解できないがゆえに、結局は使われなくなってしまったものもたくさんあり、「持続可能性」を常に意識しておくことが重要である。

私たちは「私にしかできない仕事」を成せる能力をもって人事的に高い評価を受ける。特に大学教員も大学内にある学生アルバイトも、基本的にジョブ型雇用であるため、この傾向が著しいと言えるだろう。ジョブ型雇用であっても、同じ仕事を複数人で担っていれば問題は生じない。しかし、「私にしかできない仕事」をすればするほど、他の人で代替できなくなり、責任も業務量も集中する結果を招きやすい。

さらに、「学習支援」という研究領域は確立されていない。多くの大学教員の職は博士（PhD）の学位を取得した専門分野に直接的に紐づいている。しかし、「博士（学習支援学）」などの学位は聞いた事がない。かろうじて近いのが教育学（特に高等教育や教育心理など）であろうが、それを対象として「研究ができる」ことと、学習支援の実践ができる事とは必ずしも一致しない。つまり、学習支援の実践を担うのに適した専門性を証明することが難しく、現状、多くの大学の学習支援部門では、他の専門領域の専任教員がその役職（学習支援センター長など）を「兼務」しているか、有期雇用の若手教員（助教やポスドク研究員など）が学習支援の業務を担っている場合が多い。兼務や有期雇用がすべて問題であるわけではないが、不安定な雇用や人員配置の下に運営されている状況がある。東北大学でも基本的には同様の状況だが、その中にあって、学習支援を主として担当する専任教員を（1 名のみではあるが）配置している点で、アドバンテージがある。その立場にある私自身、これまで高いモチベーションを持って任務に当たってきたつもりである。しかし、その高いモチベーションを長く保つ上で「制度的にまったく問題がない」環境であったのか、持続可能な「働き方」であるかという点には、疑問が残っている。

３．業務の効率化と主体性の醸成

私が SLA サポートに貢献できた点があるとすれば、その 1 つが「業務の効率化」である。私が赴任し

た当初、1 つ 1 つの業務に非常に多くの時間を費やしていることに驚いた。もちろん時間をかけるべき業務は存在する。SLA ひとりひとりとのコミュニケーションを丁寧かつ頻繁に行おうとすることは本質的に重要である。また、当時は東北大学でも Google Workspace 導入以前で、スタッフ間で情報共有やデータ共有するのも容易ではなかった。オンライン会議も当時はできなかったため、場合によっては夜 9 時頃まで SLA とのミーティングが対面で行われていた。

一方、効率化すべき業務や、予算の削減で維持できなくなった業務も多く存在した。おそらく私の赴任当時は予算が潤沢であったこともあり、夏季休暇中にはバスを借り上げて合宿を行っていたし、SLA の勤務時間も長かった。確かに、学習支援の質を上げ、スタッフ間の十分なコミュニケーションやチームビルディングのため、省く事の難しい業務も多くあった。ただ、対人支援の仕事には時間も労力も際限なくかけることができる。常に丁寧に対応しようとすれば、「ここまでで十分」という線を引くこともできなくなる。結局のところ、予算の削減が大きな契機となり、業務の効率化を進めざるを得なくなった。

効率化の背景にあった 1 つの問題は、教職員が丁寧に段取りをすればするほど、SLA が「受け身」で「教職員任せ」になっていることだった。せっかく SLA という 50～60 名ほど（当時）の有能な学生スタッフがいるのに、その力を活かさないのは非効率的でもあった。かといって、SLA にすべてを「丸投げ」しても、うまく進まない。SLA たちの力を信じることが不可欠であると同時に、必要なオリエンテーションやアドバイスを適切なタイミングで教員から行うことも必要であった。そのタイミングを見極めるために、SLA それぞれの個性と能力を把握することが教員に必要な「仕事」であると考え、SLA の手で主体的に担える部分はできる限り「渡していく」ようにしていった。

学習支援とは、「本人の代わりに問題を解決してあげる」ことではなく、「本人自らがその問題を解決する力を身につけるためのサポートをする」ことである。SLA が学習支援者として他の学生をサポートするように、教員は SLA たちの学びと成長を、そのようにサポートしていかなければならない。

４．SLA サポートの限界を考える

私が SLA サポートに多くの期待を感じるほど、その制度的な限界も見えるようになった。赴任当初は、理系科目の相談が非常に多い状況だった。それが近年、理系科目の相談件数が著しく減少している。理系科目の支援は、「授業の課題が難しい」「授業の説明が分かりにくい」と学生が感じると、SLA への相談件数が増加する。ただ、多くの相談が殺到するような状況になると、SLA が対応できる許容量を越え、相談に応じられないケースも増加する。近年、理系科目の相談が著しく減少した真の理由は分からないが、各科目で授業改善が進み、学生にとって授業が分かりやすくなり、あるいは TA による支援が充実化したのだとすれば、SLA への相談件数が減少することは望ましい。本来、授業を通した学修は、授業の仕組みの中（担当教員や TA による教授や支援）で完結できるのであれば、それが最善である。授業が理想的にデザインされれば、SLA サポートの存在は不要になる。

一方で、「授業改善により授業についていけない学生がいなくなったとしても、授業では物足りない学生が発展的な内容を学びたい時に学び合う仲間は必要だ」という声はあり得る。しかし、それは SLA ではなく、「自主ゼミ」などの形態で、学び合う仲間を見つけるほうが重要かつ持続可能である。

英会話や日本語会話の支援では、コロナ禍をきっかけに 1on1 を開始し、近年では利用件数が理系科目の相談を上回るようになった。1on1 でのサポートが有効な状況の学習者も実際に多いに違いないが、一方で上級者が毎週、頻回に利用するケースもある。より高いレベルを目指して学習したい学習者が相談

できる機会としてSLAサポートが重要である一方で、例えば日本語会話の利用者の中には「日本人の友だちをつくりたい」という理由でSLAを利用する場合もある。このようなケースでは、本来はSLAを利用するのではなく、周囲に日本人の友人をつくる方が望ましいに違いない。それができない／難しい環境それ自体の問題でもあり、SLAサポート事業（のみ）で解決できる問題ではない。以上のように、学生の「学びの仲間探し」を支援する必要性は確かにある。しかし、SLAサポート制度は、SLAが大学と雇用関係にあるアルバイトであるがゆえに、それに適したものにはなってない。

学生は様々な目的やニーズを持ってSLAサポートを利用するが、１つ共通して言えることは、少なくともSLAサポートを利用するに至る程度には、利用学生は学習のために能動的に行動できている、ということである。社会のあらゆる支援の現場でもおそらく同様であるが、支援を本当に必要としている深刻な状況の人ほど、そのような相談窓口に自ら赴くのは難しい。SLAを利用しない学生の中には、自らの友人ネットワークの範囲で、同様の悩みや不安や問題を解消・解決している場合もあるに違いない。SLAは「ピアサポート」事業であり、「ピア」にしかできない支援がある反面で、相談したい内容によっては誰にでも相談できることではない、高度に専門的な知識理解や十分な経験値が必要なこともある。SLAサポートは「万能」のピアサポートではないのである。

SLAサポート事業の予算は年々削減される傾向にあり、今まで以上に「効率的な運営」が求められている。その中で、SLAを配置できる（SLAが勤務する）時間も限られ、「いつでもSLAに相談ができる」体制の整備はほとんど不可能となった。現行の支援体制がどれほど質的に充実しようが、その上で何かを諦め、「スクラップ」していかなくてはならない決断に迫られていく日が来るかもしれない。その時に、何を残し、何は維持するのかを判断することになる。その時に、「東北大学の学習支援は、何を目指すのか」という哲学に立ち返り、適切な判断をしていく必要がある。

５．さいごに

以上を書き連ねて、改めて振り返ると、私が為そうとしたこととは「つながりをつくる／深める」ことだったのかもしれない。1対1で学生の相談対応をすることだけをSLAの仕事を考えるならば、SLA同士の密な協力や丁寧なコミュニケーションがなくとも、仕事を「こなす」ことはできる。しかし、それでは質の良い学習支援はできない。副センター長という立場からは「(職務上の）対等な仲間」を得ることは叶わなかったが、業務を離れれば、SLAから多くを学び、「教養を持つ」ことの意義を実感した。SLAは、同じ「SLA」同士、たとえ学年や専門分野が違っても、同じ目的と目標を見据え、協力して活動する経験をする。また、その経験をより良いものにすべくセンターの歴代スタッフ各々が尽力してくれた。

また、ＳＬＡサポート事業を、東北大学内の他の組織と「つなげる」ことも重視してきた。私個人の貢献が如何ばかりのものかは分からないが、微力ながらも、附属図書館、グローバルラーニングセンター、自然科学総合実験担当の先生方等との連携・協働関係の構築に努めてきた。

最後に、すべての関係者の中で最上級の感謝を伝えたいのは、私と接点を持ってくれた歴代SLAたちに対してである。私と非常に気の合ったSLAも居れば、私を苦手に感じていたSLAもいるに違いない。しかし、すべてのSLAたちのおかげで、そしてSLAサポートの活動に関わってくれたすべての学生のおかげで、私も大いに「ともそだち」をさせてもらった。私たちの人生にはまだまだ先があり、SLAでの経験は私たちのこの先の人生にも少なからず影響を及ぼし続けていくのだろう。SLAを通して紡がれた縁を、将来に渡って大切にしたいし、その縁が細くとも維持していける事を願っている。

４．研修実績報告

Summary

■活動説明会

活動説明会は、前期は 2023 年 4 月 6 日、後期は 2023 年 10 月 10 日に実施した。それぞれの活動説明会では、今年度の重点目標として「１．学習者の自律的な学習態度形成と学習成果の質保証を意識した協同的リフレクションの実施・強化」と「２．多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進」することの 2 点を共有した。

■活動報告会

前期活動報告会は 2023 年 8 月 8 日、後期活動報告会は 2024 年 2 月 14 日に実施した。活動報告会の目的は、主に以下の 3 点である。第 1 に、活動説明会で全 SLA に共有した重点目標に基づき、各セメスターの活動をふりかえり、そのふりかえりの内容を SLA 相互に共有することである。第 2 に、ふりかえりに基づき、次期の活動に向けた成果と課題を整理する。第 3 に、通常の勤務の中では交流機会の少ない SLA 同士の交流の場とすることである。半期の SLA の活動概要と利用者の傾向分析を共有し、各部会から活動報告を行った上で、活動の全体的なふりかえりと SLA 相互の交流を行った。

■グラフィック・レコーディング研修会

2023 年度は、5 月 19 日にグラフィック・レコーディング研修会を実施した。SLA からは 6 名、一般参加からは 6 名の、計 12 名（内訳：B2 年 1 名、B3 年 1 名、B4 年 5 名、M 院生 3 名、D 院生 2 名）が参加した。

1 活動説明会

1．前期活動説明会：2023 年 4 月 6 日（木）9:00-11:00

2023年度

SLA前期活動説明会

2023年4月6日木曜日9:00-11:00

◆ オンライン参加者は入室後、chatにフルネームを入力してください。
◆ Meetの表示名を「グループ名・氏名（部会名）」に変更してください。

物理	数学	化学	英語	日本語	企画
E. 鈴木 善久	B. 渡辺 孝佳	C. 中島 優斗	G. ZHANG XINYU	B. 鏡 耀子	A. 須田 華
C. 中村 牧人	C. 渡辺 楓	E. 菊地 渉	D. 槙島 千仁	F. 江村 玲	B. 生方 颯真
A. 菅野 翼	D. 吉野 舜太郎	B. 宇那木 優斗	A. 近森 藍璃	D. 小森谷 仁子	G. 日下部 翔大
D. 千葉 公哉	E. 上田 龍磨	D. 川音 遼真	G. Belli Komessu Pedro	G. 松尾 美祐	F. 田村 彩奈
F. 雨宮 功来	A. 檜山 快	ライティング	F. 原 幸日	G. 曽我部 沙也加	
B. 森田 大輝	G. 大橋 春希	G. 服部 祥英	C. 佐野 嵩	A. 猪股 達也	
	F. 郷 暁城	C. 野々瀬 真理	E. KALOYAN EMILOV BOGDANOV		
		E. 加藤 里彩			
		B. 森谷 菜々絵			
		A. 伊藤 黎史			

お願いします！①

◆シフト希望調査の提出（4/7の13時まで）

◆履修＆学修相談会のシフト調査（4/7まで）

◆全学授業決めの成功/失敗談募集！（4/10の正午まで）

本日の予定

配布物確認・趣旨説明	10分	9:00-9:10
新メンバー自己紹介	20分	9:10-9:30
▸新規SLA＆センタースタッフ		
センターより	20分	9:30-9:50
▸重点目標・今期の活動形態		
ディスカッション	60分	9:50-10:50
センター長挨拶	5分	10:50-10:55
今後の予定・写真撮影	5分	10:55-11:00

活動説明会の目的

◆今年度のSLAの仲間を知る
これから半年間、一緒にSLAとして活動する仲間を知りましょう！

◆今年度の学習支援センターの取組方針を共有する
センターの一員として、SLA全体の共通目標を理解し、具体的な活動の在り方を一緒に考えましょう！

2023年度前期 メンバー紹介

センタースタッフ

センター長
芳賀　満　高度教養教育・学生支援機構　教授
専門：ユーラシア大陸考古学

副センター長
佐藤 智子　高度教養教育・学生支援機構　准教授
専門：教育行政学，生涯学習・社会教育論

センター員
新井 庭子　高度教養教育・学生支援機構　助教
専門：人文社会情報学，計量言語学

西塚 孝平　高度教養教育・学生支援機構　助教
専門：教育学，教育評価論

佐々木 雅子　教育・学生支援部教務課　事務職員

SLA前期体制　48名（新規12名）

物理 8名	
鈴木	D1
安田	D1
中村（牧）	D1
中村（悠）	M2
菅野	M1
千葉	B4
雨宮	B4
森田	M2

数学 9名	
渡辺（孝）	D3
竹平	D2
渡辺（楓）	M2
吉野	M2
上田	M2
檜山	M2
大橋	M1
越川	B4
郷	B3

化学 4名	
中島	D1
菊地	M1
宇那木	B4
川音	B4

ライティング 6名	
服部	D2
小田切	D2
野々瀬	D2
加藤	M2
森谷	D1
伊藤	M2

英語 8名	
ジャン	D1
槙島	D1
近森	D1
ロ	D1
ペドル	B4
原	B4
佐野	B4
ボグダノフ	B3

日本語 7名	
鏡	D3
江村	D1
小森谷	M2
松尾	B4
畑	B4
曽我部	B4
猪股	B3

企画 6名	
須田	M2
福士	M2
生方	B4
日下部	B4
田村	B4
藤田	M1

新規メンバー自己紹介

◆ 1人1分くらい、順に自己紹介
- 名前
- 所属・学年
- 一言（①SLAになって何をしたい？②好きな物事・特技・推し）

新メンバー

物理	森田 大輝	理学研究科	M2
数学	越川 崇貴	工学部	B4
	郷 暁城	理学部	B3
化学	川音 遼真	理学部	B4
ライティング	森谷 菜々絵	教育学研究科	D1
	伊藤 黎史	文学研究科	M2
英語	佐野 嵩	工学部	B4
	KALOYAN EMILOV BOGDANOV	教育学部	B3
日本語	曽我部 沙也加	法学部	B4
	畑 敦也	文学部	B4
	猪股 達也	文学部	B3
企画	藤田 惰郷	工学研究科	M1
センター員	佐々木 雅子	事務職員	
	西塚 孝平	助教	

センターより

その1　今期の目標

2022年度の成果と展望

理系科目や英会話の積極的な情報発信 ➡ 部会の壁を打ち破り、センター外組織との連携・協働もめざそう！

留学生の利用が好調 ➡ 学部1年生の利用を促そう！

新たなイベントの試行 ➡ 研修を通してスキルアップを図ろう！

2023年度

学習支援センター 重点目標

1. 学習者の自律的な学習態度形成と学習成果の質保証を意識した協同的リフレクションの実施・強化
2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

学習者の自律的な学習態度形成と学習成果の質保証を意識した協同的リフレクションの実施・強化

＝学生に「自律的」になってもらうべく、また、学習成果を高めてもらうために、SLAのリフレクション（振り返り）をどのように充実させていくか？

学生への働きかけ、支援の見立て、自己研鑽の仕方、イベント企画や事後評価など、日々の活動を1人・部会内ではなくSLA同士・部会間で振り返り、今後の糧にしていく

多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

＝学内（外）にいる様々な人が出会い、つながり、学び合う・触発し合うようなコミュニティの形成に、SLAはどのような役割を果たせるか？

・先輩と後輩　・利用者同士　・異領域の学生同士
・留学生と日本人学生　・SLA同士　・その他、様々なつながり作り

「個の学び」から「他者との学び合い」に発展させていくための支援アプローチや工夫を練る

2023年度

SLA研修 目標

1. 英語対応力の向上：留学生に対する学習支援の充実化
2. リーダーシップの向上：SLAそれぞれが各所でリーダーシップを発揮していく意識と行動を促す

センターより

その2　活動形態など

勤務場所・対応方法（BCPO）

	理系			言語・文化系			
	物理	数学	化学	ライ	英語	日本語	企画
対面対応@M棟	○	○	○	○	○	○	○
オンライン対応				○	○	○	○
予約制				○	○	○	○
ドロップイン（予約なし）	○	○	○	○	○	○	○

※感染状況・BCPレベルに応じて変更可能性あり※

対面対応

◆ サポートの予約
・予約不要＝利用したい時に来る（drop-in）
・オンライン対応は、希望があれば検討

◆ 対応時間
・原則として最長60分
・延長したい場合はスタッフに相談

オンライン対応

◆予約方法 →　・オンラインでの事前予約制
・対応3時間前まで予約可

◆対応時間 →　・英語・日本語：30分
・ライティング：50分

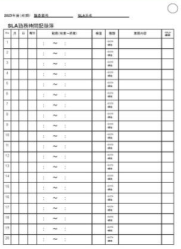
◆サポートの方法→　・基本はmeet、URLはサポ室から送付
・利用者がmeetに入ってこない場合、10分程度は待機
→予約一覧表に「キャンセル」と記入
・無断キャンセルが続いた場合はサポ室からメール

◆利用者の許可があれば録画→定期的にビデオリフレクションを！

出退勤記録表について

◆勤務後、「SLA勤務時間記録簿」（紙媒体）に記入・提出

◆オンライン対応の場合は、次にサポ室に来たときに、「SLA勤務時間記録簿」（紙媒体）にて、勤務時間を確認してもらいます



シフト内の活動

- 週1回3時間（14:50-17:50）が基本勤務
  ※増減あり　※5月中旬まで月曜日は変則

	月曜日	火～金曜日
3限（13:00～14:30）	始礼13:00～13:05 対応13:15～15:15 ※最終受付は14:30	
4限（14:40～16:10）	カルテ15:15～15:30 BMTG15:30～16:00	始礼14:50～14:55 対応15:05～17:05 ※最終受付は16:20
5限（16:20～17:50）		カルテ17:05～17:20 BMTG17:20～17:50

英語・日本語
①15:05-15:35
②15:50-16:20
③16:35-17:05

ライティング
①15:05-15:55
②16:10-17:00

春はシフトが変則的です

4/10（月）～4/17（月）＝変則勤務（新歓，事前研修など）
4/18（火）～5/19（金）＝月曜日以外、曜日固定シフト
5/22（月）～8月上旬まで＝全曜日固定シフト

※学部1年生の動き
・4月中は必修「学問論」が月曜日13:30-15:30に
・5/8と5/15は学問論イベント「春セミ」を開催→SLAお休み

始礼

その週の活動を行う上での確認の場（5分程度）

①前週の気づきや共有事項の確認（前週のBMTGを受けて）

②その週の予定、意識して欲しいこと

③その他連絡事項

SLAラウンジ内（どこでもOK）で全体Meetに入り、始礼に参加
→デバイス（SLAのclassroomにアクセスできるPCorスマホ）の持参を！

ブリーフミーティング（BMTG）

対応の中での気づきの共有や相談の場

①その日の活動をグループごと（例えば，理系・言語/文化系）に報告し合う

②活動で得られた気づきや相談したいことを中心に
対応に関わる気づき、難しかったこと、もやもや、こういうケースはどうしたらいい？という疑問や悩み　など

③シフトや部会を超えて共有すべきこと
増えそうな質問、また来そうな利用者、テスト情報　など

→重要な内容は翌週の始礼で全体に共有します！

SLAのスキルアップやより良い支援のかたちを模索する協同リフレクションの場に

その他の共有事項

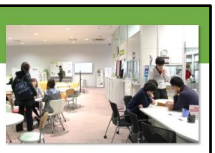
◆コロナ対策のため、できるだけPCやヘッドセットの持参を
- 空いた時間の部会作業、始礼・BMTGに使用
- 利用者からの問い合わせに応じてオンライン対応のお願いあり

◆勤務マナー
- 遅刻厳禁
- 食事は済ませてきてね
- 清潔第一、服装や寝ぐせにも気をつけようね！

◆勤務時間
・1時間単位で設定：通常シフト（3or4時間）、部会MTG（1or2時間）

◆給与計算
・サポ室が依頼する各種研修（説明会や報告会など）も全額支給

感染防止対策



◆ラウンジを広く使い，分散対応
◆必要に応じて、アクリルの仕切りを使用
◆対応中はSLAも利用者もマスクの着用必須
◆SLAは出勤したらまず消毒＆検温（37.5℃以上×）
◆消毒液、おしぼり（机拭き用）を対応後に使用

環境面の準備・サポート

◆希望者にはサポ室のヘッドセットを貸与
→PCも含め、共用物品の使用後は消毒をお願いします

◆自動車通勤の人がいたら連絡を！
- 川内北キャンパスの入構許可申請が必要になります

4月のカレンダー

3日（月）	ライティング部会定例MTG	
4日（火）	SLA&IPLANET合同新歓イベントMTG、自然科学総合実験ガイダンス	
5日（水）	日本語部会定例MTG、SLA部会間連絡調整MTG、物理部会MTG	
6日（木）	☆前期活動説明会、数学部会MTG、化学部会MTG	
9日（日）	SLA&IPLANET合同新歓イベントMTG	
10日（月）～17日（金）新入生向けSLA新歓イベント開催ウィーク ・履修＆学修相談会　・掲示型企画「確認テスト」		変則シフト
11日（火）	企画部会定例MTG	固定シフト案通知
17日（月）	SLA＆IPLANET　新歓イベント開催！	
18日（火）		月以外の固定シフト開始
19日（水）	美術館スタンプラリー（企画部会）	

ディスカッション

テーマ

学生の自律性を促しつつ、学習の成長と実感をもってもらうにはどうしたら良いか？

進め方

① ディスカッション
② 全体発表
③ 協同リフレクション
④ 個人リフレクション

①ディスカッション（35分/9:55-10:30）

◆自己紹介（ひとこと：最近の関心ごと）

◆「進行」「記録係」「タイムキーパー」を決める

◆進め方（初発の問い）をみんなで決める

※最初に話し始めた人の内容から進め方を決めてもOK！

【参考】進め方の例

【例1】分解法
①学習の成長と実感をもってもらうには？
②学生の自律性を促すには？
③2つを両立できるより良い支援のあり方とは？

【例2】鍛え上げ法
①学生の自律性を促し、学習の成長と実感をもってもらうには？
②出てきたアイディアの洗練：「どの学生にも効果的？持続力は？」「どの部会でも実現できそう？」「アイディアを分類して『抜け』を探す」
③より良いアイディアの創出へ

【例3】ギャップ閉じ法
①この問いを考えなくてはいけない背景（学生の実態）を分析してみる＝現在の発達水準
②学生がどうなってほしいのか、SLAの望ましい姿を具体的にイメージする＝未来の発達水準
③イメージに近づくためにSLAができること・すべきことを考える＝最近接発達領域の創造

【参考】問いの作り方（WRAITEC）

What：どういう意味？
・自律性ってなに？
Reason：どうして？
・なぜ大学生には自律性が求められているの？
・自律的になってほしいのに、どうして「支援」が必要なの？
Assumption：そもそも、それって…なのかな？
・そもそもSLAの力だけで自律的になってもらえるのかな？
If/Inference：もし…なら～ということ？
・もし学生が自律的になってくれたら、SLAのもとには来なくなるっていうこと？
True：本当にそうかな？
・本当に、学生は大学生活の中で「自律的」になることはできるのか？
Example：例えば？証拠はある？
・「成長した」「学べて良かった」「今日はよく学べた！」と自分が思えたのはどんなとき？
Counterexample：こういう場合もあるんじゃない？
・学生が必要なことを自覚できていない場合はどうしたらいい？
・学生は色々な背景（1年生、留学生、単位を落としそうな学生…）を持っているのでは？

②全体発表（10分/10:30-10:40）

◆グループごとに発表
・どのような問いを/進め方で考えたか？
・問いの「答え」

◆次以降のグループはそれまで出てきていない「答え」を発表

2022年度後期活動報告会の個人リフレクション①

「最初にSLAが方針を示し、そこからは利用者自身の手で問題解決を目指してもらい、SLAはそのサポートをする。対応終了後に利用者に内容をまとめてもらうことによって、利用者がその場で何を新しく学んだのかを振り返ってもらう時間を設ける。利用者の目標とするレベルに合わせてゴールを設定し、ステップアップのイメージを持ってもらうようにする。」

→「方針」の望ましい示し方・内容とは？
→「ゴール」設定のコツは何か？設定はいつも必要か？

2022年度後期活動報告会の個人リフレクション②

「理系部会では、対応前にニーズを聞き、対応終了時にはその対応で得た知識や方法をまとめていわゆる「お土産」を作ることで、参加学生にどのような成長をしたかを明確化させるようにしていた。［中略］しかしながら、目的なく参加するだけでは対応前後の変化量を実感できる機会がなく、成長の実感につながらないため、対応前後で同じ質問をして答えに変化が生まれるかどうかなど、対応前の動機づけや予想などを行うべきだという結論に落ち着いた。」

→何を「お土産」にするべきか？
→「対応前の動機づけや予想など」を、どのようにおこなうか？

2022年度後期活動報告会の個人リフレクション③

部会ごとに利用学生が求めるものが違うが、対応後に一人で課題をこなすことが求められる。それには「自分でできるかも」という自信が重要であり、それが実感につながると考えた。

→「自分でできるかも（＝自己効力感）」を高めるには？

③協同リフレクション（10分/10:40-10:50）

「全体発表」「2022年度後期活動報告会の個人リフレクション例」を踏まえて…、

1）グループ内のディスカッション（進め方や内容）の良かったところは何ですか？
2）グループ内のディスカッション（進め方や内容）の難しかったところは何ですか？問題や限界はどこにありますか？それを克服するためには、どうすれば良いですか？

→「④個人リフレクション」で教えてください！

④個人リフレクション

今日のディスカッションで話し合ったことや感じたことをまとめよう

・今日の活動説明会やディスカッションを振り返るために記入をお願いします
・氏名は伏せますが、後日ピックアップしてSLA全体で共有する予定です

・今日のテーマは、前期末の「活動報告会」でも扱います
・「これはよさそうだ・できそうだ」と思ったことをぜひ実践してみるとともに、部会内や部会間でも考えてみてください！

センター長挨拶

今後の予定

◆シフト希望の調整と確定　4/7金の13時→来週はじめ
◆各部会初回MTG
◆新入生向けSLA新歓イベント
・履修＆学修相談会　4/10月～4/14金
・掲示型企画「確認テスト」　4/10月～
・SLA＆IPLANET合同新歓イベント　4/17月
・美術館スタンプラリー　4/19水
◆窓口（固定シフト）スタート　4/18火～
◆研修（ハンドブック確認テスト）　4/10月～

お願いします！①（再掲）

◆シフト希望調査の提出（4/7の13時まで）

◆履修＆学修相談会のシフト調査（4/7まで）

◆全学授業決めの成功/失敗談募集！（4/10の正午まで）

お願いします！②

①個人リフレクションシートの提出

②SLA勤務時間記録簿の記入

③「春セミ」（5/8と15）のセンセイ役募集中

みんなで写真撮影📸

２．後期活動説明会：2023 年 10 月 10 日（火）10:00-12:00

録画

2023年度

SLA後期活動説明会

2023年10月10日火曜日10:00-12:00

物理	数学	化学	英語	日本語	企画
D. 鈴木 善久	B. 渡辺 孝佳	E. 中島 優斗	A. Lo Chuan	C. 江村 玲	B. 須田 華
C. 安田 陸人	E. 渡辺 楓	D. 菊地 渉	C. Belli Komessu Pedro	B. 小森谷 仁子	D. 福士 海伊
F. 曽野 翼	A. 吉野 舜太郎	F. 宇那木 優斗	E. 原 幸日（オンライン）	A. 松尾 美祐	E. 生方 颯真
F. 千葉 公哉	D. 上田 龍磨	B. 松本 康汰	B. KALOYAN BOGDANOV	D. 曽我部 沙也加	A. 田中 幸希
C. 岡 和俊	C. 越川 崇貴	ライティング		E. 大津 杏優	F. 馮 美賀
	A. 鄒 暁城	A. 野々瀬 真理			
	D. 木村 陽来	B. 伊藤 黎史			
		F. 増田 友哉			

確認事項

◆全員：終了後に個人リフレクションシートの提出

◆全員：基本シフトの確認

◆ 理系科目SLA：プログラミング対応アンケート調査

本日の予定

確認事項・趣旨説明	3分	10:00-10:03
新メンバー自己紹介	25分	10:03-10:28
センターより	32分	10:28-11:00
▸重点目標・部会別の活動計画・今期の活動形態		
ディスカッション（35分＋10分）	45分	11:00-11:45
副センター長よりひとこと	5分	11:45-11:50
写真撮影	5分	11:50-11:55

活動説明会の目的

◆今期のSLAの仲間を知る

これから半年間、一緒にSLAとして活動する仲間を知りましょう！

◆今年度の学習支援センターの取組方針を共有する

センターの一員として、SLA全体の共通目標を理解し、具体的な活動の在り方を一緒に考えましょう！

2023年度後期 メンバー紹介

センタースタッフ

センター長
芳賀　満　高度教養教育・学生支援機構　教授
専門：ユーラシア大陸考古学

副センター長
佐藤 智子　高度教養教育・学生支援機構　准教授
専門：教育行政学，生涯学習・社会教育論

センター員
新井 庭子　高度教養教育・学生支援機構　助教
専門：人文社会情報学，計量言語学

西塚 孝平　高度教養教育・学生支援機構　助教
専門：教育学，教育評価論

佐々木 雅子　教育・学生支援部教務課　事務補佐員

SLA後期体制　50名（新規9名）

物理 7名	
鈴木	D1
安田	D1
森田	M2
曽野	M1
千葉	B4
兩宮	B4
岡	B3

化学 5名	
中島	D1
菊地	M1
宇那木	B4
川音	B4
松本	B4

数学 10名	
渡辺（孝）	D3
竹平	D2
渡辺（楓）	M2
吉野	M2
上田	M2
大橋	M2
越川	B4
鄒	B3
木村	B4
西淵	B3

ライティング 6名	
服部	D2
小田切	D2
野々瀬	D2
森谷	D1
伊藤	M2
増田	D3

日本語 7名	
江村	D1
小森谷	M2
松尾	B4
畑	B4
曽我部	B4
猪股	B3
大津	B4

英語 9名	
ジャン	D2
槙島	D1
近森	D1
ロ	D1
ペドロ	B4
原	B4
佐野	B4
ボグダノフ	B3
根本	B3

企画 6名	
須田	M2
福士	M2
藤田	M1
生方	B4
田中	M1
馮	B4

新メンバー

物理	岡　和俊	OKA KAZUTOSHI	工学部	B3
数学	木村陽来	KIMURA HARUKI	工学部	B4
	西淵裕太	NISHIBUCHI YUTA	理学部	B3
化学	松本康汰	MATSUMOTO KOTA	理学部	B4
ライティング	増田友哉	MASUDA TOMOYA	文学研究科	D3
英語	根本浩希	NEMOTO HIROKI	文学部	B3
日本語	大津杏優	OTSU AYU	工学部	B4
企画	田中幸希	TANAKA KOKI	環境科学研究科	M1
	馮　美賀	FENG MIKA	工学部	B4

アイスブレイク→新規SLA自己紹介（25分）

◆ グループ内で自己紹介（2分×6）
- 名前、所属、学年、所属部会
- 所属部会の雰囲気、活動内容などの紹介

◆ グループメンバーの「共通点」を1つ見つけよう！（5分）
- 趣味、出身、好きなモノやコト、苦手なモノやコト…
- ×SLA、東北大生、性別、同じシフト曜日

◆ 新規SLA自己紹介（皆の前で）8分
- 名前、所属、学年、所属部会
- 一言（SLAになって何をしたい？or 好きな物事・特技・推し）

センターより

その1　今期の目標

2023年度

学習支援センター 重点目標

1. 学習者の自律的な学習態度形成と学習成果の質保証を意識した協同的リフレクションの実施・強化
2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

学習者の自律的な学習態度形成と学習成果の質保証を意識した協同的リフレクションの実施・強化

＝学生に「自律的」になってもらうべく、また、学習成果を高めてもらうために、SLAのリフレクション（振り返り）をどのように充 実させていくか？

学生への働きかけ、支援の見立て、自己研鑽の仕方、イベント企画や事後評価など、日々の活動を1人・部会内ではなくSLA同士・部会間で振り返り、今後の糧にしていく

多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

＝学内（外）にいる様々な人が出会い、つながり、学び合う・触発し合うようなコミュニティの形成に、SLAはどのような役割を果たせるか？

・先輩と後輩　・利用者同士　・異領域の学生同士
・留学生と日本人学生　・SLA同士　・その他、様々なつながり作り

「学生とSLAの1対1の学び合い」から「学生同士の学び合い」に発展させていくための支援アプローチや工夫を練る

2023年度

SLA研修 目標

1. 英語対応力の向上：留学生に対する学習支援の充実化
2. リーダーシップの 向 上 ：SLAそれぞれが各所でリーダーシップを発 揮していく意 識と行動を促す

2023年度前期 SLA利用者数

活動報告会説明資料をチェック！

期間：4月18日（火）～8月4日（金）
活動日数：66日（全15週）

＜ 個別対応型学習支援＞

	2021前	2022前	2023前
延べ数	723	498	762
実数	300	229	274

＜ 企画発信型学習支援 ＞

	2021前	2022前	2023前
延べ数	152	253	143

センターより

その2　部会別の活動計画

数学部会

◆電子カルテの整理・活用
　→分野ごとにまとめて対応に活かす
　→他部会にもシェアを
◆説明選手権のイベント化
　→Youtubeライブ配信（随時コメントを受け付ける）
　→夜6時以降、20分（発表15分＋質疑5分）×3本の発表が目安
　→ある程度開催を重ねた後、一般参加枠を設けても良い
　→化学・物理部会も開催できるように道を作る
◆ドライブの情報・資料整理
◆学務情報システムへの広報（投稿文作成）
◆Tipsやチェックテスト等の制作物

物理部会

◆説明選手権の開催
　→数学/化学部会は情報提供を
◆レポート対応の宣伝
　→レポート強化週間を実施しない代わりに広報の強化
◆発信作業
　→ホワイトボード企画
◆引き継ぎ
　→ドライブの資料整理と引継方法の確立（他部会にもシェア）

化学部会

◆チェックテスト：化学B、Cの4択問題
◆説明選手権
◆ホワイトボード企画
　→案：立体構造の展示、好きな～は？(去年は元素、構造)
◆化学B、C教科書紹介
　→Xで発信
◆自然科学総合実験サポート
　→レポート良例・悪例の提示（ポスター等のかたちで）
　→課題Tips：ポスターやXで公開

ライティング部会

◆レポート作成Tips
　→ポスターの作成と掲示（『レポート指南書』を補う）
◆利用者ノートの本格運用
　→「引き継ぎ事項」の充実、シートの整理

※学務情報システムの予約案内メール文・件名の修正済
　←ライティング＝レポート作成支援だと分かりづらいのでは？

英語部会

◆英会話カフェの実施
→2人シフト体制のときに16:30-17:15で定期開催

◆イベント企画
→ハロウィン：10/25~10/31の期間で開催予定
※10/27は大学祭のためSLAサポート活動お休み

企画部会

◆部会MTG：10月12日（木）10:00-12:00@対面

◆ビブリオバトル
→10月25日（火）18:00～@M棟2階

◆高知大との合同哲学カフェ
→月ごとのファシリ交代制
→10月30日（月）19時～20時30分@Zoom

日本語部会

◆部会MTG：10月12日（木）18:00-20:00@オンライン
◆日本語カフェの定期開催
→週に1回程度
◆対応資料の充実
→トピックの収集
◆ヒアリングシートの運用
→情報の取捨選択
◆広報
→日本語初学者向けの日本語&英語版のポスター掲示・広報
→公式LINEの運用

後期に予想される傾向

◆前期に比べて、窓口利用者数の減少が見込まれる
→イベント・発信系企画の充実
→積極的な広報活動（学務情報システム利用など）
→リピーター支援の充実化
→柔軟なシフト調整で対応件数に対する各部会人数を適正化

◆（研究等により）SLAのシフト勤務が不規則になると思われる
→部会内の綿密な情報共有と引き継ぎを
→サポ室やSLAに早めのホウレンソウ（報告・連絡・相談）を

センターより

その3　活動形態など

勤務場所・対応方法

	理系			言語・文化系			
	物理	数学	化学	ライ	英語	日本語	企画
対面対応@M棟	○	○	○	○	○	○	○
オンライン対応@M棟	×	×	×	○	○	○	○
予約制	×	×	×	○	○	○	○
ドロップイン（予約なし）	○	○	○	○	○	× 変更可能性あり	△ 企画による

理系科目の対応

◆ サポートの予約
・予約不要drop-in＝利用したい時にSLAラウンジに来る

◆ 対応時間
・原則として最長60分（タイマーを設置！）
・延長したい場合は「待ち」がいないことを確認した後に時間を決めて対応

【待ち対応】該当科目担当のSLAが全員対応中のとき

① 対応記録（利用学生記入欄）の記入依頼
② サポ室内の受付表に科目/氏名等を記入
③ 待ち札（配布用）を利用学生に渡す
④ 待ち札（SLA用）と対応記録を受付表の隣に置く
⑤ 理系SLAは対応終了後に受付表を確認
⑥ 待ち札の番号が若い順に対応（相談内容が同じ時は同時対応も検討）

※主に期末時期、サポ室スタッフで対応

事前予約対応　ライティング・英語・日本語

◆予約サイト → EDISONE
◆予約方法 → 事前予約制、対応3時間前まで予約可
◆対応時間 → 英語&日本語：30分、ライティング：45～50分
◆方法 → ・予約枠は毎週木曜17時に更新（学務情報システム・Xで通知）
・対面orオンラインの選択可能
・オンラインの場合はmeet、URLは当日お昼頃にサポ室から送付
・利用者がmeetに入ってこない場合、10分程度は待機
→予約一覧表に「キャンセル」と記入
→対面を選択したのにMeetで待機していることも（その逆も）
※対面希望の方にもURLを自動発行・送信している
・無断キャンセルが続いた場合はサポ室からメール
◆利用者の許可があれば録画→定期的にビデオリフレクションを！

シフト活動

週1回3時間（14:50-17:50）が基本勤務

	月～金曜日
4限 14:40～16:10	始礼14:50～14:55
5限 16:20～17:50	対応15:00～17:00　※最終受付16:30 カルテ記入/部会内MTG17:00～17:30 BMTG=協同リフレクション17:30～17:50

英語・日本語
①15:00-15:30
②15:45-16:15
③16:30-17:00
※16:30-17:15カフェ

ライティング
①15:00-15:45
②16:00-16:45

・予約システムの設定枠
・5~10分程度延長対応可

始礼 @Meet

その週の活動を行う上での確認の場（5分以内）

①前週の気づきや共有事項の確認（前週のBMTGを受けて）
②その週の予定、意識して欲しいこと
③その他連絡事項

・SLAラウンジ内でSLA全体classroomのMeetに入り、始礼に参加
・デバイス（SLAのclassroomにアクセスできるPCorスマホ）の持参を！

対応記録（紙・電子カルテ）の記入

◆理系科目、ライティング、英語、日本語
・紙カルテの「利用学生記入欄」「対応SLA」は必ず記入、あとはメモ程度でOK
・電子カルテ（Google Form）は詳細に記録、必ず提出
※電子カルテ未提出の時は翌日サポ室からメール連絡

◆個別カルテの取り扱い
・日本語・英語のヒアリングシート、ライティングの利用者ノートは各部会で運用・改善を
・シート/ノートの整理、機能の検証を定期的に実施

協同リフレクション Brief Meeting=BMTG

対応中の気づきの共有や相談、支援の幅を広げる場

①その日の活動をグループごと（理系・言語/文化系）に報告し合う

②活動で得られた気づきや相談したいことを中心に
対応に関わる気づき、難しかったこと、もやもや、こういうケースはどうしたらいい？という疑問や悩み　など

③シフトや部会を超えて共有すべきこと
増えそうな質問、また来そうな利用者、テスト情報　など

→重要な内容は翌週の始礼で全体に共有します！

☆SLAのスキルアップやより良い支援のかたちを模索する場に☆

出退勤記録について

◆勤務開始時に「SLA勤務時間記録簿」（紙媒体）に勤務時間（始業～終業）等を記入・提出

◆オンライン勤務の場合は、次の対面勤務時に「勤務時間記録簿」の勤務時間を確認
シフト：毎週決まった時間帯に活動
部会：それ以外

◆翌月最初の勤務時に、レターケースに入れてある前月出勤簿（確定版）に署名して所定ケースに提出

×Excelにデータ入力→PDF変換→フォームから提出

ファイル送信フォームの活用

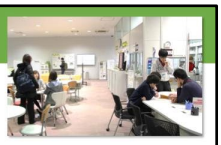
◆理系科目・ライティングの対面対応のとき
→利用学生のPC等のデバイス内にある資料をSLAと共有したい/印刷したい

① QRコード（スマホ/タブレット）or GoogleフォームのURLを直接入力（PC）
② 添付送信
③ フォーム回答は各部会Classroom→授業→「ファイル添付フォーム」

利用者アンケートの協力

◆ テーブルに科目別QRコードあり
◆ オンライン利用の時は事前にメール送信
◆ QRコード×→用紙を配布（対応記録用紙の場所にある）
◆ アンケート回答は定期的に確認を！
◆ アンケートの内容を変更したいときはサポ室に相談

感染防止対策



◆毎朝ラウンジ内のテーブルを消毒
◆SLAは出勤したらまず消毒＆検温（37.5℃以上×）
◆ラウンジを広く使い、分散対応
◆対面対応中、SLAはマスク着用を原則必須（利用者に確認のうえ外す）
◆必要に応じて、アクリルの仕切りを使用

環境面の準備・サポート①

◆希望者にはサポ室のヘッドセットを貸与

◆M棟まで自動車通勤の人がいたら連絡を！
・川内北キャンパスの入構許可申請が必要になります

環境面の準備・サポート②

◆SLAラウンジ内のwifi（基本はeduroam、必要時にのみ接続）
【注意！】SLA以外には教えないこと
→eduroamが接続できない、印刷したいものがある
→サポ室内のプリンター
→大量印刷するときはサポ室に相談

◆ノートパソコン4台
【注意！】東北大アカウント等でログインした時は忘れずにログアウト

◆モニター
→ライティング添削等、大きな画面で情報を共有・確認したいとき

シフト外勤務について

全体・部会別classroomの授業ページにフォームURLあり

例）毎週月曜日の14:50-17:50勤務だけど火曜日の10:00-12:00に追加勤務したい
・活動説明会・報告会を当日欠席したからオンデマンド視聴したい
・カフェイベントや企画の準備を進めたい
※部会MTGと説明会・報告会（当日出席）は、申請&報告不要

【申請】希望連絡フォーム：
・原則、勤務日の3日前までに提出
・勤務時間・場所・内容・シフト外ですべきかをサポ室が確認
・できるかぎりシフト外勤務は最小限にとどめる

【勤務】平日8:00-20:00におこなう（土日祝×）
オンライン勤務のときは部会別classroomのmeetにつないで作業

【報告】報告フォーム：
・勤務後すぐに提出

欠勤・遅刻・早退の連絡

以下の2点を両方ともお願いします

①勤務変更希望連絡フォームを入力・送信
- 1週間前までに申告、予約枠を更新する前（木曜17時前）だと助かります
- SLA全体classroom→授業→シフト変更希望連絡フォーム

②サポ室に電話（022-795-3374）or サポ室にメール or サポ室スタッフに口頭で

SLA研修

①10月の活動説明会&2月の活動報告会→全員参加

②選択式&記述式確認テスト（年度に1回）
- 前期受けた方は再受検の必要なし
- 記述式確認テストの回答にはフィードバックをかける予定

③新任OJT3課題
- 前期終えていない方、途中提出の方は後期中に実施

④任意参加の研修イベント
- 前期：ファシリテーショングラフィック講座

※②と③については原則シフト勤務中に取り組む

サポ室から

◆広報：部会活動の内容や雰囲気が伝わる広報も
- 学習支援センターHPや学務情報システムで部会別活動紹介を投稿予定
- 対応後のSLAにヒアリング、対応の様子の写真撮影等のお願い

※学習支援センターのHPも全面改修予定

◆受付・入口の工夫：M棟の工事がもう少し続く・学生の訪問&利用をスムーズに
- 裏口側：サポ室に誘導する看板、正面/裏口：表示スタンドの設置
- 皆さんからも利用者への積極的な声がけをお願いします！

その他の共有事項

◆できるだけPCやヘッドセットの持参を
- 空いた時間の部会作業、始礼、BMTGに使用
- 利用者からの問い合わせに応じてオンライン対応のお願いあり

◆勤務マナー
- 遅刻厳禁
- 食事は済ませてきてね
- 清潔第一、服装や寝ぐせにも気をつけようね！

◆給与計算
- サポ室が依頼する各種研修（説明会や報告会など）は全額支給

ディスカッション

テーマ

学生の自律性を促しつつ、学習の成長と実感をもってもらうにはどうしたら良いか？

個別対応/1 on 1以外の支援活動では？

支援の方法や工夫だけではなく、SLAとしてするべきこと（できること）とは？

具体的な実行方法は？

議事録

Aグループ	
Bグループ	
Cグループ	
Dグループ	
Eグループ	
Fグループ	

ディスカッション（35分）

◆「進行」「記録係」「タイムキーパー」を決める

◆進め方（初発の問い）をみんなで決める

※最初に話し始めた人の内容から進め方を決めてもOK！

全体発表（10分）

◆グループごとに発表
- どのような問いを考えたか？
- 問いの「答え」

◆次以降のグループはまだ出ていない「答え」を発表

【参考】進め方の例

①分解法
①学習の成長と実感をもってもらうには？ ②学生の自律性を促すには？ ③2つを両立できるより良い支援のあり方とは？
②鍛え上げ法
①学生の自律性を促し、学習の成長と実感をもってもらうには？ ②出てきたアイディアの洗練：「どの学生にも効果的？持続力は？」「どの部会でも実現できそう？」「アイディアを分類して『抜け』を探す」 ③より良いアイディアの創出へ
③ギャップ閉じ法
①この問いを考えなくてはいけない背景（学生の実態）を分析してみる＝現在の発達水準 ②学生がどうなってほしいのか、SLAの望ましい姿を具体的にイメージする＝未来の発達水準 ③イメージに近づくためにSLAができること・すべきことを考える＝最近接発達領域の創造

【参考】問いの作り方（WRAITEC）

What：どういう意味？
・自律性ってなに？
Reason：どうして？
・なぜ大学生には自律性が求められているの？
・自律的になってほしいのに、どうして「支援」が必要なの？
Assumption：そもそも、それって…なのかな？
・そもそもSLAの力だけで自律的になってもらえるのかな？
If/Inference：もし…なら～ということ？
・もし学生が自律的になってくれたら、SLAのもとには来なくなるっていうこと？
True：本当にそうかな？
・本当に、学生は大学生活の中で「自律的」になることはできるのか？
Example：例えば？証拠はある？
・「成長した」「学べて良かった」「今日はよく学べた！」と自分が思えたのはどんなとき？
Counterexample：こういう場合もあるんじゃない？
・学生が必要なことを自覚できていない場合はどうしたらいい？
・学生は色々な背景（1年生、留学生、単位を落としそうな学生…）を持っているのでは？

副センター長より ひとこと

確認事項

◆終了後：個人リフレクションシートの提出

◆全員：基本シフトの確認

◆ 理系科目SLA：プログラミング対応アンケート調査

◆SLA勤務時間記録簿の記入・提出

みんなで写真撮影📸

2023 年度後期 SLA 活動説明会（2023.10.10）の集合写真

2 活動報告会

1．前期活動報告会：2023 年 8 月 8 日（火）13:00-16:00

録画

2023年度
SLA前期活動報告会

2023年8月8日 火曜日 13:00-16:00
※割り当てられたグループの椅子に座ってください

物理	数学	化学	英語	日本語	企画
E. 安田陸人	A. 渡辺 孝佳	F. 宇那木 優斗	F. 近森 藍璃	C. 鐵 耀子	E. 須田 華
B. 菅野 眞	B. 檜山 快	C. 川音 澄真	G. Lo Chuan	A. 江村 玲	G. 福士 海伊
G. 千葉 公哉	F. 大橋 春希	ライティング	D. Belli Komessu Pedro	D. 小森谷 仁子	F. 生方 颯真
D. 雨宮 功来	D. 鄒 暁城	E. 服部 祥英	E. 原 幸日	B. 松尾 美祐	A. 日下部 翔大
	C. 越川 崇貴	B. 野々瀬 真理	A. 佐野 嵩	F. 曾我部 沙也加	
		C. 加藤 里彩	C. KALOYAN EMILOV BOGDANOV	E. 畑 敬也	
		D. 森谷 菜々絵			
		A. 伊藤 黎史			

本日の予定

13:00 ～ 会の趣旨説明 （5分）
13:05 ～ 活動結果速報 （25分）
13:30 ～ SLA活動報告（各部会より） （80分）
▸前半：化学・企画・ライティング・日本語 40分
～休憩～ 10分
▸後半：物理・数学・英語 30分
15:00 ～ ディスカッション （45分）
15:45～ 副センター長よりひとこと （5分）
15:50 ～ ふり返りシート記入・写真撮影 （10分）
16:00 ～ 16:45 SLAお疲れさま会（参加自由）

2

報告会ふり返りシートの記入

・報告会終了後に全員提出
・メモ代わりに使用してもOKです！

3

活動報告会の目的

◆前期活動のふり返りをおこない、後期につなげる
・後期活動開始時に「前期なにしてたっけ？」とならないように、
・SLA全体の成果、課題、方向性を全員で共有しよう

◆SLA同士の相互交流を「さらに」深める
・SLA/部会内/部会間で「より質の高い学習支援」を探求し、
・連携・協同による相乗効果を図ろう

2023年度
学習支援センター 重点目標

1. 学習者の自律的な学習態度形成と学習成果の質保証を意識した協同的リフレクションの実施・強化
2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

学習者の自律的な学習態度形成と学習成果の質保証を意識した協同的リフレクションの実施・強化

＝学生に「自律的」になってもらうべく、また、学習成果を高めてもらうために、SLAのリフレクション（振り返り）をどのように充 実させていくか？

学生への働きかけ、支援の見立て、自己研鑽の仕方、イベント企画や事後評価など、日々の活動を1人・部会内ではなくSLA同士・部会間で振り返り、今後の糧にしていく

多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

＝学内（外）にいる様々な人が出会い、つながり、学び合う・触発し合うようなコミュニティの形成に、SLAはどのような役割を果たせるか？

・先輩と後輩 ・利用者同士 ・異領域の学生同士
・留学生と日本人学生 ・SLA同士 ・その他、様々なつながり作り

「個の学び」から「他者との学び合い」に発展させていくための支援アプローチや工夫を練る

2023年度
SLA研修 目標

1. 英語対応力の向上：留学生に対する学習支援の充実化
2. リーダーシップの向上：SLAそれぞれが各所でリーダーシップを発 揮していく意 識と行動を促す

2023前期
活動結果速報

2023年度前期 SLA利用者数

期間：4月18日（火）～8月4日（金）
活動日数：66日（全15週）

＜個別対応型学習支援＞

	2021前	2022前	2023前
延べ数	723	498	762
実数	300	229	274

＜企画発信型学習支援＞

	2021前	2022前	2023前
延べ数	152	253	143

理系部会
（物理・数学・化学）

＜個別対応型学習支援＞
理系科目 利用の状況

- 利用者数（前期）

	2020	2021	2022	2023
延べ数	259	248	201	344
実数	95	128	121	125

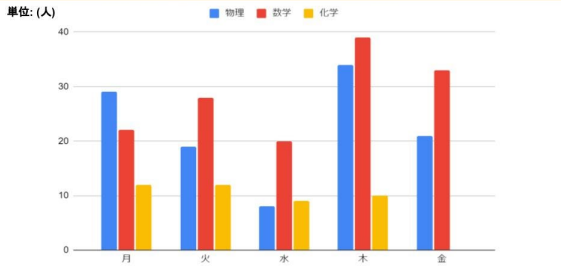
- 科目別利用件数（利用者延べ数）

	2020	2021	2022	2023
物理	99	59	60	111
数学	103	124	97	142
化学	33	27	7	43
総合実験	4	15	29	23
数物	19	17	14	8

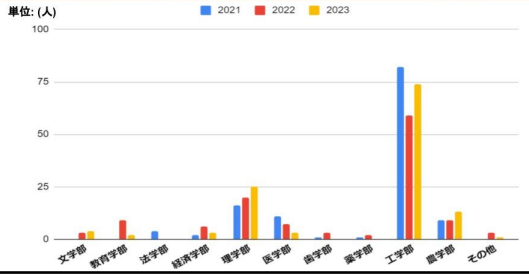
理系 授業別利用者延べ数

授業名	2020前	2021前	2022前	2023前
1. 物理学A	66	45	30	81
2. 解析学A	20	28	25	58
3. 線形代数学A	23	41	4	33
4. 化学A	20	17	6	28
5. 自然科学総合実験	4	15	29	23
6. 数理統計学	13	19	19	16
7. 数学物理学演習Ⅰ	19	17	16	12
8. 情報科目	-	-	-	7
9. 物理学D	2	7	3	5
10. 物理学C	9	2	8	4
11. 解析学C	10	4	8	3

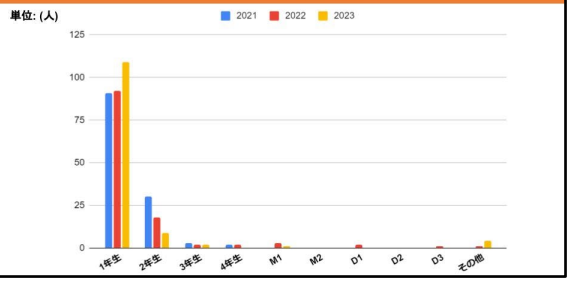
理系 曜日別利用延べ人数



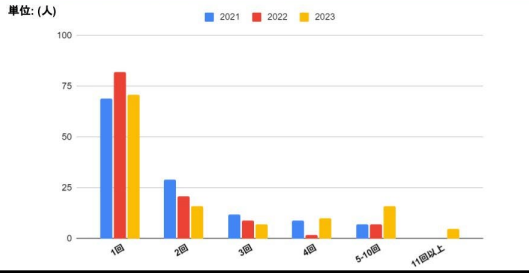
理系 利用者所属学部（前期実数）



理系 利用者学年（前期実数）



理系 利用回数（前期）



理系部会まとめ

成果

- 曜日別利用に差はあるが、延べ数・リピーターが顕著に増加
- 情報（プログラミング言語）等の特殊科目への柔軟な対応
- チェックテスト、ホワイトボード、SNS投稿等の非同期型支援もコンスタントに実施

来期に向けて

- 今期残したタスクの完遂　※公開型「説明選手権」、自科総レポートTipsポスター…
- これまでの成果物/資料の見直し、整理、再活用
- （特に期末）待ちが出たときの対策　※タイムマネジメント、同時対応…

18

ライティング部会

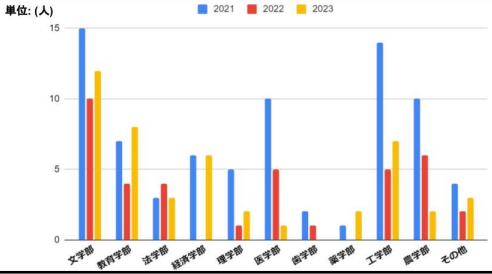
19

＜個別対応型学習支援＞
ライティング 利用の状況

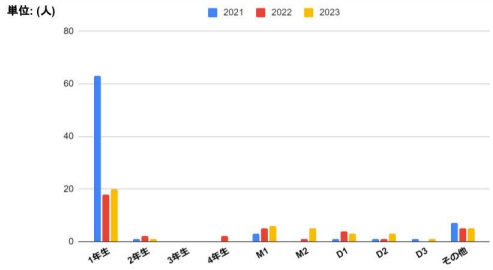
	2020前	2021前	2022前	2023前
延べ数 （うち留学生）	42 （22）	115 （25）	62 （31）	103 （49）
実数	20	78	37	46

20

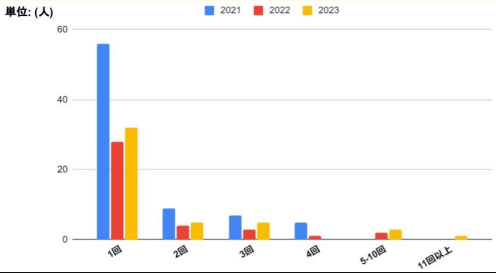
ライティング 利用者所属学部（前期実数）



ライティング 利用者学年（前期実数）



ライティング 利用回数（前期実数）



＜企画発信型学習支援＞

ライティング関連イベント

イベント名	実施日	実施時間	参加人数
「パラグラフの組み立て方と引用」（Academic Skills Seminar）	4月24日（月）	16:00-17:30	46
Academic Writing Seminar①（大学院生向け）	5月19日（金）	8:50-10:20	12
Academic Writing Seminar②（大学院生向け）	6月2日（金）	8:50-10:20	12
			70名

※佐藤先生が実施

24

ライティング部会まとめ

成果

- （文系）留学生のリピーターと、修士以上の利用が増加
- アカデミック・ライティングに加えて日本語表現の支援も
- 利用者ノート（ヒアリングシート）の運用開始

来期に向けて

- ポスター企画の実現　※8-9月中に作業を進めるのもあり
- 「レポート入門講座」等、SLA側から直接働きかける支援も視野に
- 利用者ノートの継続的な運用、つながりを意識した支援

25

英語部会

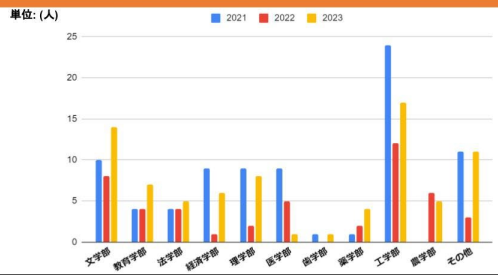
＜個別対応型学習支援＞

英語 利用の状況

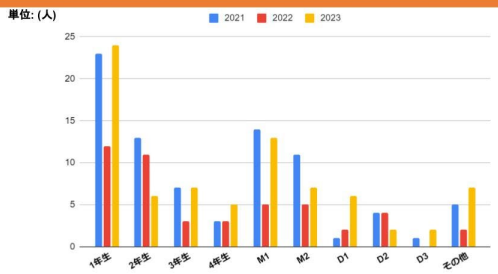
	2020前	2020後	2021前	2021後	2022前	2022後	2023前
延べ数	164 イベント: 45 1on1: 119	216 イベント:39 1on1:177	276 イベント:33 1on1:243	201 イベント:11 1on1:190	190 イベント: 77 1on1:113	88 イベント:26 1on1:62	220 イベント:27 1on1:193
実数（1on1のみ）	69	54	82	54	47	27	79

27

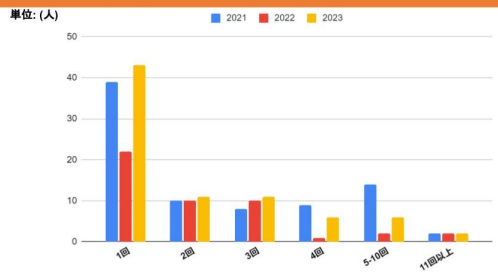
英会話1on1 利用者所属学部（前期実数）



英会話1on1 利用者学年（前期実数）



英会話1on1 利用回数（前期実数）



＜企画発信型学習支援＞

英会話カフェ

イベント名	実施日	実施時間	参加人数
SLAカフェ Week to make the most of 夏休み	6月26日	15:00-17:00	3
SLAカフェ Week to make the most of 夏休み	6月27日	15:00-17:00	2
SLAカフェ Week to make the most of 夏休み	6月28日	16:20-17:00	2
SLAカフェ Week to make the most of 夏休み	6月29日	15:00- 17:00	8
SLAカフェ Week to make the most of 夏休み	6月30日	15:00−16:00	1
英会話カフェ	7月18日	16:30-17:20	2
英会話カフェ	7月19日	16:30-17:10	1
英会話カフェ	7月20日	16:30-17:10	5
英会話カフェ	7月24日	16:30-17:15	2
英会話カフェ	7月25日	16:30-17:10	1
			27名

＜企画発信型学習支援＞

英会話カフェ

☆参加者の感想☆

・テーマが決まっていて、話しやすかった。
・スタッフがとても親切だった。
・皆で話したことで他の人の英語表現をたくさん学べた
・英語ネイティブな方がいらっしゃってリスニングに活用できた。
・みんなで、コミュニケーションを行い、楽しめた
・また、定期的に開催してください。楽しみにしています！！

32

英語部会まとめ

成果

- 英会話 1 on 1 のリピーターが増加傾向＆幅広い学年の学生が利用
- 英会話カフェの定期開催を復活させ、学びの場を拡張
- 企画部会の美術館イベントに協力も

来期に向けて

- 英会話カフェの継続実施と質強化
- マンネリ化防止、ニーズ対応のために教材/マテリアルの活用や開発
- 全員が少しずつイベント開催に慣れていく(広報、当日進行…)

33

日本語部会

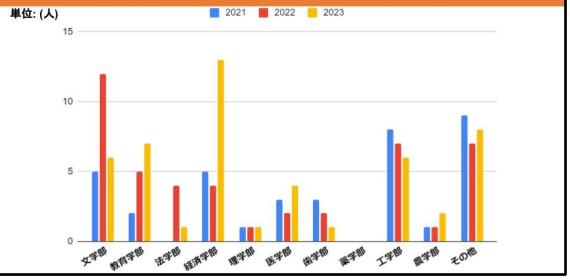
＜個別対応型学習支援＞

日本語　利用の状況

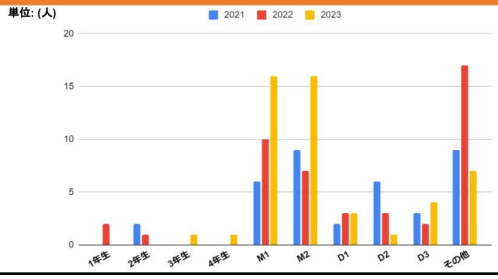
	2021前	2022前	2023前
延べ数	116	123	137
実数	38	45	49

35

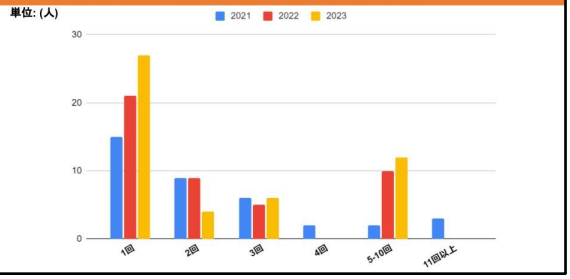
日本語会話 利用者所属(前期実数)



日本語会話 利用者学年(前期実数)



日本語会話 利用回数(前期実数)



＜企画発信型学習支援＞

日本語カフェ

実施日	実施時間	参加人数
7月4日(火)	16:20-17:20	4
7月6日(木)	16:20-17:20	3
7月7日(金)	14:30-15:30	0

☆参加者の感想☆
・よく学びました。色んな話題を喋って、よりよくペラペラになりました。
・様々な話題を話して日本語能力を向上しました。

39

日本語部会まとめ

成果

- 文系・修士学生の利用が増加し、リピーターも一定数いた
- 6月以降、学務情報システムに予約枠更新のお知らせをしてからは予約がすぐに埋まる状況
- 日本語カフェ開催の他、新入生歓迎イベントの開催、企画部会のイベント協力も

来期に向けて

- 日本語カフェの定期開催と質強化
- 幅広いニーズに対応するべく、対応資料の蓄積と活用
- 予約/無断キャンセルがそれなり→1 on 1のドロップイン化の検討

企画部会

41

＜企画発信型学習支援＞

企画イベント

イベント名	実施日	実施時間	参加人数	うち留学生
美術館クイズラリー	4月19日（水）	14:45-16:00	11	0
英語のお悩み相談会	5月17日（水）	16:20-17:20	3	1
美術館で国際交流しよう！	6月13日（火）	14:45-17:45	12	7
グループディスカッション入門編	6月14日（水）	15:00-16:30	5	0
美術館で国際交流しよう！	6月15日（木）	14:45-17:45	13	8
グループディスカッション実践編	7月12日（水）	16:00 - 17:30	4	4
高知大学との合同哲学カフェ	7月12日（水）	19:00-20:30	15	3
かたちをさがす@東北大	8月4日（金）	10:00-12:00	8	5
読書会イベント"問い"で深める読書 入門編	8月4日（金）	15:00-17:00	6	2
			77名	30名

企画部会まとめ

成果

- 多様な学生層をねらったバラエティ豊かなイベントの開催
- 留学生、高学年学生の参加も多くみられた
- 強力な部会内チームワークの発揮

来期に向けて

- 企画の引き継ぎ方法の確立
- 余裕をもったイベントの計画・準備イベントと広報
- 他部会（理系部会・英語部会…）の支援

43

利用後アンケート　結果概要

	回答数	平均点	2022前	
			回答数	平均点
物理	26	98.7	29	93.8
数学	63	98.1	46	94.3
化学	35	98.9	6	91.7
自科総	11	100	18	97.8
数物演習	4	100	6	92.5
ライティング	62	99.1	15	98.3
英語	105	97.9	59	96.2
日本語	84	98.5	75	97.6
企画	イベントによってアンケートの取り方が異なる			

利用後アンケートから ①

アンケートには対応へのヒントが隠れています。嬉しいコメントも！

物理	・考える道筋を教えてもらったのでしっかり理解できた ・話しているうちに頭の中が整理されて，自分が何を理解できていないのかが分かりました。 ・公式を導く過程まで丁寧に教えてもらえたので，勉強になった。正確な議論も考えられてよかった。
数学	・説明が、分かりやすかった。自分で考える時間も取ってもらえたので、勉強になった。 ・おすすめされた、ノート作りを実践してみようと思います。どちらの証明も内容がよく理解できました。説明してみてと言われるとできないことが多々あったので、人に説明できるくらい、しっかり勉強します。 ・授業や自習では学べなかった線形代数のより本質的な内容を捉えることができ、モチベーションが向上した。 ・最速で対応してくれて、よかった
化学	・ずっとわからなかった、波動関数や軌道の意味がわかりました。問題演習を重ねてみます。 ・共有結合性とイオン性のところが特に理解できました。また今回のV　=1/4πのようにわからない変形があったら、定義に戻ることが大切だということを知ることができました。ありがとうございます。 ・優しく辛抱強く教えてくださり、理解が深まりました。質問してよかったです。いつもは問題に対する質問で、何かを理解するための質問は初めてで不安でしたが、とても分かりやすく教えていただけました。
総合実験	実験の内容をご存知無かったのに、資料を読んで把握して説明してくださって分かりやすかったです！
数物演習	少しずつ自分でも手を動かしていったことで、理解が進んだと思う。どのように進めて行けばよいか丁寧に解説してもらった。

利用後アンケートから ②

支援の質は利用者の声の中に。来期もアンケートの回答依頼をお願いします！

ライティング	・メールのブラッシュアップ案や他人の発表に対する質問の仕方を教えていただき、大変参考になりました。ありがとうございました。 ・この度は相談に乗っていただきありがとうございました。「レポートの書き方がわからない」という大雑把な相談に、とても親身になって答えてくださいました。説明もわかりやすかったです。 ・SLAサポートを初めて利用したということもあって自分の質問が要領を得なかったと思いますが、わかりやすく回答していただけて、疑問が解消しました。ありがとうございました。
英語	・言葉が詰まった時でも、担当の方が優しく接してくれました！また来たいです！ ・分からないところは、日本語でサポートしてくださってありがたかった。それから、最後のまとめのコメントが今後に生きる内容だったのでとても満足している。また、利用したい。 ・フィードバックのタイミング等を個人の要望を聞いてくださったのがよかったです。 ・いつもSLAの方々に支えられているおかげで英語学習を頑張れます。これからも宜しくお願いします。
日本語	・面接においての礼、表情、音調、問題の答え方、暗記方法など貴重な意見をいただきました。 ・今日は日常会話とフォーマルな場合での日本語に関する質問を聞き、いろいろ勉強になりました。 ・スピードがちょと良い、説明もわかりやすい、楽しい時間を過ごしています。 ・めっちゃ応援してくれてありがとう
企画	・[美術館企画]it is really wonderful to talk with others, though, maybe we can see more paintings and each one can just talk with others when we see other artworks, it is a pity we only see three artworks, so I decided to see the museum again on the weekend. ・[英語のお悩み相談会]もう少し時間があった方が良かったかもしれないが、個人的にはこのくらいで丁度いいと思う。

SLA活動報告（各部会より）

発表方法

- 報告時間は8分
  - 前半：化学、企画、ライティング、日本語
  - 後半：物理、数学、英語
- その後の2分間で質疑応答
- 質問や感想をメモしながら聞くとGood！→ふり返りシートにも記入

【確認する】報告の中の〇〇が気になったのですが、もう少し詳細を聞かせてください！
（回答をもらった後に、その質問をした背景/動機を説明したり、回答に対するコメントをしたりすると、なおGood！）

【学び取る】〇〇はとても面白い企画で、自分の部会にも取り入れてみたいです。〇〇を企画するときに何か参考にしたもの、企画をするうえで難しかったところや一番大事だと思う点を知りたいです。

【提案する】自分が前に対応をしていたときに××のような状況に陥ったことがあって、その時は〇〇をして乗り切りました。〇〇みたいな△△をすることが大事かなと思うんですが、どうでしょうか？

48

聞き方のポイント

- SLA全体として、今期どのような活動を行ってきたかを知ろう！
- 他部会の活動について気づいたこと、考えたことをフィードバックしよう！
- 自分たちの部会の活動のヒントを得よう、盗めるものは躊躇せず盗もう！

49

各部会報告スライドURL

化学部会	2023年度前期SLA活動報告.pptx
企画部会	2023年度前期活動報告
ライティング部会	2023年度前期報告会スライド
日本語部会	2023年度前期活動報告会ー日本語会話
物理部会	2023年度活動報告 物理部会
数学部会	活動報告会　数学部会
英語部会	2023前期活動報告会_英語

50

ディスカッション

BMTGでのテーマ一覧
→ 前期計117回（理系54回、言語系63回）実施

【対応のマネジメント】
- 対応のタイムマネジメント・時間配分をどうすれば良い？
- 自然な・不快感のないメモの取り方とは？
- 利用者がある程度理解できてきた時に、どこで切り上げる？
- 利用者とのやりとりが盛り上がってきた時に、どうクロージングする？

【インタラクティブ（interactive）な環境づくり】
- 「リアクションが薄い学生」とどうコミュニケーションをとる？
- 学生への「質問攻め」「インタビュー形式」を防ぐには？
- 自己紹介のときの間（話）が持たない…

【思考のアクティブ化】
- SLAが一方的に教えずに、考えてもらう時間を増やすには？
- 対応時（英会話などの対応内容や進行）のマンネリ化を防ぐには？

【学びへの積極的な介入】
- いつ、どのようなフィードバックをかける（コメント/助言をする）のが効果的？
- 概念や言葉のイメージをつかんでもらうには？
- 利用者の前提知識が不足している場合どうする？

【学びへの寄り添い・伴走】
- 利用者が何に悩んでいるか分からない…そんなときに効果的な質問は？
- 自分が解けない難易度の高い問題に対して、どう対応する？
- その場の一時的な支援だけではなく、長期的な支援・対応をするには？

52

テーマ　15:50まで！

テーマ1：学生との（学生間の）交流・意思疎通を活発にするにはどうすれば良い？

問題状況の例
- 「分かったかな？」と聞いてもリアクションが薄く、理解しているのかどうか分からない
- 対応のときに「質問攻め」「インタビュー形式」になりがちで、利用者の受け身感が強い
  - SLAの説明が難しくて途中からついていけなくなったが、利用学生は「分かりました」と言い、分かったような気にさせてしまっている
- イベントに参加している学生がまったく発言をせず、つまらなそうにしている

テーマ2：学生に思考を働かせてもらうための工夫・仕掛けとは？

問題状況の例
- 「解説をする」「間違いを指摘する」ことが多く、「学生に考えてもらう」機会が少ない
- 考えてもらうけど期待どおりにいかず、結局「自分（SLA）が説明したほうが早い」となる
- リピーターは嬉しいが、話題や中身がいつも同じで「学び」になっているのか、不安

53

例：考えるための基本ステップ

① 日々の対応から問題状況をイメージする
- ➢ そのような状況に陥った経験はあるか？その時の状況は？どうしてそのような状況に？
- ➢そのような状況になりかけたことはあるか？どうやってその状況を乗り越えたか？

② インタラクティブな環境を作ること・思考をアクティブにさせることの意義を考える
- ➢それがなぜ大切なのか？　※それが重要ではない時もある？
- ➢それが欠けているとどうなってしまうのか？

提案の実現可能性についても考えてみよう！

③ テーマに対する答えを提案する

誰が：	1人でできる？	⇔	部会内・部会間で協力したほうが良い？
いつ：	すぐに取り組める？	⇔	準備に（できるようになるまで）時間がかかる？
何のために：	学生の学びに火をつける？	⇔	本物の理解（分かった・できた）を促す？

54

進め方

- テーマ1、2どちらから始めてもOK
- 時間は30分間
- 司会係と記録係をグループの中で決める
- 最初に自己紹介を　基本情報＋最近のマイブーム/趣味

意見を無理にまとめる必要はありませんが、ときおり整理すると論点が見えやすくなる＆全体発表がしやすくなります

- 意見1
- 意見2
- 意見3
- 意見4
- 意見5
- 意見6…

→

【カテゴリー1】
- 意見1
- 意見4
- 意見5

【カテゴリー2】
- 意見2
- 意見3

【カテゴリー3】
- 意見6…

問題状況の例にはないものでも、「学生とのコミュニケーションが上手くいかない」「学生に考えさせることが上手くいかない」経験があれば、積極的に共有してください！

55

資料

【議事録】
- Aグループ
- Bグループ
- Cグループ
- Dグループ
- Eグループ
- Fグループ
- Gグループ

【参考】
- 始礼資料
- 理系協同リフレクションFormの回答フォーム
- 言語系協同リフレクションFormの回答フォーム

56

発表メモ　【テーマ1】学生との（学生間の）交流・意思疎通を活発にするにはどうすれば良い？

Aグループ：

57

発表メモ　【テーマ2】学生に思考を働かせてもらうための工夫・仕掛けとは？

Aグループ：

58

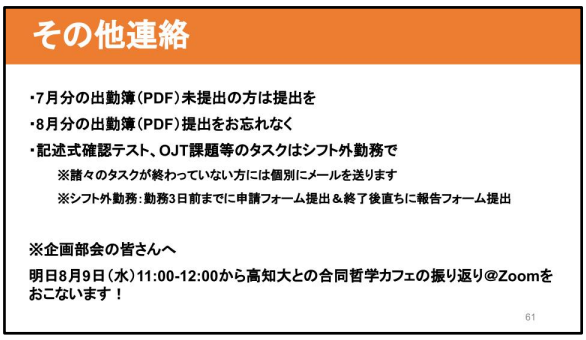
副センター長より ひとこと

今後の予定

- 9月中旬～　：各部会MTG/活動説明会日程調整/基本シフト調整
- 10月2日～13日：各部会第1回MTG
- 10月2日～9日　：後期活動説明会
- 10月10日（火）：後期通常シフト開始！

夏を有意義にお過ごしください～
サポ室からのメール確認もお忘れなく！

60



2023 年度前期 SLA 活動報告会（2023.8.8）の集合写真

２．後期活動報告会：2024 年 2 月 14 日（水）13:00-17:00

録画

2023年度

SLA後期活動報告会

2024年2月14日水曜日 13:00-17:00

※割り当てられたグループの椅子に座ってください

物理	数学	化学	英語	日本語	企画
E. 菅野 翼	A. 渡辺 孝佳	F. 中島 優斗	A. 横島 千仁	E. 江村 玲	D. 須田 華
B. 岡 和俊	B. 竹平 航平	C. 菊地 渉	F. 原 幸日	D. 大津 杏優	A. 福士 海伊
F. 安田 隆人	C. 大橋 春希	ライティング	C. Belli Komessu Pedro	A. 猪股 達也	B. 藤田 飛郷
	D. 越川 崇貴	F. 服部 祥英	D. 根本 浩希		C. 田中 幸希
	E. 鄭 暁城	B. 森谷 菜々絵			A. 生方 颯真
	C. 西淵 裕太	A. 伊藤 黎史			E. 髙 美賀

本日の活動報告会では…

学習支援センター新ホームページの
トップ画に掲載する写真を撮影しています。
皆さんはいつもどおりにふるまってください！

本日の予定

13:00 ～ 会の趣旨説明 （5分）
13:05 ～ 目標の振り返り （5分）
13:10～ ワーク❶目標の評価 （15分）
13:25～ 活動結果速報とセンター総括 （30分）
～休憩・準備～ 5分
14:00 ～ SLA活動報告（各部会より） （90分）
▸（発表8分＋質疑応答4分）×7部会＋休憩5分
15:30 ～ ワーク❷ディスカッション （50分）
～休憩・準備～ 5分
16:25 ～ 卒業プレゼンテーション ※ （20分）
16:45～ 副センター長よりひとこと （5分）
16:50 ～ 写真撮影・振り返りシート記入 （10分）
17:00 ～ 17:45 お疲れさま会（歓談）

報告会振り返りシートの記入

・報告会終了後に全員提出
・メモ代わりに使用してもOKです！

活動報告会の目的

◆今期活動の振り返りをおこない、来期につなげる
・来期活動開始時に「昨年度なにしてたっけ？」とならないように、
・SLA全体の成果、課題、方向性を全員で共有しよう

◆SLA同士の相互交流を「さらに」深める
・SLA/部会内/部会間で「より質の高い学習支援」を探求し、
・連携・協同による相乗効果を図ろう

目標の振り返り

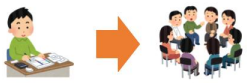
2023年度

学習支援センター 重点目標

1. 学習者の自律的な学習態度形成と学習成果の質保証を意識した協同的リフレクションの実施・強化
2. 多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

学習者の自律的な学習態度形成と学習成果の質保証を意識した協同的リフレクションの実施・強化

＝学生に「自律的」になってもらうべく、また、学習成果を高めてもらうために、SLAのリフレクション（振り返り）をどのように充 実させていくか？



学生への働きかけ、支援の見立て、自己研鑽の仕方、イベント企画や事後評価など、日々の活動を1人・部会内ではなくSLA同士・部会間で振り返り、今後の糧にしていく

多様な人同士がつながる場をつくり、ラーニング・コミュニティの形成を戦略的に促進

＝学内（外）にいる様々な人が出会い、つながり、学び合う・触発し合うようなコミュニティの形成に、SLAはどのような役割を果たせるか？

・先輩と後輩 ・利用者同士 ・異領域の学生同士
・留学生と日本人学生 ・SLA同士 ・その他、様々なつながり作り

「個の学び」から「他者との学び合い」に発展させていくための支援アプローチや工夫を練る

2023年度

SLA研修 目標

1. 英語対応力の向上：留学生に対する学習支援の充実化
2. リーダーシップの向上：SLAそれぞれが各所でリーダーシップを発 揮していく意 識と行動を促す

ワーク❶目標の評価

Q. 年間を通して、重点目標・SLA研修目標はどれくらい達成できたと思いますか？

1. 自己紹介（基本情報＋最近のマイブーム・趣味）

2. 各目標の達成度を評価し、理由（成果・課題）をシェア
   重点目標：SLA全体/活動として
   研修目標：SLA個人として

資料

【議事録】
- Aグループ
- Bグループ
- Cグループ
- Dグループ
- Eグループ
- Fグループ
- ※Gグループ

【参考】
- 理系協同リフレクションFormの回答フォーム
- 言語系協同リフレクションFormの回答フォーム

2023後期 活動結果速報とセンター総括

SLA利用者数

活動説明会説明資料もチェック！

期間：10月10日（火）～2月2日（金）
活動日数：71日

＜個別対応型学習支援＞

	2021前	2021後	2022前	2022後	2023前	2023後
延べ数	723	665	498	402	762	590
実数	300	215	229	135	274	210

＜企画発信型学習支援＞

	2021前	2021後	2022前	2022後	2023前	2023後
延べ数	152	158	253	82	143	297

理系部会（物理・数学・化学）

＜個別対応型学習支援＞

理系科目 利用の状況

- 利用者数

	2020前	2020後	2021前	2021後	2022前	2022後	2023前	2023後
延べ数	259	201	248	260	201	140	344	183
実数	95	92	128	97	121	54	125	72

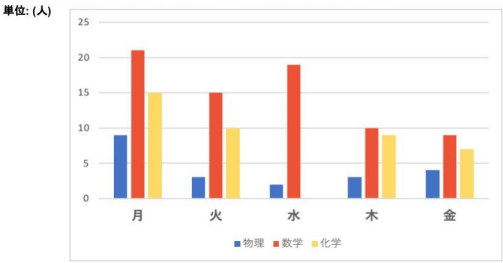
- 科目別利用件数（利用者延べ数）

	2020前	2020後	2021前	2021後	2022前	2022後	2023前	2023後
物理	99	54	59	53	60	24	111	21
数学	103	100	124	137	97	64	142	66
化学	33	15	27	33	7	24	43	41
自科総	4	16	15	9	29	26	23	27
数物	19	11	17	19	14	4	8	8

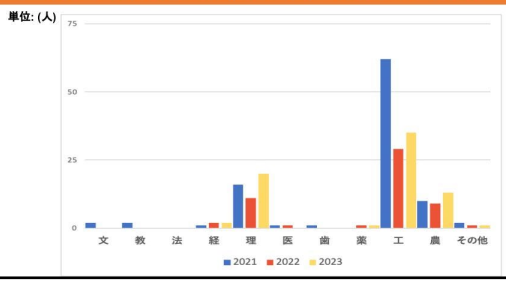
理系 授業別利用者延べ数

授業名	2020後	2021後	2022後	2023後
1. 解析学B	23	61	21	39
2. 自然科学総合実験	17	11	26	27
3. 化学C	9	28	16	19
4. 線形代数学B	50	37	8	13
5. 物理学B	35	44	13	11
6. 応用量子化学	-	-	-	9
7. 数学物理学演習Ⅱ	11	16	4	9

理系 曜日別利用延べ人数



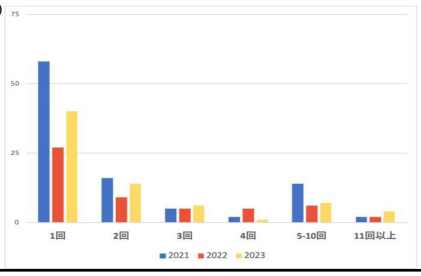
理系 利用者所属学部（後期実数）



理系 利用者学年（後期実数）

理系 利用回数（後期）

単位: (人)



理系部会まとめ

成果

・利用学生減のため、難しい問題にもじっくり対応できた（複数人対応増）

・説明選手権の実施による研修充実と、イベント化による支援対象の拡大

・発信企画の双方向化：4択問題の解説や説明選手権イベントQ&A共有等の即時フィードバック、ホワイトボード上での利用学生との相互交流の模索も

来期に向けて

・1人ではできない作業やイベ準備の円滑な実施：部会内の情報共有と連携
・提案方法を踏まえ、これまでの成果物/資料の整理、引き継ぎ、再活用
・重要な相談内容と対応方法の速やかな共有（対応記録「共有の重要度」）

ライティング部会

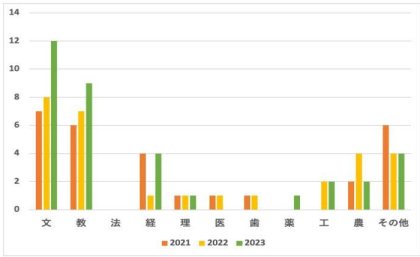
＜個別対応型学習支援＞

ライティング 利用の状況

	2020前	2020後	2021前	2021後	2022前	2022後	2023前	2023後
延べ数（うち留学生）	42（22）	47（42）	115（25）	67（47）	62（31）	59（43）	103（49）	91（53）
実数	20	16	78	28	37	29	46	35

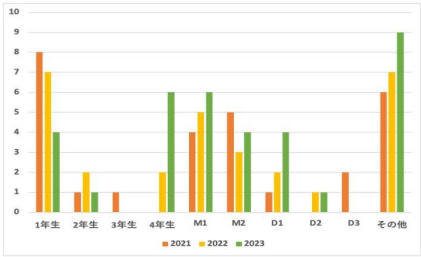
ライティング 利用者所属学部（後期実数）

単位: (人)



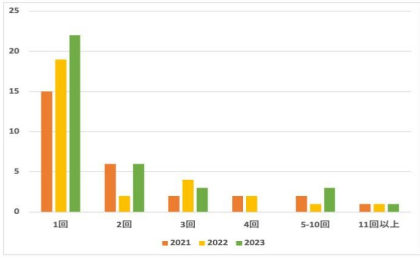
ライティング 利用者学年（後期実数）

単位: (人)



ライティング 利用回数（後期）

単位: (人)



ライティング部会まとめ

成果

- 留学生の日本語チェックのほか、応用的・専門的な対応も
- ポスター企画の実現、講義棟&M棟に掲示中
- 利用者ノート（ヒアリングシート）の活用と業務効率化のための改善

来期に向けて

- （特に留学生リピーター）学びや育ちの保障　×日本語校正チーム
- 改訂版利用者ノートの運用・検証　※フォームの項目はサポ室で調整
- 留学生対応Tipsや新任資料等の業務マニュアルの充実・活用を

英語部会

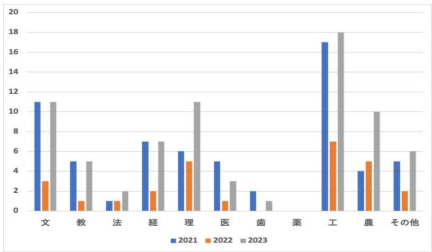
＜個別対応型学習支援＞

英語 利用の状況

	2020前	2020後	2021前	2021後	2022前	2022後	2023前	2023後
延べ数	164 1on1：119 イベ：45	216 1on1：177 イベ：39	276 1on1：243 イベ：33	201 1on1：190 イベ：11	190 1on1：113 イベ：77	88 1on1：62 イベ：26	220 1on1：193 イベ：27	249 1on1：162 イベ：87
実数（1on1）	69	54	82	54	47	27	79	74

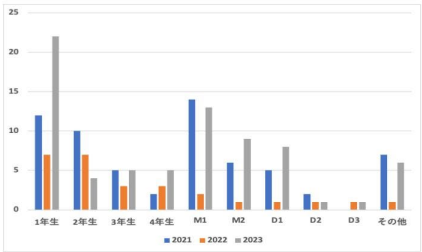
英会話1on1 利用者所属学部（後期実数）

単位: (人)



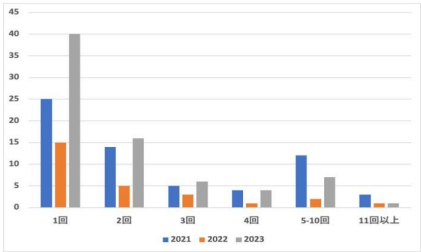
英会話1on1 利用者学年（後期実数）

単位: (人)



英会話1on1 利用回数（後期）

単位: (人)



＜企画発信型学習支援＞

英会話カフェ・イベント 参加者数

英会話カフェ:25回、参加者合計47名、時間帯:16:30-17:10

	月	火	水	木	金	各月合計
10月	30日:5名	31日:4名	11日:1名	12日:0名 26日:0名	13日:2名 20日:1名	13
11月	20日:3名	7日:3名	1日:3名	2日:6名 9日:0名 16日:3名 30日:2名	10日:4名 17日:1名 24日:3名	28
12月	18日:6名	19日:5名 19日:3名	6日:3名 20日:4名 20日:4名	7日:2名 21日:5名 21日:2名	8日:1名 22日:2名	37
1月		9日:2名 16日:2名		11日:1名 18日:2名 25日:1名	19日:1名	9
曜日別合計	14	19	15	24	15	87

＜企画発信型学習支援＞

英会話イベント

イベント名	実施日	実施時間	参加人数
Halloween Party in English	10月30日（月）	16:30-17:20	5
Halloween Party in English	10月31日（火）	16:30-17:15	4
Halloween Party in English	11月1日（水）	16:30-17:45	3
Halloween Party in English	11月2日（木）	16:30-17:15	6
Winter Holiday Event	12月18日（月）	16:20-17:50	6
Winter Holiday Event	12月19日（火）	15:10-16:30	5
Winter Holiday Event	12月20日（水）	15:10-16:30	4
Winter Holiday Event	12月21日（木）	15:10-16:20	5
Winter Holiday Event	12月22日（金）	15:10-16:00	2
			40名

＜企画発信型学習支援＞

英会話カフェ・イベントの感想

- 回を回してくれた担当の方がとても明るくて楽しかったです！
- ハロウィンに関する単語についての知識が増えた。ゲームしながら英語を話すことができて楽しかった。
- 題材が面白く、会話や議論が比較的しやすかった。
- 主催者の補助が適切で初対面の方とも非常に楽しく英語を話すことができた。

- 少し隣の声が気になった。
- もう少しだけ自分が発話をしたかった。
- ゲームが難しくて沈黙が多かった。

英語部会まとめ

成果

- 学生の高い満足度が維持され、例年より多くのリピーターが利用
- 1on1の構造化（はじめ、中、終わり）、カフェイベントの定常化
- 「利用学生同士の交流」のためのウィークリーイベントを実施

来期に向けて

- 過去資料を用いて様々なセッション形式に挑戦(ex: Picture Describing)
- 1回の利用で十分？リピーターになってもらいやすい場づくり
- 部会内連携・情報共有をしやすくするために日誌・日報作りの検討を

日本語部会

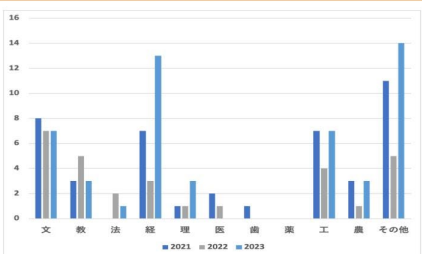
＜個別対応型学習支援＞

日本語会話1on1 利用の状況

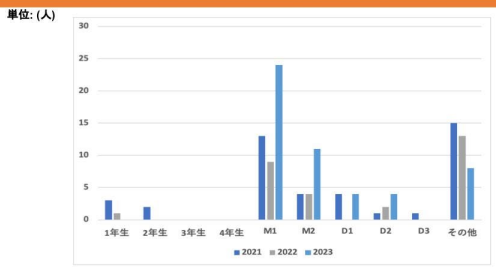
	2020前	2020後	2021前	2021後	2022前	2022後	2023前	2023後
延べ数	109	151	116	94	123	114	137	154
実数	46	59	38	30	45	29	49	51

日本語会話 利用者所属（後期実数）

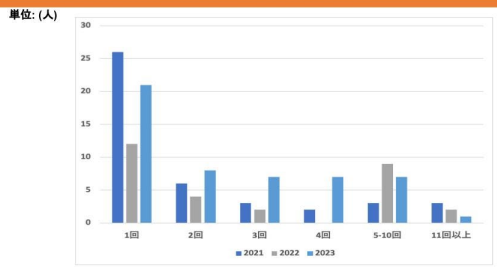
単位: (人)



日本語会話 利用者学年（後期実数）



日本語会話 利用回数（後期）



＜企画発信型学習支援＞

日本語カフェ

時間帯：16:20-17:00（11/17まで）、16:30-17:10（11/21から）

実施日	参加人数
10月23日（月）	8
10月30日（月）	6
11月7日（火）	3
11月10日（金）	1
11月14日（火）	6
11月17日（金）	4

実施日	参加人数
11月21日（火）	2
12月4日（月）	4
12月5日（火）	3
12月11日（月）	5
12月12日（火）	3
12月18日（月）	3

実施日	参加人数
12月19日（火）	4
1月16日（火）	2
1月19日（金）	2
1月22日（月）	4
1月23日（火）	6
1月30日（火）	4

☆参加者の感想☆
- すごくいい交流の機会です。どうもありがとうございます。
- とてもよかったです。みんなはフレンドリーで、いっぱい喋れました。
- カードゲームが面白かったです。

日本語部会まとめ

成果

- 利用学生の高い満足度が維持され、前期同様に多くのリピーターが利用
- 1on1の熟達とノウハウ（Tips）の蓄積、対応時に役立つ資料の作成も
- カフェイベントの定常化と運営方法の確立

来期に向けて

- 「楽しかった」と「学べた」の両立、カフェの構造化（はじめ、中、終わり）
- 部会内での、ノウハウ（Tips）の迅速な共有
- 就活面接練習や時事問題等の高度なトピックや質問例の作成・整理
- 新規SLA増、初任者研修の準備と確実な運用

企画部会

＜企画発信型学習支援＞

企画イベント

イベント名	実施日	実施時間	参加人数	うち留学生
全国大学ビブリオバトル2023 予選	10月25日（月）	18:00-19:30	28	0
高知大学との合同哲学カフェ	10月30日（水）	19:00-20:30	14	0
哲学カフェ「かんがえるソファ」	11月15日（水）	16:20-17:50	12	3
ビブリオトーク	12月4日（月）	16:30-17:50	5	0
「みる」を観察する	12月11日（月）	15:00-16:30	6	2
哲学カフェ「かんがえるソファ」	12月13日（水）	16:20-17:50	3	0
「みる」を観察する	12月18日（月）	15:00-16:30	10	2
高知大学との合同哲学カフェ	12月20日（水）	19:00-20:30	4	0
哲学カフェ「かんがえるソファ」	12月25日（月）	16:20-17:50	5	2
哲学カフェ「かんがえるソファ」	1月10日（水）	16:20-17:50	6	2
哲学カフェ「かんがえるソファ」	1月15日（月）	16:20-17:50	5	2
Productivity System	1月22日（月）	15:00-17:00	1	0
高知大学との合同哲学カフェ	1月29日（月）	19:00-20:30	7	1
			106名	14名

企画部会まとめ

成果

- イベント目的・内容が分かりやすく、参加者を安定的に呼び込み
- イベント前の導線作り、後のフォローアップにより、関心を持続
- 完全分業ではなく1つの事に全員で取り組み、質保証と負担分散

※来期に向けて

- SNS・ブログ等で活動を報告し、興味のある学生にイメージを持ってもらう
- 他のイベントやワークショップから学び、ものにする（時間外研鑽）

全体を通した
成果と来期への手がかり

利用後アンケート　結果概要

	2023後		2023前		2022後	
	回答数	平均点	回答数	平均点	回答数	平均点
物理	8	98.8	26	98.7	4	100
数学	22	100	63	98.1	22	99.5
化学	28	94.4	35	98.9	15	96.4
自科総	7	97.1	11	100	10	98.5
数物演習	1	100	4	100	0	-
ライティング	56	99.3	62	99.1	22	98.1
英語	72	97.9	105	97.9	51	95.3
日本語	76	98.6	84	98.5	62	99.0
企画	イベントによってアンケートの取り方が異なる					

利用後アンケートから ①

アンケートには対応へのヒントが隠れています。嬉しいコメントも！

物理	・真摯になって考えてくださった。今習っている事の発展的な内容まで教えてくださった。 ・弾性率の意味や利用について丁寧に教えていただきました。ありがとうございました。 ・課題の確認だけでなく、実際にどのような処理が行われているのかについても教えていただき、理解が深まった。（情報）
数学	・問題の解法の指針を一緒に考えていただけたのみならず、数式の定義のイメージに返って教えていただき、質問前より理解が深まった。 ・2変数関数について、図的なイメージを持つことができました。テストに向けてモチベーションが上がりました。ありがとうございました。 ・曖昧にしていたところを丁寧に概念を例を挙げながら説明していただいて非常にスッキリしました。
化学	・手を変え品を変え、様々な説明をしてくださいました。90分弱掛かってしまいましたが、丁寧に教えてくださいました。 ・本当にわからないところがたくさん分かったので、救われました ・混成軌道や共鳴等、有機化学の抽象的で理解が難しい内容を分かりやすく丁寧に教えていただきました。 ・空間把握能力が著しく乏しい私でも何とか説明できるようになるまで教えてくださいました。
自科総	・細かい疑問が沢山あって、レポートが進まず困っていました。SLAさんのおかげで、全て解決しました。うまくまとまってないことを話すと、私が自分で苦元に追り着けるように誘導してくれました。おかげで、レポート完成のためにすべき事を把握できました。本当にありがとうございました。

利用後アンケートから ②

支援の質は利用者の声の中に。来期もアンケートの回答依頼をお願いします！

ライティング	・執筆中の文章を見ていただいたので相談材料が少なかったが、現時点で導いただけるなかで最大限のアドバイスがいただけた。 ・自分では気づけない点をご指摘してくださり助かりました。 ・教授のコメントに沿ってどこをどう変えればいいか丁寧に見てくださったのでとてもありがたかったです。タイピングミスの見直しの仕方も教えて頂いたので、完成したらやってみようと思います。
英語	・表現がわからないときも笑顔で待ってくれて、助け舟も出していただいて、かつたくさん話題を振ってもらったので充実した30分だった。ありがとうございました。 ・今回は主に留学のご相談がしたくて、利用させていただいたのですが、どの質問にも親身になって答えてくださいました。留学経験があるからこそできるお話もしてくださり、とてもためになりました。 ・最近英語勉強のモチベーションが低下していたため、良い刺激になりました。 ・英会話をするという目的の達成だけでなく、SAPで行くところのおすすめの所などの話題で盛り上がれた事が良かったです。
日本語	・日本の政治と社会構造についてたくさん勉強になっていて、新しい言葉も学びました。 ・難しいなところで話すとき、先生からちゃんと手伝って、どうやって伝えるのは分かるになります、その上話しが楽しかった。今度もうこいうクラスで参加したい。 ・先生が優しいです。私の日本語が苦手でも、先生は辛抱強く聞いてくれました。
企画	・自分のやり方が先良ではなくどうアップデートした方が良いか分かった。 ・自分の問題意識とは違った角度から意見が飛んでくるので自分の発想の狭さや偏りに気づけた。 ・デジタルとアナログの違いで「本当に同じものと言えるか」という哲学的なところまで考えられたので充実しました。 ・美術に関してあまり知らなくても新しい視点を多くの人と関わることで得ることが出来た。

1. 今期の成果

◎ 利用満足度の高い個別対応
- コロナ禍を経て利用学生増加傾向、SLAの認知度向上中
- BMTGでのTips共有や対応検討、利用学生のカルテ情報の活用

◎ 学びの機会を創り出す「攻めの支援」
- ホワイトボード企画、説明選手権イベント、ライティング・ポスター、カフェの定常化、企画部会イベント
- 発信のフィードバックやホワイトボード交流など双方向性を意識

◎ SLAの働き方改革とデータ活用
- 対応記録の活用模索、ヒアリングシートや利用者ノートの改良
- 資料の引き継ぎ方法の提案
- BMTGでの部会間の情報交換と部会内への還元

2. 来期活動の手がかり

■ 支援の幅、支援観を豊かに広げる
- 学びに悩む学生をすくいとるだけでなく、現状の学びやパフォーマンスに満足している・課題意識を感じていない学生に揺さぶりをかける
- 専門・部会分野の魅力、学ぶことの楽しさ・面白さを周囲に伝染させていく

■ 研修を充実させ、SLAが「学び合う」
- ピアレビューシート等を用いた日々の対応の振り返り
- BMTGや部会MTGで事例検討を取り入れ、望ましい対応・学生との関わりを「具体的に」協議

■ 部会作業やルーティン業務を効率化し生産性を向上させる
- 部会内の協力、全員で進捗把握とフィードバック ※誰もコメントくれない、現状把握できてない…
- 部会間の協力・連携・誘導 ※ライティングと理系、日本語とライティング等
- 過去資料の整理、充実、活用
- 対応記録、ヒアリングシート、利用者ノート等のルーティン業務の継続的な見直しと効果的な活用
- サポ室：言語系予約利用者の適切な誘導 ※相談内容が英語プレゼンなのにライティング予約…

3. 来期の変更点その1

❶ 企画SLAの廃止とSCCの創設
- ➢ 企画部会の活動を学内外の枠を超えた生涯学習の場に開いていく
- ➢ SLAの姉妹コミュニティ「SCC（Student Community College）」を4月から立ち上げ、10名前後で活動開始
- ➢ みんなのセミナー（夏セミや冬セミ）、学習イベントの企画・運営
- ➢ SLAとSCCの交流、連携も深めていく予定

❷ 学務情報システムの投稿減
- ➢ 月8～9回から月2～3回の投稿へ
- ➢ センターHP、SNS（X/Instagram）運用、各掲示案内、利用学生に直接宣伝
- ➢ サポ室：授業担当教員とのコンタクト強化、センターのメルマガ配信も検討中

3. 来期の変更点その2

❸ スタッフ異動

	2023年度	2024年度
センター長	芳賀 満	芳賀 満
副センター長	佐藤 智子	佐藤 智子
SLA担当	新井 庭子	未定
	西塚 孝平	澤田 亮
	佐々木 雅子	佐々木 雅子
SCC担当	―	西塚 孝平

SLA活動報告（各部会より）

発表方法

- ❑ 報告時間は8分
  - 前半：数学、物理、化学、ライティング
  - 後半：英語、日本語、企画
- ❑ その後の4分間で質疑応答
- ❑ 質問や感想をメモしながら聞くとGood！→振り返りシートにも記入

【確認する】報告の中の〇〇が気になったのですが、もう少し詳細を聞かせてください！
（回答をもらった後に、その質問をした背景/動機を説明したり、回答に対するコメントをしたりすると、なおGood！）

【学び取る】〇〇はとても面白い企画で、自分の部会にも取り入れてみたいです。〇〇を企画するときに何か参考にしたもの、企画をするうえで難しかったところや一番大事だと思う点を知りたいです。

【提案する】自分が前に対応をしていたときに××のような状況に陥ったことがあって、その時は〇〇をして乗り切りました。〇〇みたいな△△をすることが大事かなと思うんですが、どうでしょうか？

聞き方のポイント

- SLA全体として、今期どのような活動を行ってきたかを知ろう！
- 他部会の活動について気づいたこと、考えたことをフィードバックしよう！
- 自分たちの部会の活動のヒントを得よう、盗めるものは躊躇せず盗もう！

各部会報告スライドURL

数学部会	2023後期　活動報告会
物理部会	2023年度後期活動報告 物理部会
化学部会	2023年度後期SLA活動報告.pptx
ライティング部会	2023年度後期報告会スライド
英語部会	2023後期活動報告会_英語
日本語部会	2023年度後期活動報告会ー日本語会話
企画部会	2023年度後期活動報告

ディスカッション

テーマ

「チームSLA」を強化させていくにはどうしたら良いか？

今期はBMTG、イベント企画、部会運営の見直しなど、1人ではできない事柄について、SLA同士で協力し合い、考え合う場面が多くありました。これからもSLAは「1人ではできないけど仲間（自部会や他部会のSLA）とならできること」「仲間と一緒に取り組み、全体のパフォーマンスを最大化させること」に挑戦していきます。SLAがチームとしてよりよく機能するために、私たちにできること、私たちがすべきことを考えよう！

考えるための基本ステップ

① 経験を共有する

→部会内あるいは他部会のSLAと一緒に取り組んだことの中で、達成感があったこと、印象に残ったことは何ですか？

実現可能性は気にしなくてOK

② ビジョンを描く

→他のSLAと協働して来期どのようなことをしたいですか？それはなぜ？

（既存の取り組み、温めている取り組み、思いつきの取り組み、何でもOK！）

③ ビジョンを具体化させる

→仲間とやりたいことの実現において、現状の課題は何ですか？どう打ち破りますか？

→仲間とやりたいことを成功させるために、効果的な準備や工夫は何ですか？

→もし失敗するとしたら原因は何であり、いかにして失敗を回避しますか？

条件・考えるポイント

① 卒業SLA・企画SLAは「来期もSLAとして活動している」という前提で

② チームSLAの「目的」と「状況」を明確に

・窓口対応：対応の質を高めるために

・イベント企画：ラーニング・コミュニティを形成するために

・部会運営：上記を可能にする自律的・協力的な部会づくりのために　etc.

進め方

【ディスカッション】

・時間は40分間

・司会係と記録係を決める

※記録はできるかぎり誰がみても分かるように詳細に

【全体発表】

・グループごとに発表

・問いの「答え」

※列挙ではなく一番盛り上がった話題を

資料（再掲）

【議事録】

・Aグループ
・Bグループ
・Cグループ
・Dグループ
・Eグループ
・Fグループ
※Gグループ

【参考】

・理系協同リフレクションFormの回答フォーム
・言語系協同リフレクションFormの回答フォーム

SLA卒業プレゼン

副センター長より ひとこと

今後の予定

3月中旬～	：	各部会MTG/活動説明会日程調整/基本シフト調整
4月1日～12日	：	各部会第1回MTG
4月1日～5日	：	前期SLA&SCC合同活動説明会
4月8日～12日	：	履修&学修相談会　※SLA&SCC合同企画
4月15日（月）～	：	SLA前期通常シフト開始

春休みを有意義にお過ごしください～
サポ室のメール確認&返信もお忘れなく！

ToDoリスト

❶ 報告会振り返りシートの記入 [全員要提出]

❷ 活動ふり返りシートの記入 [全員要提出]

❸ 2月分の勤務時間確認 [全員要対応]
→後日、佐々木さんからのメールを要確認

❹ 2024年度前期の雇用手続き [来期継続SLA]
→佐々木さんからのメールを要確認、早めに対応（3/1締切）

みんなで写真撮影📷

対面とオンライン、一緒に撮ります！

3 グラフィック・レコーディング研修会

日時：5/19（金）15:30~17:30
会場：川内北キャンパス　M 棟 1F（SLA ラウンジ）

◆ イベントの目的

大学生は様々な目的やメンバーで頻繁に話し合いを行っている。話し合いを効果的に行うことで、研究や学習の効果、あるいは仕事の効率性が格段に向上する。そのために重要なのが、話し合いを円滑に進めるための「ファシリテーション」スキルである。

その中でも今回は、ファシリテーション中級者向けの研修として、グラフィック・レコーディング（グラレコ）をテーマとしたワークショップを開催した。日頃からグラレコのスキルを駆使して仕事をしている外部講師をお招きし、グラレコの基本、グラレコの効果、グラレコができるとどれほど仕事の幅が広がるのか等を、実践的な視点から講演いただく。また、ワークショップの中では、実際にグラフィックを描いてみる演習の時間も多く取り入れる。以上を通して、グラレコの意味や効果を参加者に理解してもらうと同時に、レコーディングのスキル向上を図り、SLA やその他の学生の活動の中に実践的に取り入れるきっかけを提供する。

◆ 講師：丸川正吾氏（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社・副主任研究員）

公共政策に関するシンクタンクとして、行政の計画作りの支援や自治体の調査等を行っている。東京大学大学院修了後、森ビル株式会社に勤務。東日本大震災を契機に、被災地での建設を通じてコミュニティを再建する米国 NPO に転職。宮城県石巻市で活動を行った後、現職へ。

◆ ワークショップの構成

・講師自己紹介

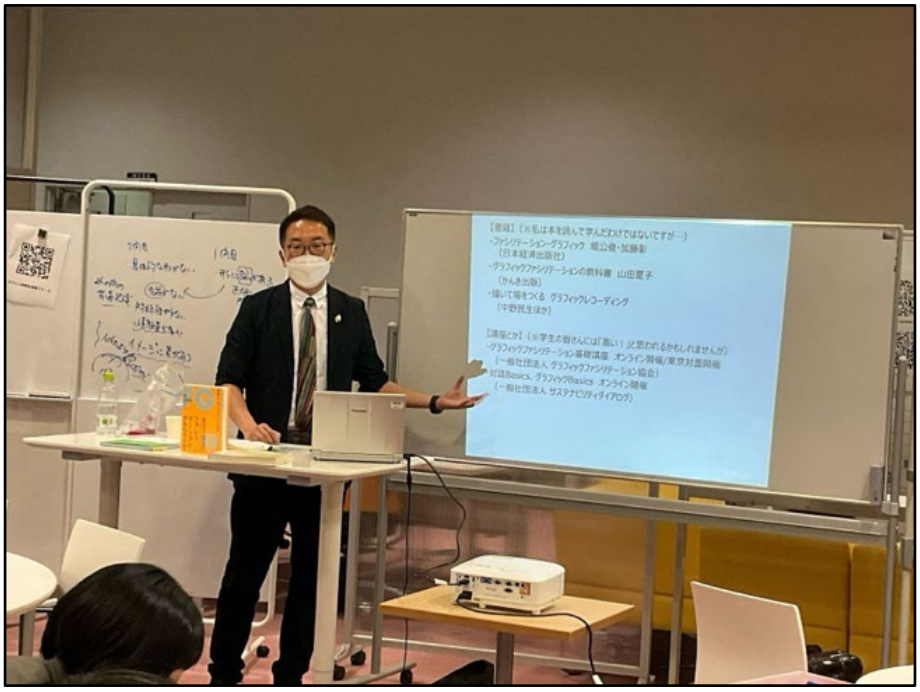
・ワーク①：見えているものをことばで伝えられるか？
・絵を使った記録とその活用について
・グラレコのデモンストレーション
・グラレコを取り入れた実践において気をつけていること・コツなど
・ワーク②：好きな料理の「レシピ」を聴き取って描いてみる
・学びを深める・実践するには？

◆ 参加者：12 名（SLA6 名、一般参加者 6 名）
内訳：B2 年 1 名、B3 年 1 名、B4 年 5 名、M 院生 3 名、D 院生 2 名

◆参加者からの感想（同一参加者のコメントが複数含まれています。）

- グラフィック、カラフルさがあることによって記録に大きな価値が生まれると感じました。

- イラストを説明するペアワークを通して、共通認識の重要性と難しさを感じた。普段の議論においても同様に、自分はわかっているつもりのことが他の人には伝わっていないことが存在すると気づき、お互いのためにわかりやすく伝えることを改めて意識していこうと思った。
- グラレコでの記録を通して、会議の流れやダイナミックな動きが見てとれることがとても印象に残りました。
- 絵を描きながら話を聞くと、話が頭に残りやすいということに驚き、「これは使える」と強く感じた。
- グラフィックレコーディングは、綺麗な記録を録ることと同じかそれ以上に、話し合いの場を円滑にするために活用されるものであると学んだ。
- ファシリテーションは司会進行を進める人とグラレコをする人のチームワークが欠かせないということが分かった。グラレコがあることによって司会を務める人も今の議論がどのような流れになっているのかを分かるようになり、お互いに助け合いながら議論を進行しているような感じがした。
- 会議の動きを絵で表せるということを学んだので、会議に面白みを加えたり参加者のエンゲージメントを高めるための工夫として、スキルをつけたいと思った。また、デジタル上でうまくできるようになりたいと感じた。
- 人の研究の発表を聞くとき、これまでは文字だけでメモしていたが絵も使うことを考えてみたい。
- 授業など説明を聞く機会にグラフィックレコーディングに取り組んでみる。
- 普段ミーティングをする機会が多くあり、自分がファシリテーションもしながら議事録を取るということもしてしまっていたので、今後役割分担ができるようにしたいと思った。


【書籍】（※私は本を読んで学んだわけではないですが…）
・ファシリテーション・グラフィック 堀公俊・加藤彰
（日本経済出版社）
・グラフィックファシリテーションの教科書 山田夏子
（かんき出版）
・描いて場をつくる グラフィックレコーディング
（中野民生法か）
【講座とか】（※学生の皆さんには「高い！」と思われるかもしれませんが）
・グラフィックファシリテーション基礎講座 オンライン開催/東京対面開催
（一般社団法人 グラフィックファシリテーション協会）
・対話Basics、グラフィックBasics オンライン開催
（一般社団法人 サステナビリティダイアログ）

5．部会活動報告

1 物理部会

1．前期

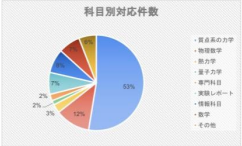
2023年度前期活動報告
物理部会

2023年8月8日

目次

1. 利用者傾向
2. 利用傾向の分析とその対策
3. プログラミング対応
4. 発信作業
5. 引き継ぎについて
6. 2023年度前期の総括

利用者傾向



- 例年通り、工学部学生の利用が最多
- 前年度に比べ農学部の利用者が減少し、理学部学生の利用が増加
  → 数学や情報系の質問が多い傾向
- 合計135件の対応のうち、半数以上が質点/質点系の力学に関する質問
- 前年度までと比べて情報科目の質問が顕著に増加

利用傾向の分析と対策

傾向の分析

- 回転運動に関する質問が頻出
- 時期に関係なく実験レポート対応
- 情報科目の利用者数増加

➡ 概念は理解できているが、具体的な計算に不慣れ
➡ SLAの知名度が潜在的な需要に呼応
➡ 物理部会がプログラミング対応の受け皿に

後期に向けて

- 時期ごとに頻繁に来る質問は例年とほぼ変わっていない
- 曜日・時間帯によって利用者数に大幅な増減

➡ これまでの資料をまとめ、時期に合わせて即時発信できるように準備する
➡ 他部会と連携し、適宜対応の配分・分散を行っていく必要性

プログラミング対応

概要

- **プログラミングに関する相談が増加 (Chat GPTの影響か？)**
- 幅広い層が利用
  - 文理問わず。どの曜日にも一定数需要あり。
- 質問内容も人それぞれ
  - アルゴリズム理解やデータ解析系 (言語はPythonが多い)

今後の対応方針

- **対応可能なSLAの把握**
  - **物理部会に限らず、どのSLAが対応可能かを後期に向けてリスト化**

発信作業

今期行なったこと

- 新入生向けチェックテスト
- ホワイトボード企画
  - 知っておくと役立つ！？物理学豆知識
  - 英語で使いこなそう理系用語
- 広報　各1回
  - 学務情報システム
  - Twitter (𝕏)

後期に向けて

- 発信にかかる時間を短縮
  - 今までの発信内容の再発信
  - 確認を簡略化

＋ 日常対応の忙しさに合わせ、新規企画 or 既存企画の発信を切り替える

引き継ぎについて

これまで

- （以前）部会ごとに同一のクラスルームを複数年使用
  → 引き継ぎ（過去の資料へのアクセス）… ○　資料の探しやすさ… ×
- （最近）一年ごとにクラスルームを更新（＋理系部会でクラスルームを統一）
  → 引き継ぎ（過去の資料へのアクセス）… △　資料の探しやすさ… ○
- 先輩の作成した資料が卒業後にアクセス不可に（編集権限の影響か？）

資料の引き継ぎ方法の見直しが必要に

引き継ぎについて

暫定案

- 一年ごとのクラスルームの更新は継続
- 日頃からクラスルームとドライブの整理を意識する
- （年度末など）引き継ぎが必要なものはコピー作成
  →クラスルーム内の引き継ぎ用フォルダにまとめる
- （次年度）前年度の引き継ぎ用フォルダをそのまま移動する

後期に向けて

他の部会と一緒により良い引き継ぎ方法を考えていくことが必要

2023年度前期の総括

- 利用者傾向
  物理の対応は例年と同様。プログラミング対応の需要が高まる。
- プログラミング対応
  Pythonを中心に需要が高い。部会を越えて連携していきたい。

- 発信作業
  最低限できたが、あまり時間を割けなかった。後期はもう少し発信したい。
- 引き継ぎ
  過去の資料の積極的な活用のために、資料を利用しやすいように整理する。

2．後期

2023年度後期活動報告
物理部会

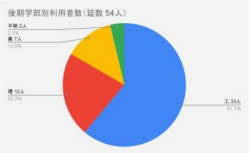
2024年2月14日

目次

1. 利用者傾向
2. 発信作業
3. 資料共有
4. まとめ

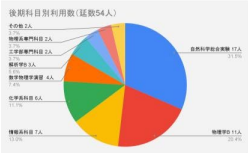
利用者傾向

後期利用者延数：54名（サポート含む）



- 例年通り、工学部の利用者が最多（科目は様々）
- 利用者のバランスも例年通り

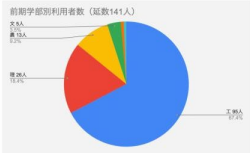
通年：195名（サポート含む）



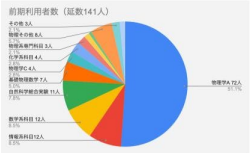
- 例年通り、自然科学総合実験、物理学B（工学部材料力学）が多い
- 理学部専門科目は減。情報系、化学系が増。
- 数学、化学のサポートも何件かあり

利用者傾向

前期利用者延数：141名（サポート含む）



- 工学部が大半
- その他は理学部、農学部など



- 半分は物理学A
- 情報系科目、数学系科目、自然科学総合実験なども多め

利用傾向の分析と対策

傾向の分析

- 標準的（発展的すぎず、基本的すぎない）な対応が多め
- 自然科学総合実験、情報系も一定数あり

- ❑ 学生の需要に柔軟に対応
- ❑ 本当に支援が必要な学生には声が届いていない？

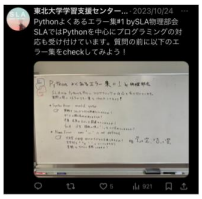
来年度に向けて

- 標準的な対応力の強化を継続。
- ポスターなどでの広報。SLAの存在を認識してもらう。
- 実験、プログラミングなど、利用者のニーズに合わせた柔軟な対応を。
- 数学、化学部会との相互協力。連携を深めて必要に応じて手を取り合う。

発信作業

今期行なったこと

- ホワイトボード企画
  → Pythonの基本（プログラミング対応の宣伝）
- **広報→ 学務情報システム、𝕏**



↑ pythonでよくあるエラー集

来年度に向けて

- 広報ポスター作成
  コロナ以前は毎月、その月に来るであろう質問を掲示していた。
- 説明選手権も開催予定

※来年度からは学務情報システムでの発信がしづらくなるかも?

資料共有

要件定義

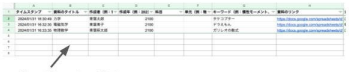
- 資料には**気軽に**アクセスできるようにしたい
- 資料の情報が**一目で**分かるようにしたい
  - 求めている資料が「アーカイブとしてあるか」がすぐに分かる
  - 逆に、新しい資料作りの判断材料としても利用できるような感じに
- **年度をまたいでも**利用できるようにしたい

ひとまず、最も単純な方法として…

- 資料保管場所はGoogle Drive
- スプレッドシートで管理
  （フォームから情報を記入する仕組みによって、気軽さを演出）

資料共有

概要



スプレッドシートの様子

- SLA物理 資料管理用フォーム（仮）
- SLA物理 資料管理シート

年度をまたいだ引き継ぎのために…
SLAのメーリングリストに保管場所の管理者権限を与えることで、資料作成者がSLAを卒業しても自由に編集できるようになる？

資料共有

当面の方向性

- Google Classroomの**資料全体**を翌年度へ移行
  - 低リスク（過去のClassroom自体が削除されても資料は残る）
  - 新SLAでも閲覧・編集可能
- 来年度のシフト時に資料を記録したスプレッドシートを作成

★ 今後も部会ごとの継続的な資料整理の必要あり

2023年度の総括

▮ 利用者傾向

標準的な対応が多め.

実験・プログラミングの需要もあり. 理系部会全体で協力して柔軟な対応を.

▮ 発信作業

ホワイトボードおよびネット上での広報. 来年度は毎月の広報ポスター

▮ 資料共有

・Google Driveで保存し, スプレッドシートで管理する

・当面はGoogle Classroomの全体を翌年度へ移行

・SLAのメーリングリストに保管場所の管理者権限を与えるなどの方法も

2 数学部会

1．前期

数学部会 活動報告

2023年前期SLA活動報告会

目次

1. 利用傾向
2. 傾向の分析
3. 利用における課題と対策
4. 部会作業
5. まとめ

1. 利用傾向

- **利用者数の傾向**

  延べ人数は増えたが、全体的に利用者数は少なり。

  曜日や時期によって利用者数は大きく異なる

  学務情報システムの広報の影響あり？(後述)

- **利用科目の傾向**

  中心的な科目：解析学・線形代数学(例年通り)、数物演習
  特殊な科目：文系の数理統計、情報科目(python)、記号論理学

$$\frac{1}{\sqrt{2\pi\sigma^2}}\exp\left(-\frac{(x-\mu)^2}{2\sigma^2}\right)$$

(p→(q∧r))→(s∨((¬q)∧(¬s)))

2. 傾向の分析

- **利用者数について**

  新入生の利用の割合が多い

  ⇒年度始めに行った"履修＆学修相談会"や

  学務情報システムによる宣伝効果

- **利用科目について**

  特定の大変な授業、文系の数理統計

  ⇒口コミによって広まっている

3. 利用における課題と対策

課題

- **中間試験前**
  - イプシロンデルタ論法, 基底, 写像に関する定番問題
- **中間試験後**
  - 重積分, 行列式, 統計に関する質問が多い
- **利用学生にある問題点**
  - 頼りすぎによる思考放棄
  - 定義確認問題がよくある

対策

- 教えすぎない, 学生に考えてもらう, 一緒に資料を確認して学生を啓発する

4. 部会作業

理系チェックリスト

- ❑ 文系向けと理系向けを作成
- ❑ 一年生向け内容でキャッチーに
- ❑ 回答数が少ない…

説明選手権

- ➔ ルジャンドル変換と熱力学(吉野)
- ➔ 金になる数学：確率微分方程式と資産(渡辺孝佳)
- ➔ Stokesの定理と金属材料（大橋）
- ➔ What is 機械学習？(越川)

- ❑ 資料をまとめるには時間が足りないので、イベント化を検討(対面or夜に配信)

学習お悩み相談(案：渡辺楓、ポスター作成：渡辺楓➡吉野)

- ❑ 相談一件(数学の定理の証明を全部覚えた方がいい？)
- ❑ わざわざ投稿しない。立地の問題で見てもらえない。支援の時に内容を拾うべき？

5. まとめ

- **利用傾向**
  - 全体的に少なめ、曜日や時期によって大きく変化する。
  - 解析や線形代数に加え、数理統計や情報科目の質問があった。
- **部会活動**
  - 学習お悩み相談やチェックテストの実施
  - テーマ自由の説明選手権を実施

2．後期

数学部会 活動報告

2023年後期SLA活動報告会

目次

1. 今期の活動概要
2. 部会MTGで出たTipsの共有
3. 過去資料の整理・ホワイトボード企画
4. 説明選手権（公開イベント）
   a. 説明選手権とは
   b. 公開イベント化
   c. 実施した反省点
5. まとめ

---

1. 今期の活動概要

- **対応**

  各曜日の利用者傾向・分野傾向・Tipsについて

  部会MTGで共有

- **部会作業**

  ホワイトボード企画

  説明選手権の公開イベント化

---

2. 部会MTGで出たTipsの共有

- **計算ソフト等の利用**

  計算ソフトの使用：計算自体への理解が十分で、目的の計算が非本質的な場合。 時間節約

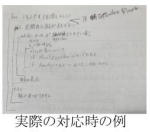
  描画ソフトの使用：図形的な理解を深めてもらいたい場合。 理解の深化

  具体例： Wolfram Alpha, Grapes

- **プログラミング対応**

  プログラムの設計図・概略図を書いてもらう

  - 文法的なミスでない場合の対処
  - こちらで意図を解読するより時間の節約となる場合が多い
  - 説明と実装のギャップにも気づける



実際の対応時の例

---

3. 過去資料の整理・ホワイトボード企画

- **過去資料の整理**

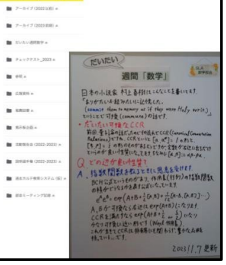
  資料共有ルールの策定

  - 資料の作成、共有をGoogle Drive上で行う

  過去カルテ検索システムの構築（途上）

  - 目的：過去カルテ情報の積極的な活用
  - 対応内容などで検索し、一覧できるように構築中

- **だいたい週間「数学」**
  - ホワイトボード企画（M棟トイレ前）
  - 数学に関する発展的な小話を掲載



---

3. 説明選手権(公開イベント)

a. 説明選手権とは

- 目的：SLA内における説明ノウハウの共有・検討
- 方法：一つのテーマについて複数人で説明
- 2023年前期までは部会内で実施

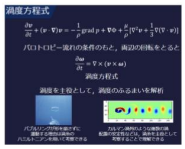
b. 公開イベント化

- 2023年後期より、Zoomにて公開イベント型で実施
- 第一回：11/15（水）（申込38人，参加25人程）：自由テーマ 19:00~20:00 発表者3人
- 第二回：1/17(水)（申込7人，参加6人程）：ベクトル解析
- 19:00~20:00 発表者4人
- 大学院生からも「いろいろな分野の話が聞けて良かった」などの反響

---

3. 説明選手権(公開イベント)

c. 実施後の反省点



1. **準備・開催時期**
   - 準備に関しては、1~1.5カ月くらい必要。
     発表者に関しては、内容によってはもっと必要。
   - 広報に関しては、2~3週間前くらいから複数回に分けて実施すると効果が高い。
   - 1月開催の2回目では、期末テストや年末年始の帰省なども影響したのか、参加者が少なかった。今後開催する上で、イベントの開催時期の調整は重要になりそう。
2. **イベント・アンケート**
   - 1人10分の持ち時間は短かったかも。
   - 参加者の学年・学部などの情報について、参加者アンケートに答えてくれなかった人のデータが集められなかった。事前の参加申し込みフォームなどで収集しておいた方が良かった。

---

5. まとめ

- **活動概要**
  - 対応：曜日間のTipsの共有　計算ソフトの活用
  - ○ 過去資料の整理
  - ○ イベント：公開イベントの実施

    ホワイトボード企画

3 化学部会

1．前期

2023年度前期SLA活動報告会
化学部会

本日の流れ

1

- 対応状況と傾向
- 課題点と対応策
- 発信作業
- 後期に向けて

対応状況と傾向

2

対応状況: 例年に比べて、利用者数は増加

学務情報システム?
対面での口コミ?

化学A
- 特定の問題より全体的な確認の対応が多い
- 問題の基礎となる概念を理解していないため、問題が解けないという人が多い

自然科学総合実験
- 考察の書き方についての質問が多い
- 実験自体の質問内容は似た傾向

課題点と対応策

3

化学A　概念の説明、化学Aの全体的な流れのサポートが必要

▼

- ✔ 読みやすい教科書の紹介
- ✔ 説明選手権の公開
- ✔ 対応において、基礎となる概念の理解の確認

自然科学総合実験

レポートの書き方に慣れていない印象

▼

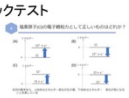
- ✔ 実験レポート良い例悪い例の作成
- ✔ 質問内容のまとめ(自科総Tips)

発信作業

4

化学チェックテスト・教科書紹介・説明選手権・化学A 4択問題

化学チェックテスト



正答率の低い問題は、詳細な解説を作成

▼

高校化学・大学化学の基礎を確認

教科書紹介

教科書を読めていないため、概念の理解ができていない

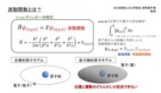
▼

初学者向けからある程度理解している人向けなど、難易度を分けて、教科書を4冊紹介(Twitter発信)

発信作業

5

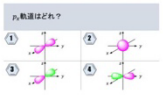
説明選手権(波動関数)



様々な説明
- 波動関数から化学結合まで絡めた説明
- 波動関数自体の詳しい説明

実際の対応も、学生によって理解のしやすい導入が異なる
(図的にイメージ、数式的か)

化学A 4択問題



テスト期間中に量子化学に関する全8問を出題
(ポスター掲示)

後期に向けて

6

基礎のサポートを手厚く

対応　基礎となる概念を理解しているか確認(質問)

発信活動　説明選手権の公開、教科書紹介(読む癖をつけてもらう)

後期の発信活動
- 化学B, Cチェックテスト
- 化学B, C4択問題
- ホワイトボード企画
- 化学B, C説明選手権の実施と公開

2．後期

2023年度後期SLA活動報告会
化学部会

本日の流れ

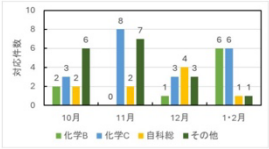
1

- ■対応状況と傾向
- ■課題点と対応策
- ■発信作業
- ■来期に向けて

対応状況と傾向

2

23年度後期の対応状況
・化学Cの質問が多く、期末前に化学Bの質問が多かった。
・専門科目の対応が例年と比べ増加した。



化学C
→農学部、工学部（化バイ）の利用者が多め
→教科書・授業の説明不足、基本的な理解の補助

化学B
→期末試験対策
→演習問題の確認

専門科目
→発展的な内容で難しい対応が多かった。

課題点と対応策

3

化学C
・教科書や講義の説明不足
・同じ問題に質問が集中
＝つまづきポイントが一緒

→
・クライン有機化学などのわかりやすい教科書の紹介
・4択問題で理解できていない部分の確認

発信作業

4

化学B・C教科書紹介

化学C 4択チェックテスト

発信作業

5

説明選手権（公開型）の実施

【開催の概要】
日時：2024年1月10日（水）19:00-20:00
テーマ：共鳴（有機化学）
形式：zoom
一人発表10分 +質問5分で4人が発表
最後に30分、全体的な質問の時間

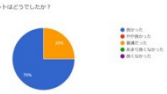
当日参加者：7名

公開型実施の前に部会ミーティングでも発表

発信作業

6

説明選手権（公開型）の実施



改善点
・準備不足があり，準備するバランスの難しさ
・質問が少なかった。（zoom開催のせい？）
・SLAが一方的に説明する感じになってしまった。
・参加者の層がどの程度なのかを事前に情報収集するべきだった。

来期に向けて

7

対応
→化学A（量子化学）および自然科学総合実験が中心

発信作業
- 説明選手権
- 化学A四択
- ホワイトボード企画
- 自科総いい例悪い例
- 教科書紹介（化学A）

部会ミーティング（物理・化学）の様子
（2023. 10. 3 撮影）

4 ライティング部会

1．前期

ライティング部会

SLA2023年度前期活動報告会
8月8日（火）13:00〜16:00

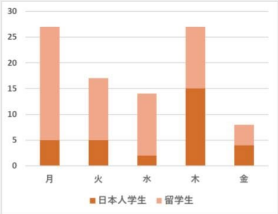
目次

1. 利用者の傾向・分析・対策
   1.1 傾向（野々瀬）
   1.2 分析（伊藤）
   1.3 対策（小田切）
2. 部会内の資料共有など
   2.1 カウンセリングスキル（森谷）
   2.2 利用者シートの導入（服部）
3. 来期に向けて
   3.1 告知・広報活動（加藤）

1. 利用者の傾向・分析・対策

1. 傾向

- 月曜日、木曜日の利用者が多い
  月曜日は唯一の2人体制
  木曜日はドロップインが多い
- 留学生の利用が多い
  留学生は予約、日本人学生はドロップインで来る傾向



表：ライティング利用者の内訳

1. 利用者の傾向・分析・対策

2. 分析

- 日本人学生の利用が少ない
  - 日本人学生に対して**適切な告知がなされていない**可能性がある。
  - 月〜水、金曜日は、一年生がSLAを利用しづらい要因がある？
- 一年生への対応に改善の余地がある
  - レポートを完成させてからSLAの利用に訪れる人が多かった。
  - **問いの設定やアウトライン**など、レポートの根幹に関わる部分の修正は限定的なものになりがち。

  レポート作成の初期段階での利用を促す必要がある。
- 「ライティング」よりも「日本語」の課題に取り組む事が多い
  - 留学生の中には、ライティングの指導より日本語の表現に関する質問の比重が大きい人がいる。

  日本語の表現についての相談は、日本語部会に協力を仰ぐことができるか？

1. 利用者の傾向・分析・対策

3. 対策

- 活動内容を正しく認知してもらうための**広報活動**
  - 日本語チェックや、完成したレポートの添削以外にも、**問いの設定、アウトラインの作成、論証の構築、参考文献の調査など**についても相談に乗れることを知ってもらう。
  - **ポスターを作成する**（取組み中、詳細は「**来期に向けて**」で紹介。）
- 日本語部会との**連携**の強化
  - 当日にお互いの部会の予約件数や活動内容を把握しておいて、対応内容次第では、任せたほうがよいのかどうかをその場で相談できるようにする
  - 広報の仕方を工夫する

来期の課題：**広報と他部会との連携**の強化

2. 部会内の資料共有など

1. 対応に活かせるカウンセリングスキル

- 部会を跨いだ課題
  - 「反応が薄い学生にはどのように対応する？」「利用者に考えてもらう時間を増やすには？」といった悩み

- 常に「**共同作業**」のイメージをもって進める
- SLAとして軸（見立てと支援の方針）を持ちつつ，利用者さんの話を引き出しながら「提案」を行う

2. 部会内の資料共有など

1. 対応に活かせるカウンセリングスキル

- 対話技法の例

▸**いいかえ**（今説明してもらったのは，〜ということ？）
：①SLAが利用者さんの話を正しく理解しているか確認できる
②きちんと理解していることが利用者さんに伝わり，話を引き出しやすくなる
▸**開かれた質問/選択肢つきの質問**（どう直すと良さそうかな？/ここに書いてもらっているのは，〇〇という意味？それとも，XXという意味？）
：利用者さん自身に考えてもらうきっかけを作ることができる

2. 部会内の資料共有など

2. 利用者シートの導入

利用者の情報、どう整理していますか？

ライティング部会の場合）

- 対応カルテ
- 部会作業引継ぎ
- 対応振り返り

全利用者1シート

利用者ごとの対応履歴の把握が困難

英語部会の「ヒアリングシート」をアレンジ

新たに「利用者シート」を導入

- 対応カルテ
- **利用者シート**
- 日報

1利用者1シート

過去の対応履歴を一目で把握

3. 来期へ向け て

- **告知・広報活動**

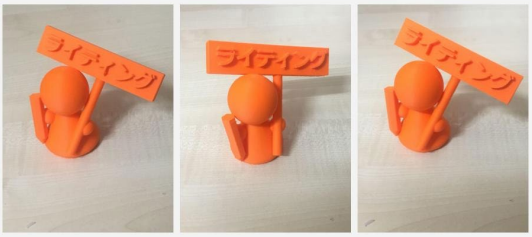
「あ、ライティング勉強したい、誰かに見てもらいたい」と思ったときに、目に留まるようなポスター作成

- 目的：学生の新規開拓
- 対象者：日本人大学生/留学生の学部生・大学院生
- 内容：知っていたらお得なライティングTips
  （文献収集/管理方法、引用の書き方 etc.）

1人当たり1枚のポスター掲示することを目標

作成中

部会作業



２．後期

ライティング部会

SLA2023年度後期活動報告会
2024年2月 14日（水）13:00～17:00

目次 2

◆ 今期の活動内容
- 対応
  - ・SLAの活動状況（伊藤さん）
  - ・利用傾向と分析（服部さん）
  - ・課題と対策（野々瀬さん）
- 部会作業
  - ・ポスターの掲示 （森谷さん）
  - ・利用者ノートの運用/改案 （小田切さん）

◆ 来期の活動に向けて
- ・対応（増田さん）
- ・部会作業（増田さん）

対応｜SLAの活動状況 3

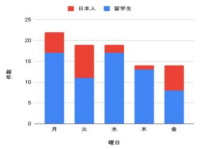
◆日本人利用者の相談内容
- 『レポート指南書』に書かれていない細かい事項の確認
  - ○ e.g., 発行年がないときは？、映画の引用は？、複数の異なる文献を同時に引用したいときは？
    - ➡ ● SLA各自が論文執筆に関する知識を身につける
    - ● 『レポート指南書』改訂のための情報集約
- 卒論・修論に関する相談
  - ○ アウトラインや書式などの、分野に共通した知識についての非専門的質問
  - ○ 利用者の専門分野に関する専門的質問
    - ➡ ● SLAが対応可能/不可能な範囲を明確に伝える

対応｜SLAの活動状況 4

◆留学生利用者の相談内容
- 日本語の文法チェックが多い。
  - ➡ ● リピーターの方向けに、日本語文法チェックリストを作り、対応の最後にお土産として持って帰ってもらう？
    - ○ e.g.,「主語・述語が一致している」「主語が明示してある」
    - ○ 日本語文法の誤り方の傾向を一人一人明確にし、それをお土産として持って帰っていただくことで、利用者が一人でレポートの日本語チェックができるようになる。
  - ● 母語別の日本語のつまずき方の情報集約

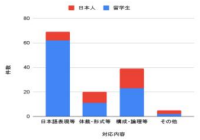
対応｜利用傾向と分析 5

◆曜日ごとの利用者の内訳



- どの曜日も日本人よりも留学生の利用が多い
- ただし火・金では日本人学生と留学生の割合はほぼ同等

◆対応内容ごとの利用者の内訳



- 留学生による日本語表現の相談が最多
- 全対応件数89件のうち7割近くの対応で日本語チェックを行っている

SLAの実感通り、日本語表現に関する相談の需要が大きい

対応｜課題と対策 6

◆**課題**：利用学生の幅を広げる
- ❖ 日本語チェック以外にも、ライティングの知識を必要とする対応を行う

◆**対策**：広報の方法の見直し
- ❖ ポスターの使用の拡大（SNSへの投稿など）
  - → ポスターによる広報の効果測定も行う
- ❖ 広報対象の明確化、広報強化期間の設定

部会作業｜ポスターの掲示 7

◆ねらい
- ❖ 学生のライティングサポート利用の促進
- ❖ レポート指南書＋αの情報提供：クイズ，イラスト，身近なテーマを用いて分かりやすく伝える

◆内容
- ❖ 引用の方法
- ❖ パラグラフライティング
- ❖ 文献収集の方法 etc...

◆今後
- ❖ バリエーションを増やす
- ❖ 掲示するだけでなく，使える資料として保存する

完成したポスターから講義棟に掲示しています😊

5 英語部会

1．前期

SLA英語部会
2023年度前期活動報告

2023年8月8日（火）
発表者：近森、ヤン

報告内容

01 活動内容

02 良かった点と改善点

03 来期に向けて

01 活動内容

1 on 1 対応
イベント

1 on 1 対応

利用者
- リピーターが多数、毎週利用する方もいた
- TOEFL等の資格試験対策のために利用する方が一定数がいた

対応
- 基本は1on1対応
  - ヒアリングシートを見て事前に会話内容を考えた上で対応した
  - マテリアル(Engoo)を使用して対応することもあった
- 7月は英会話カフェも実施（週に2回、1時間）
  - 事前にテーマを決めた上で対応した

イベント

新歓（アイプラネットと共同開催）
企画部と日本語部のイベント支援

美術館イベント（企画部会の支援）
美術館で作品を鑑賞し、英語で議論・発表

カフェウィーク（テーマ「夏休み」）
カフェ形式（複数のSLA・利用者）で
夏休みの過ごし方について話し合い

期間：　6/26 ~ 30　（計5日間）
参加人数：　計16名（1日の最多は8名）

02 良かった点と改善点

1 on 1 対応
イベント

1 on 1 対応

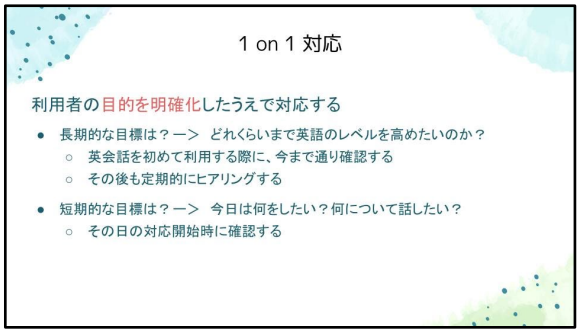
良かった点
- 最後にフィードバックを行い、利用者が自分の課題に気づけるよう工夫できた
- ヒアリングシートを活用し、その人に合った対応を準備してから対応できた
- 共同リフレクションで他部会からもらったアドバイスを基に課題を解決できた

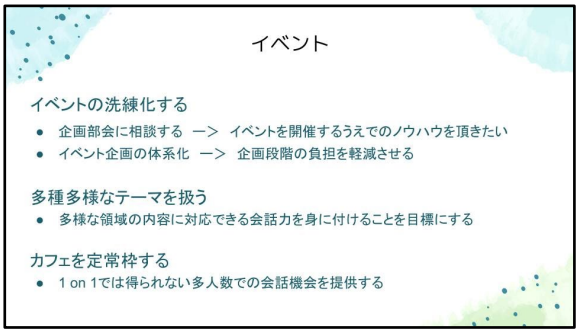
改善点
- 30分間の対応時間を超えてしまうことが度々あった
  →タイマーを活用し、時間厳守を徹底する
- 会話を始める前に利用者のニーズを確認できていなかった
  →対応の冒頭に利用目的の聞き取りを行うようにする
- 試験対策（TOEFL、TOEIC等）に特化した対応ができていない
  →必要に応じて教材（本やサイト等）を用意する

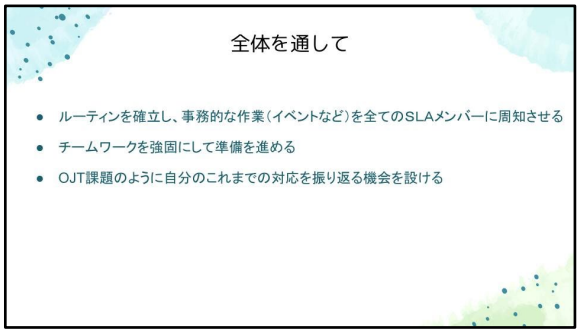
イベント

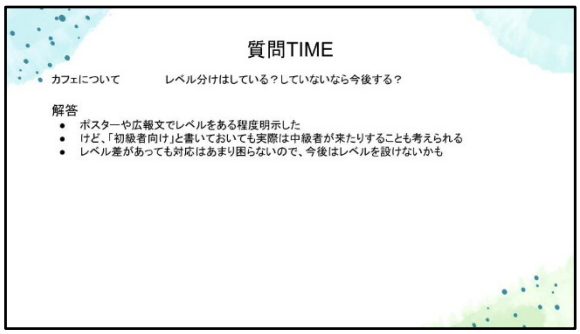
良かった点
- 連絡先を交換するなど、参加者同士の交流の場になっていた
- アンケート結果から、利用者の満足度が高かった
- SLAが複数人いると会話を続けやすく、余裕をもって対応できた

改善点
- カフェウィーク当日は、アンケート対応でバタバタしたり、長時間の対応になってSLAの負担が大きくなることがあった
  →長時間のイベントでは事前に流れを共有したり、休憩時間を設定する
- 複数人での議論では利用者のレベルによって話す量が偏っていた
  →SLAが会話中に個々の発言量をチェックし、発言が少ない人に質問を投げかけたりして配慮する









SLA の活動風景（2023 年 7 月 18 日撮影）

2．後期

Hi there!

SLA英語部会
2023年度後期活動報告

2024年2月14日（水）
報告者：根本、ペドロ

Are you ready?

報告内容

- 1on1概要・イベント概要
- 1on1・イベント：よかったところ
- 1on1課題・イベント課題
- 年度総括
- 全体の課題・来季の目標
- Q&A

報告内容

- 1on1概要・イベント概要
- 1on1・イベント：よかったところ
- 1on1課題・イベント課題
- 年度総括
- 全体の課題・来季の目標
- Q&A

1on1概要・イベント概要

1on1：
- 利用者の大多数は日常会話の練習を好むが、時折面接や発表の練習をする人もいる。
- 試験の練習を目的とする利用者はほとんどいない。
- 利用者は学部生も研究生も両方利用している印象。

イベント：
- 日によって異なるが、カフェには平均で2―3人が参加している。

報告内容

- 1on1概要・イベント概要
- 1on1・イベント：よかったところ
- 1on1課題・イベント課題
- 年度総括
- 全体の課題・来季の目標
- Q&A

---

1 on 1 よかったところ

対応：
- フィードバック・まとめの時間の確保，今後につながるアドバイス
- 時間管理は前期よりできるようになった
- 話しやすい雰囲気に成功
  - 笑顔，話題，失敗してもok，SLAと利用者の話すバランス

利用者：
- 多くの新規の利用者がリピーターになってくれた
- 毎週来てくれるリピーターさんが多め
- 強い目標や練習内容を持ち込む方も
  - 長期的な上達

イベントよかったところ

英語カフェ：
- 定期化できた
- 毎週何回も開催
  - 利用者さんの都合に合わせた

その他イベント：
- 各曜日で違う内容のイベント
  - バラエティあり，利用者のニーズに合わせたイベント
- 役割分担，イベントの準備が円滑に進めた
- ポスターのデザインが良かった
- 参加者が多かった

報告内容

- 1on1概要・イベント概要
- 1on1・イベント：よかったところ
- 1on1課題・イベント課題
- 年度総括
- 全体の課題・来季の目標
- Q&A

---

1 on 1 課題

- 利用者一人一人の目標や要求を積極的に引き出し、そのニーズに合わせた対応や、迷ったときの自律性をサポートできる取り組みの余地がある
- 学会発表スライドなど専門的な内容はSLAが提供できるサポートが限られる
- 時間の効率化と時間管理の徹底が必要だ（残業を無くそう！）
  - 利用者が連続する場合のフォームやスプレッドシートの記入時間不足
  - ヒアリングシートと利用者カルテの統合提案（参考：ライティング部会の取り組み）
  - 紙ベースの対応記録とスプレッドシートの重複問題
- ドロップインが少なく、ほとんど常に予約が埋まっていたため、1on1と英会話カフェのメリハリが要検討だ

イベント 課題

- 作業のもっと細かな確認が必要（ポスターチェック、より良い広報の吟味等）。
- 英語学習の場としても機能するようなイベント企画の工夫が必要（ゲームの場合は内容によってあまり利用者があまり発話せず、ファシリテーションの負担が増えることもあった）
- プランニングやMTGの時間確保が困難だった。もっと連携をとる必要がある
- 効率的な作業進行システムの検討（共通のかんばんシステムとスタンドアップミーティングの導入）
- 長期イベントの準備作業量の検討（1日だけのイベントに比べて1週間イベントの方が圧倒的に作業量が多い）

報告内容

- 1on1概要・イベント概要
- 1on1・イベント：よかったところ
- 1on1課題・イベント課題
- 年度総括
- 全体の課題・来季の目標
- Q&A

年度総括

- SNS(X)ができてない
- 今年度はカフェが定常化してきた
  - カフェだけに来てくれる人もちらほら（→参加しやすい？）
- 最新版スプレッドシート（カルテ）について
  - 課題：利用者増えてきてシートの検索が困難になってきた。
  - 解決策：目次のシートを追加、目次に学籍番号＆氏名を書き加えるプログラムを追加（Apps Scriptを使用）
  - 成果：目的のシートを探しやすくなった。リスト化されているので見てわかりやすい。
  - 改善案：目次は学籍番号順かひらがな順にするともっと見やすくなる

年度総括　新しいスプレッドシートの使い方

ステップ1

目次を更新する（新しく追加されたシートを目次に追加する）

リボンにある「カスタムメニュー」→「目次の更新」

ステップ2

目次のシートを開き、学籍番号で検索する（Ctrl + F）

ステップ3

目次に目的のシートがある場合
表示されるURLを押すとシートが開ける

目次に目的のシートがない場合
新しいシートをテンプレートをコピーして作成

報告内容

- 1on1概要・イベント概要
- 1on1・イベント：よかったところ
- 1on1課題・イベント課題
- 年度総括
- 全体の課題・来季の目標
- Q&A

全体の課題・来季の目標

1 on 1 について

課題	来季の目標
● 対応のパターン化 ● 対応後の振り返り・SLA同士での学び合いの不足	● 利用者の英語学習の特有な目的をSLAが一緒になって明確にする ● それを対応に反映できるよう工夫を加える

全体の課題・来季の目標

イベント について

課題	来季の目標
● 参加者数の伸び悩み（特に英会話カフェ） ● 宣伝で多くの学生に情報が届いていない	● 開催数を減らすことで、特別感を持たせる ● 広報に工夫を加える(ポスターなど)

全体の課題・来季の目標

活動全体に関して

課題	来季の目標
● SNSを見ている人からの反応が無い… ● イベント準備の負担が大きい… ● カルテ等事務作業が勤務時間内に終わらない…	● SNSの乗り換えも視野に入れつつ、コンテンツの充実 ● 業務効率化のためのシステム開発・提案

Q and A session

Any questions??

・カフェの内容
→曜日ごとのやり方を共有してもいいかも
・1on1の予約が埋まるのにも関わらず、カフェの参加者数が少ない
→カフェの存在が知られていないのか？それともカフェより1on1の方が需要あるのか？（グループで話すことへの抵抗？）
・曜日間の連携の強化
・SNS等発信の工夫（公式ラインやインスタ？）

THANK YOU!!!

6 日本語部会

1．前期

2023年度
日本語SLA前期活動報告

日本語部会
鏡耀子　江村玲　小森谷仁子
松尾美祐　畑敦也
曾我部沙也加　猪股達也

1

目次

1. 利用状況
2. イベント
3. 対応に関する工夫・バックヤード
4. 広報
5. 来期に向けて

2

利用状況

利用者について
- リピーターの方が多かったが、広報を流した後には新規の方も多く来てくれた。中国・台湾からの留学生の方の利用が多く、ほとんどは日本語のレベルも高かった。日本語のみで会話を続けることが難しい利用者の方には、英語を用いたり、単語を書き起こしたりして対応した。
- どの曜日も予約枠が大体埋まっていたが、6月はやや空くこともあった。学務情報システムで広報を行うと予約は一気に埋まるようになった。

活動内容
- 日常会話を通しての日本語会話の練習
- 院試に向けた口頭試問の練習
- 日本語の文法・表現、日本の生活・マナーについての質問対応
- 発表資料の原稿の日本語の確認
- 就活・インターンのESの添削

会話でのトピック
- 季節の話題（七夕などのイベントや、連休・長期休暇の過ごし方など）
- 自己紹介の掘り下げ（出身地について、仙台での生活、出身国と日本の違いなど）
- 日本語学習についての相談（普段の授業で困っていること、勉強の方法など）

3

イベント

SLA×IPLANET新入生歓迎イベント 4/17
- 日本語分科会「日本の中の異文化発見！～気づこう！話そう！地元の魅力～」
- 参加者　2名
- 新入生（日本人学生）と日本の中での文化差を発見することで、異文化交流を体験してもらった。

日本語カフェ　7/4, 6, 7
- 参加者　計7名
- 日本語学習者のうち上級者を対象としたカフェ形式のイベント。
- トピック例「日本についての情報交換会～スポット編～」
- 参加者の興味に合わせて、トピック以外の話題も話した。
- 1on1ではできない、複数人で話し合うことができた。
- 普段の会話に近い形式で会話の練習ができた。
- 同じ週に連続で3回行ったためか、最後回は参加者がいなかった。

4

対応に関する工夫・バックヤード

対応記録
- Googleフォームのカルテ（最低限の記録）＋Excelのヒアリングシート（利用者の特徴や対応内容などの詳細な記録）
- ヒアリングシートに次回担当者への申し送り欄を設け、スムーズに引き継げるようにした。

対応のための資料
- よくある間違いをまとめた資料を作成した。
- 日常会話のネタ切れ防止のため、ネタをストックしておく資料を作成した。

マニュアル
- 新任者研修のため、対応の流れや留意点をまとめたマニュアルを作成した。
- シフト内で読み合わせを行ったり、対応時に参照したりして利用した。

5

広報

公式LINE
- 前年度の目標であった配信を開始しました。
- 日本語tipsや予約状況を配信しました。
- 友だち募集中です！勧誘に力を入れています。
  →目標は友だち100人です！

ポスター
- 日本語中級者で、漢字使用者でない学生向けにやさしい日本語でポスターを作成しました。
- 日本語初級者向けに英語版ポスターを作成しました。

6

来期に向けて

利用状況
- マナーに少し問題のある利用者がいたため、サポート室に協力を仰ぎながらマナーについても教えられる機会があると良い。
- 会話練習を希望する利用者が多かったため、話題のトピックについての資料を充実させたい。
- 留学生の就活関連、レポートに関する質問が多かったため、どこまで支援をするか（どこからレポートライティング部会、キャリア相談センターにお願いするか）の線引きが必要。

イベント
- 日本語カフェが好評だったので、来期は週1回、定期的に実施する。
  - あらかじめ仮のトピックを用意する（参加者に合わせて変更する）。
  - 学期初めは、来日したばかりの留学生に向けたトピックにする。
  - 人数が多い場合は名前を覚えられないので、ネームプレートを用意する。

対応に関する工夫・バックヤード
- 資料を充実させつつ整理する。
- ヒアリングシートに載せるべき情報を検討する。

7

2．後期

2023年度
日本語SLA後期活動報告

日本語部会
江村玲　小森谷仁子　松尾美祐
畑敦也　曽我部沙也加
猪股達也　大津杏優

1

目次

1. 1on1
   - 利用状況
   - 対応に関する工夫・バックヤード
2. 日本語カフェ
   - 利用状況
   - 対応に関する工夫・バックヤード
3. イベント
4. 広報
5. 来期に向けて

2

1on1: 利用状況

利用状況（ドロップインなし、予約のみの対応、予約はほぼ埋まる、リピーターが多い）
活動内容と具体例

- 日常会話を通しての日本語会話の練習
  - 季節の話題（年末年始の過ごし方、など）
  - 自己紹介の振り下げ（出身地、仙台での生活、出身国と日本の違い、趣味、普段の日本語を使用する機会、など）
  - 利用者、SLAの研究内容の話
  - 日本のエンタメの話
- 日本語の文法・表現、日本の生活・マナーについての質問対応
  - 若者言葉の使い方（話の流れから）
  - 細かい語彙・表現・文法の違い（持ち込み、一般的な話）
- 就活の面接練習・ESの日本語添削
- 発表資料の日本語の確認（ライティング部会とのすみわけ問題あり）

3

1on1: 対応に関する工夫・バックヤード

対応中の工夫

- 中級者の方には、細かいことは気にせず、日常会話で重要な点だけに絞って指摘した。最後の振り返りを大切にした。
- 上級者の方には、細かいニュアンスの違いや、どういう印象を与えるか、どういう感情の時に使うのか、等について話した。また、意図的に普通ではあまりしないトピックにして、苦手を発見した。
- 裏紙に、今日話したことやアドバイスを記入して、渡した。
- タイマーを使うと、利用者もSLAも時間を意識できた。
- 名前を呼んで挨拶することで、人物の間違えを防止し、さらに利用者との距離が縮まった。

ヒアリングシートの活用

- 対応語した内容
- 日本語学習の目的
- 新たに覚えた表現
- 次回の人への申し送り事項
- 利用者の特性（積極的に話してくれます、物静かな人です etc.）
- 同じ人が対応したほうが良いか、色んな人と話したいかの希望
- 呼び方（苗字＋さん、など）

ヒアリングシートの例

作成した資料

- 対応マニュアルの更新
- 対応マニュアル（台本）の作成
- 長時間話せるちょっと難しめの語彙リストの作成

4

日本語カフェ: 利用状況

実施状況

- 週に1～2回、毎週16:20~17:00(40分)
- 初回のみテーマを定めて広報→実施、2回目以降はテーマなし
- 広報は学務情報、ポスター、公式LINEを用いて行った
- 終了後に利用者アンケート、SLAスタッフの振り返りを毎回実施。各曜日の実施状況を把握できるようにしていた(Googleフォームで記入、スプレッドシートで確認)

SLAスタッフ間の振り返りシート例

利用者アンケートQRコード

5

日本語カフェ: 利用状況

利用状況

- 利用者は毎回2-6人(平均4人)、出身は8割以上が中国、その他エストニア、台湾、東南アジアなど
- 曜日によって利用者数にバラつきがあった。月曜日の利用者数が多かった。
- 利用者のレベルは9割以上が上級者、稀に中級者
- リピーターが多く、友情が芽生えていた
- 好評で、「開催時間が短い」という相談が相次いだ
  →来年度は1on1の需要も考慮しながら、開催頻度・時間を調整

活動内容

- ①自己紹介と季節ネタを絡めた雑談
- ②カードゲーム（キャット&チョコレート、こころかるた、カタカナーン、Ito）
- いずれも、利用者の発話量が多くなるように心掛けた
- 適宜、自然な日本語や若者間で用いられる日本語の解説を挟んだ

6

日本語カフェ: 対応に関する工夫・バックヤード

1on1との違い

- 留学生同士の出身地の違いを利用した会話が多かった
- 留学生同士が仲良くなり、ラーニング・コミュニティができた
- ゲームによっては自分で文章を組み立てて長めに話すことができた

対応の工夫

- 留学生の人間関係（初回／リピーター）や日本語のレベルによって話す量を偏らせない
  - 自信がない学生の隣に座って、適宜理解の確認や通訳をした
- 雑談だけではファシリテーションが大変だったので、ゲームを活用した。
  - 「こころかるた」、「キャット&チョコレート」、「カタカナーン」

作成した資料・運営Tips

- カードゲームのルールをやさしい日本語で書き直した
- 参照すべき資料へのリンクをまとめたドキュメントを作成
- リフレクションシートを細かく書くことで前回の内容がわかり、引き継ぎができた

7

イベント

英語部会合同クリスマスイベント

- 伝言ゲームでクリスマスカードを作成
- 参加者は5人(日本人3人、外国人2人)
  広報の内容が日本人学生向けだった。
- 司会進行およびイベント準備は英語部会。
- 日本語部会は日本語の添削と当日のサポート。
- イベントに参加してよかったと感じてもらえた。

Canvaで作成したクリスマスカード

伝言ゲームによるクリスマスカード

広報

広報手段

① 学務情報システム
② 公式LINE
③ Instagram

内容

- 日本語カフェの告知
- 1 on 1 の告知
- 日本語Tips

◎公式LINE

- 現在友達の数: 50名
- 日本語カフェの宣伝をコンスタントに行う
  →いつ誰が何を投稿するか、投稿頻度の目安をどうするか考える必要あり
- 予約投稿を活用する
- 告知だけでなく、日本語Tipsや、他のコミュニティのイベントの告知および日本語学習関連の情報も流していく

◎Instagram

- ヨーロッパ系の学生向け、英語で初級者向けの情報を発信してみる

来期に向けて

1on1

- ヒアリングシート活用の継続（良いところはそのまま、改善できるところは変えていく）。
- 上級者リピーターのSLA卒業を促す。留学生とつながりたい日本人学生とつなげていく。

日本語カフェ

- 今後もレベル設定は行わずに幅広い参加者を募る。
- SLA側の資料を充実させていく（対応マニュアル、トピック、Tips等）。
- リフレクションシートで情報を共有。

広報

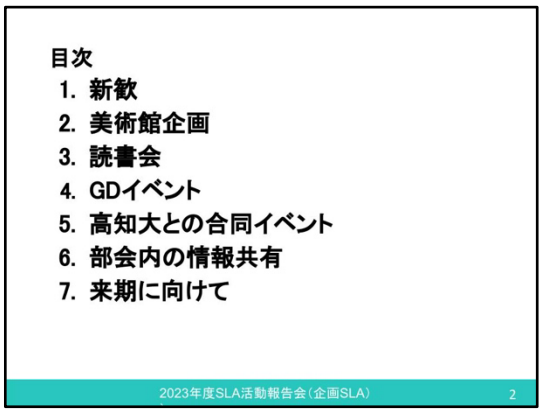
- LINE→投稿頻度UP♪。内容の充実（告知、Tips、他のコミュニティの情報、日本語学習関連）。
- Instagram→多くの留学生が利用しているため検討中。英語で初級者向けの情報発信。

10

7 企画部会

1．前期

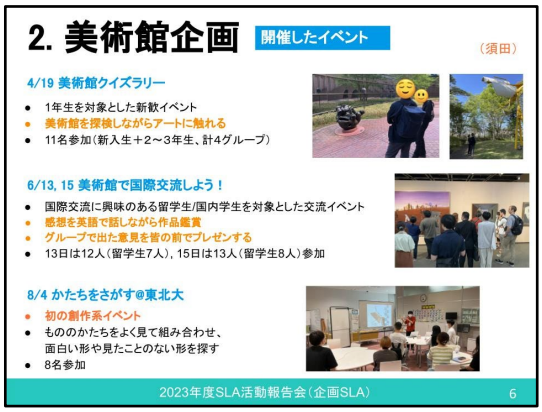
2023前期
企画部会 活動報告
須田華　福士海伊　藤田脩椰
生方颯真　日下部翔大　田村彩奈

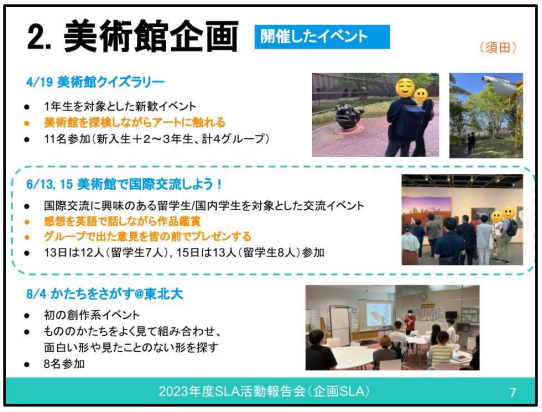

目次
1. 新歓
2. 美術館企画
3. 読書会
4. GDイベント
5. 高知大との合同イベント
6. 部会内の情報共有
7. 来期に向けて
2023年度SLA活動報告会（企画SLA）
2

新歓の取り組み

1.新歓
（生方）
IPLANET合同イベント
Twitter
どちらを選ぶ？「究極の2択」
東北大学SLAイベント企画チーム
【必見】東北大学では授業料や入学料免除の制度が非常に整っています。しかしながらあまり知られていないことや締め切りが非常に早く、早めに準備しなくてはなりません…詳しくはこのページを参照してください！www2.he.tohoku.ac.jp/menjo/
Translate Tweet
7:00 PM · Mar 25, 2023 · 218 Views
1 Retweet　2 Likes
- ディスカッションのイベントを企画
- 人数が集まらなかったため、非実施
- IPANETと企画部会の方向性のすり合わせが難しかった
- 新入生を早期から囲う初めての取り組み
- 前年度後期に文章を準備、予約投稿
- タグで検索されるようなワードを入れる必要あり？ #春から東北大 #春からC4
- 来年は@sla_tomosodachiの方で、他の部会と一緒にやったほうが認知度が高まるのでは
2023年度SLA活動報告会（企画SLA）
4

各種企画の紹介


2. 美術館企画
開催したイベント
（須田）
4/19 美術館クイズラリー
- 1年生を対象とした新歓イベント
- 美術館を探検しながらアートに触れる
- 11名参加（新入生＋2～3年生、計4グループ）
6/13, 15 美術館で国際交流しよう！
- 国際交流に興味のある留学生/国内学生を対象とした交流イベント
- 感想を英語で話しながら作品鑑賞
- グループで出た意見を皆の前でプレゼンする
- 13日は12人（留学生7人），15日は13人（留学生8人）参加
8/4 かたちをさがす@東北大
- 初の創作系イベント
- もののかたちをよく見て組み合わせ、面白い形や見たことのない形を探す
- 8名参加
2023年度SLA活動報告会（企画SLA）
6


2. 美術館企画
開催したイベント
（須田）
4/19 美術館クイズラリー
- 1年生を対象とした新歓イベント
- 美術館を探検しながらアートに触れる
- 11名参加（新入生＋2～3年生、計4グループ）
6/13, 15 美術館で国際交流しよう！
- 国際交流に興味のある留学生/国内学生を対象とした交流イベント
- 感想を英語で話しながら作品鑑賞
- グループで出た意見を皆の前でプレゼンする
- 13日は12人（留学生7人），15日は13人（留学生8人）参加
8/4 かたちをさがす@東北大
- 初の創作系イベント
- もののかたちをよく見て組み合わせ、面白い形や見たことのない形を探す
- 8名参加
2023年度SLA活動報告会（企画SLA）
7

2．後期

2023後期
企画部会 活動報告

須田華　福士海伊　藤田脩椰
田中幸希　生方颯真　馮美賀

1

目次

1. 美術館企画
2. ビブリオバトル&ビブリオトーク
3. かんがえるソファ・広報企画
4. 高知大との合同哲学カフェ
5. Productivity System

各種企画の紹介

3

1. 美術企画 「みる」を観察する

（須田）

日程：2023年12月11日, 18日　15:00-16:30
参加者数（留学生数）：1回目　6(2)名, 2回目　10(2)名

どんなイベント？

「みる」って身近だけど、意外とどう見ているのか（何に着目してる？印象の違いは？など）には無頓着だよね…という発想からできたイベント。

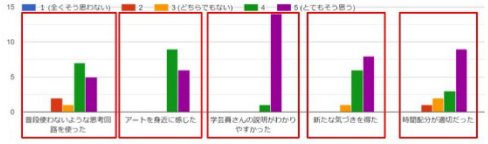
ワークを通して、**素材による見え方の違い、描かれ方による印象の違い**などを考えました。

1. 美術企画 「みる」を観察する

（須田）

満足度：
90%以上の参加者が8~10点と回答
（10点満点中）

参加者感想（抜粋）
○絵を見る時に、コンテクストでしか見ていないということに気づけた
○今はネットで何でも見れるけれど、実際に見る、体験することとの違いに気づけた
○美術に関してあまり知らなかったが、多くの人と関わることで新しい視点を得た。
▲もう少し長くても良いと感じた



各項目において高評価
特に学芸員さんの説明がわかりやすい！という声が多かった

2.1 ビブリオバトル

日程：2023年10月25日　18:00-19:30
参加者数：28名！！

チャンプ本となったのは、『小説の小説』でした！

ビブリオバトルとは

発表者がおすすめ本を持ち合って1人5分のプレゼンテーションを行い、観客が一番読みたくなった「チャンプ本」を決めるイベント

参加者感想（抜粋）
○好きな本の熱を浴びるのは楽しい！
○バトラーが説明する本全て興味を持って読みたくなりました。
○オーディエンスの方がニコニコして聞いてくれたのが嬉しかったです！

▲会場が静かすぎたような気はする
▲発表後に交流会がないのは寂しい

2.2 ビブリオトーク

日程：2023年12月4日　16:30-17:50
参加者数：5名（うちオンライン2名）

ビブリオトークとは

ビブリオバトルよりもカジュアルに本の話ができるイベント

BGMを流し、イベント終了後に交流会を実施した

参加者感想（抜粋）
○普段自分では手に取らないような本を知ることが出来て面白かったです！
○哲学的な話や、本読みならではの表現が飛び出して面白かったです！
○ビブリオバトルとはまた違って面白かったです

3. かんがえるソファ広報企画

（田中）

ホワイトボード掲示＆Twitter運用

10/30	深夜の赤信号渡るのどう思う？	7票
11/13	学ぶって楽しい？辛い？	6票
11/20	人間関係のありかた	30票
11/27	どこまでが多様性	23票
12/11	あなたは内向的？外向的？	5票
12/25	もし100万円があったら？	5票
1/9	新年の抱負はたてますか？	2票

総括
◆SLAアカウントにリツイートしてもらえると認知度合いが高まる
◆票の多さと参加人数は関係がなさそう

3. 広報企画

（田中）

ホワイトボード掲示＆Twitter運用

アンケート形式で道行く人の回答を集めました。
考えるソファの告知をかねて、1－2週間前に張り出していました。

総括
◆工事等でM棟内に置かれることが多く宣伝機能を十分には果たせなかった
◆考えるソファの告知を兼ねること自体は意義があるように思える

3. かんがえるソファ

（福士）

イベント実施

11/15（水）	学ぶって楽しい？辛い？	12名
12/13（水）	どこまでが多様性？	3名
12/25（月）	あなたは内向的？外向的？	5名
1/10（水）	良いお金の使い方って？	6名

参加者感想（抜粋）
○新しい考えを自分に取り入れられるのが魅力的
○交流感がいい
○日本語の練習ができた
▲席が狭かった
▲発言者に偏りがみられた

総括
◆前期よりも回数を増やしながら、1回あたりの参加者数も増加した
◆当日のリマインドメールを見たことがきっかけの参加者が一定数みられた
◆定期開催により、リピーターの増加が見込まれる
◆平均満足度(n=24): 86.9点/100点

4. 高知大との合同哲学カフェ

（藤田）

イベント実施

開催日時	担当大学	テーマ	予約人数計(人)
10/30	高知大学	豊かさってなんだ？	20
11/27	東北大学	深夜の赤信号、渡る？渡らない？	11
12/20	高知大学	働くってなんだ？	12
1/29	東北大学	なぜ私たちは「対話」をするのか	7

参加者感想（抜粋）
○自分の中だと絶対に出てこない視点にふれることができてよかった
○新たな視点が得られた
○いろんなiFで考えること

今後は
◆チャット機能をより活かしたい
◆時には収束の徹底に拘ってみたい
⇒今後も交友関係を発展させ、合同企画を

5. Productivity System

（馮）

～限られた時間を如何に有効活用するか～

日程：2024年1月22日　15:00-17:00
参加者数：1名

大学に入ってから24時間をどう使うかを自分で決めれるようになって、その使い方によって、大学生活が変わってきます。
本イベントでは、参加者が自分の生活を振り返り、理想の大学生活を送るヒントとなるタイムマネジメント術を紹介しました。

総括
◆テスト期間だったから、参加者数が少なかったと思います。
◆初めて本イベントを1対1でできたため、参加者の状況に寄り添いながらイベントを進めることができ、良い経験となりました。

まとめ：他部会の方に還元できそうな点

成果
・事前申し込みを無くしたイベントでは、飛び込み参加の人数が増えた
・美術企画の**引き継ぎ資料**を作った→次に企画する時に、誰でもわかるように

力を入れた点
・イベント当日の**リマインド**（メール、X、slack等）
・定期的に開催することで、リピーターを増やすことができた
・かんがえるソファのテーマをより身近なものに

今後イベント企画をする方へ
・イベント前のホワイトボード広報などの**プレプチ企画**を実施する
・引き継ぎの相手に熱意、意義を伝える＆引き継ぎ資料のある場所を伝える
・イベント内容が他部会と被っているところがある→**イベントの目的**を明確にする

哲学カフェの様子（2023 年 11 月 6 日撮影）

美術館アート鑑賞イベント
（2023 年 6 月 15 日撮影）

６．ＳＬＡ卒業プレゼンテーション

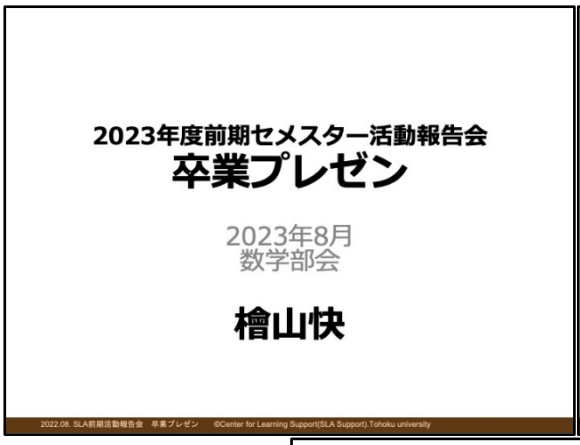
Summary

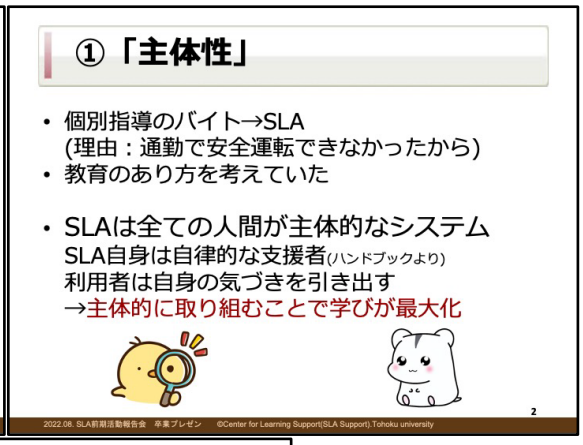
卒業プレゼンテーションとは、当該セメスターかぎりで退職する SLA が、これまでの活動をふり返り、大事にしてきたことを、来期も活動を続ける SLA に引き継ぐイベントである。

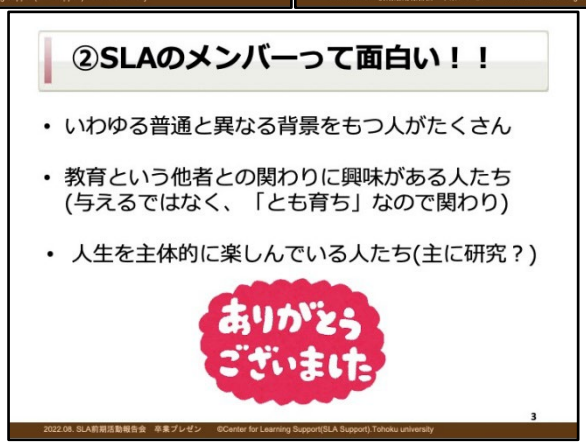
内容は主に、日々の対応のコツ・技や SLA としてのやりがいや楽しさを報告するものであり、残る SLA にとって大きな刺激となっている。

プレゼンテーションへの協力は任意であり、以下では 2023 年度に発表をした 8 名の資料をまとめる。

１．前期





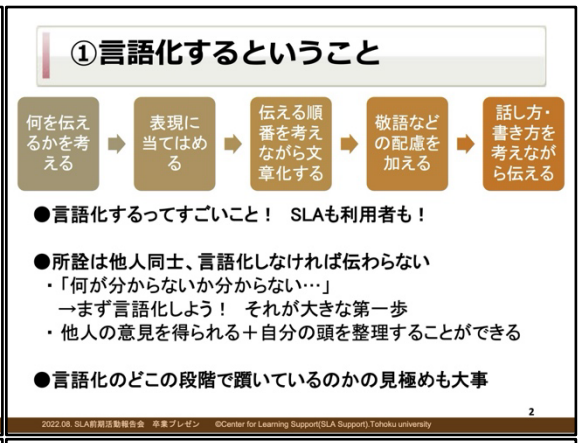


2023年度前期セメスター
活動報告会卒業プレゼン
東北大学大学院 工学研究科 機械機能創成専攻 修士2年
ライティング部会 加藤 里彩
(2023年8月)

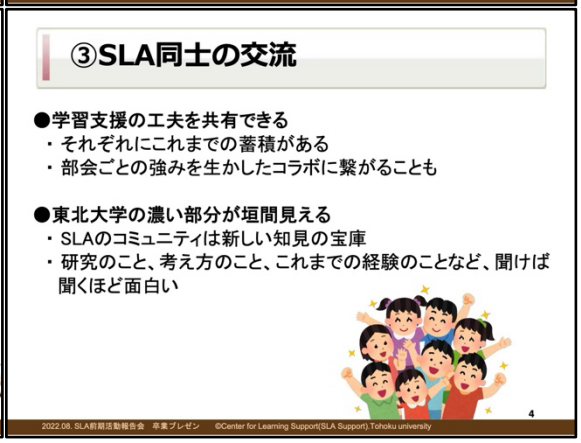
自分にとっての
「分からない」を大切にする
異なる分野のライティングは「分からない」ことだらけのことも…
コミュニケーションを取りながら「分からない」理由を明確にする
①分野共通の暗黙の了解を知らないから？
②論理的展開が出来てないから？（←対応可能）

SLAコミュニティ
where 多様性が学びに繋がる場
ライティング部会: 理系学生2名, 文系学生4名
博士課程4名, 修士課程2名
ライティングを訪問してくれる学生
≒学習意欲が高い学生
異なる部門間の学生の繋がり
飲み会
言語系リフレクション

2023年度前期セメスター活動報告会
卒業プレゼン
2023年8月
鏡 耀子
2022.08. SLA前期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support),Tohoku university


①言語化するということ
何を伝えるかを考える
表現に当てはめる
伝える順番を考えながら文章化する
敬語などの配慮を加える
話し方・書き方を考えながら伝える
●言語化するってすごいこと！ SLAも利用者も！
●所詮は他人同士、言語化しなければ伝わらない
・「何が分からないか分からない…」
→まず言語化しよう！ それが大きな第一歩
・他人の意見を得られる＋自分の頭を整理することができる
●言語化のどこの段階で躓いているのかの見極めも大事
2
2022.08. SLA前期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support),Tohoku university

②伝え方の工夫
何を伝えるかを考える
表現に当てはめる
伝える順番を考えながら文章化する
敬語などの配慮を加える
話し方・書き方を考えながら伝える
●相手の自信やモチベーションを損なわない伝え方を意識する
・「それは良くない」「間違っている」→「私ならこうする」「こうするともっと良い」
・間の取り方やイントネーションによっても印象は変わる
●「おくすり飲めたね」方式
・伝え方が不必要にトゲトゲだと、
そのショックで肝心の中身が届かない
→伝え方をマイルドにして中身を届ける
伝えたいこと
伝えたいこと
3
2022.08. SLA前期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support),Tohoku university


③SLA同士の交流
●学習支援の工夫を共有できる
・それぞれにこれまでの蓄積がある
・部会ごとの強みを生かしたコラボに繋がることも
●東北大学の濃い部分が垣間見える
・SLAのコミュニティは新しい知見の宝庫
・研究のこと、考え方のこと、これまでの経験のことなど、聞けば聞くほど面白い
4
2022.08. SLA前期活動報告会 卒業プレゼン ©Center for Learning Support(SLA Support),Tohoku university

2023年度前期セメスター活動報告会

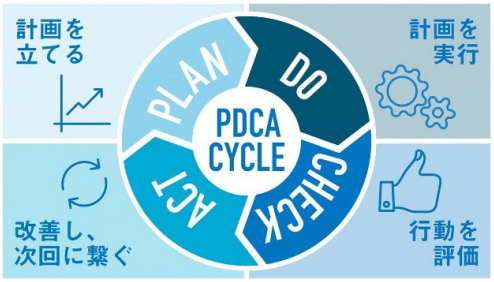
卒業プレゼン

2023年8月

日下部 翔大

①PDCAをまわしまくれ～

- 今期の企画部会のよかったところ



②僕の感じた「ともそだち」

- SLAからの刺激が人生の艶を出す

２．後期

2023年度後期セメスター活動報告会

卒業プレゼン

2024年2月

竹平航平

失われているものへの意識

私のSLA活動では、「失われているもの」へ意識を向けることが一つの課題意識でした。

- 発話において失われているもの
  - 論理的構造
  - 発話者の前提知識
- 教科書や講義で失われているもの
  - 背景にある具体的・示唆的な例
  - 正確ではないが、有用な作業仮設

2

2023年度後期セメスター活動報告会

SLAになってよかったこと

2024年2月14日

江村　玲

外からの自分が理解できたよ！

SLAで言われたこと

文系の博士なんて
初めて見ました！！

自分の好きなことを
続けていて尊敬します！

言語学！
おもしろそう！

博士ってこんな感じなんすね
ww

3

確実にコミュ力が上がっているよ！

学部時代
- 友人が少ない。基本的に単独行動。

SLA
- 2020年10月（B4後期）~ 2024年3月（D1後期）
- のべ約150名の留学生を対応
- 150名 × 0.5時間 ＝ 75時間

大学院
- なぜか大学院時代の方が、学部時代よりも友人が多い。孤独とはかけ離れた生活。
- 研究室や学会で、留学生に「江村さんの発表だけは理解できるんです」と言われる。

4

確実にコミュ力が上がっているよ！

学部時代
- 友人が少ない。基本的に単独行動。

SLA
- 2020年10月（B4後期）~ 2024年3月（D1後期）
- のべ約150名の留学生を対応
- 150名 × 0.5時間 ＝ 75時間

大学院
- なぜか大学院時代の方が、学部時代よりも友人が多い。孤独とはかけ離れた生活。
- 研究室や学会で、留学生に「江村さんの発表だけは理解できるんです」と言われる。

4

2023年度後期セメスター活動報告会
卒業プレゼン

2024年2月

氏名　須田　華

2024.02. SLA後期活動報告会　「卒業プレゼン」　©Center for Learning Support (SLA Support) Tohoku University

アクティブな状態に持っていく

- 自分なりの「学び」の定義：
  新しい考えに出会って**考え方・世界の見え方が変わること**
  →**学習者自身が考えたり、意味づけする過程**が大切

「ただ教えられる」のと「自分で考えて得た答え」では学びの質が異なるのではないだろうか？

- **学生をアクティブな状態に持っていくための工夫**
  （訊き方, イベントの設計, 発信…etc.）が重要
  →アクティブな状態になれば、自ずと学び出すのでは？

2

2024.02. SLA後期活動報告会　「卒業プレゼン」　©Center for Learning Support (SLA Support) Tohoku University

SLA 沢山の学びと楽しさをありがとう！

宮城県美術館様, 英語・日本語部会のみなさまにも
お世話になりました！

日にち	テーマ	参加数	グループ	時間
5月13日(水)	第1回:今年のGW、本当は何をしたかった？	14	1	60分 時間変則
5月22日(金)	第2回:オンライン授業、やってみてどう？	17	2	
5月25日(月)	第3回:専門ってなに？	9	2	
5月29日(金)	ミーティング(5月定例)			
6月5日(金)	第4回:サークルってやる必要ある？	7	2	75分 16:30-17:45
6月10日(水)	第5回:第二外国語って必要？	6	2	
6月15日(月)	第6回:幸せってなに？	6	2	
6月19日(金)	ミーティング(6月定例)			
6月23日(火)	第7回:どうして人はつながりを求めるの？	5	2	75分 16:30-17:45
7月3日(金)	第8回:普通ってなに？(通算50回目)	6	1	
7月8日(水)	第9回:自由とは？	15	3	
7月14日(火)	第10回:優しさってなんだろう？	13	2	
8月4日(火)	ミーティング(7月定例)			
8月5日(水)	ファシリテーション研修(東北大学合同)			

当初の「習うより慣れろ！」のファシリスタイルは震えた…!

美術館に皆で行ったりしました

芋煮したり、焼き肉したり…楽しい交流の機会

3

2024.02. SLA後期活動報告会　「卒業プレゼン」　©Center for Learning Support (SLA Support) Tohoku University

2023年度後期セメスター活動報告会
卒業プレゼン

2024年2月

福士 海伊

2024.02. SLA後期活動報告会　「卒業プレゼン」　©Center for Learning Support (SLA Support) Tohoku University

①「常識・前提をかんがえる」

背景
対話からその人の価値観を見出すことに興味→**企画SLAへ**

イベント参加者の評価が低い ⇨ イベントを改善

参加者の評価が実態に即していないかも？
⇨ **→評価項目を改善**

業務の改善・研究活動・SNSの情報の扱い etc...
⇩
思い込みを減らし、よりフラットに物事をみられる!?

2

2024.02. SLA後期活動報告会　「卒業プレゼン」　©Center for Learning Support (SLA Support) Tohoku University

② SLAと積極的に交流を！

SLAは一風変わったクセの強いメンバーが、
多数在籍している！（主観）

他部会のSLAと交流する機会は限られていた
（もっと交流したかった…）

交流の促進 ⇨ 部会間の協業 ⇨ SLAの発展!?

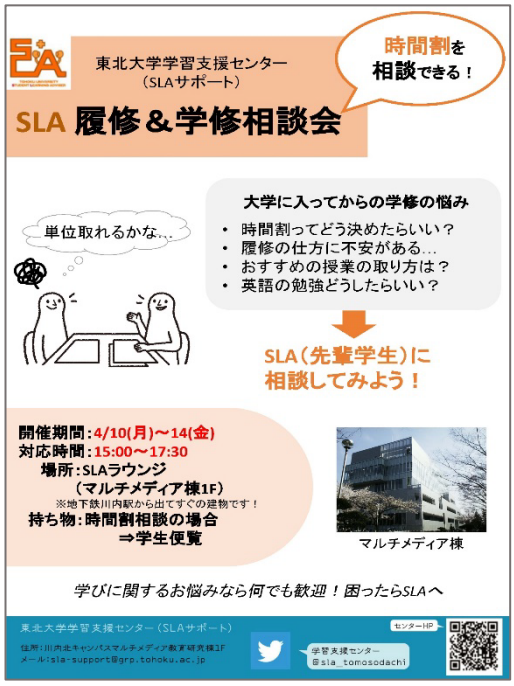
さらなるSLA同士の交流を！

3

2024.02. SLA後期活動報告会　「卒業プレゼン」　©Center for Learning Support (SLA Support) Tohoku University

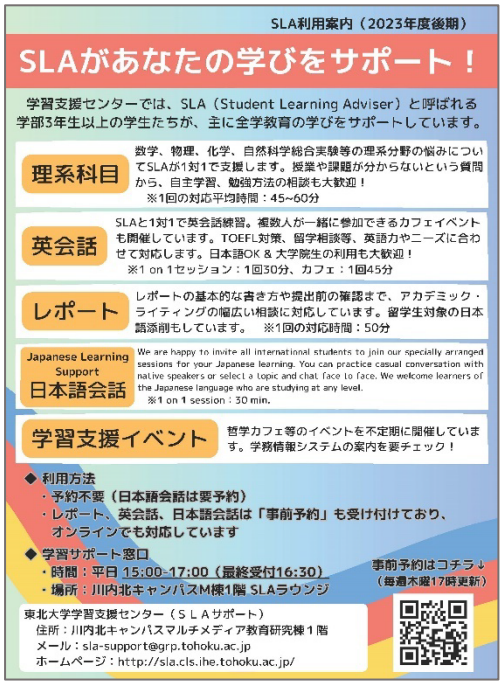
資料：2023 年度発行ポスター

1）前期利用案内（全体）



2）履修・学修相談会イベント

3）グローバルイベント（IPLANET 作成）



4）後期利用案内（全体）

5）物理・数学チェックテスト

6）化学チェックテスト

7）化学説明選手権イベント案内

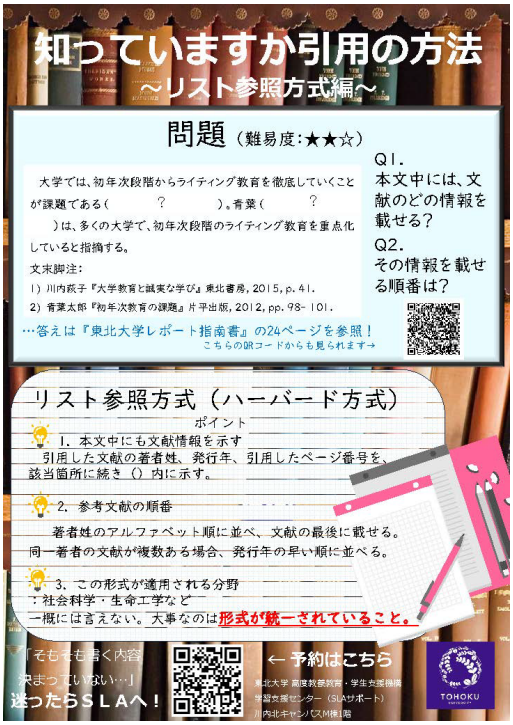
8）数学説明選手権イベント案内（11 月）

9）数学説明選手権イベント案内（1 月）

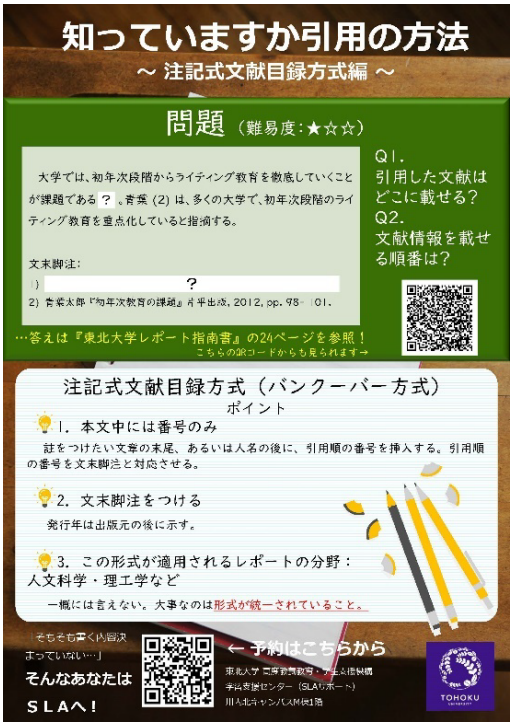
10）ライティングチェックテスト

11）ライティング利用案内（前期）

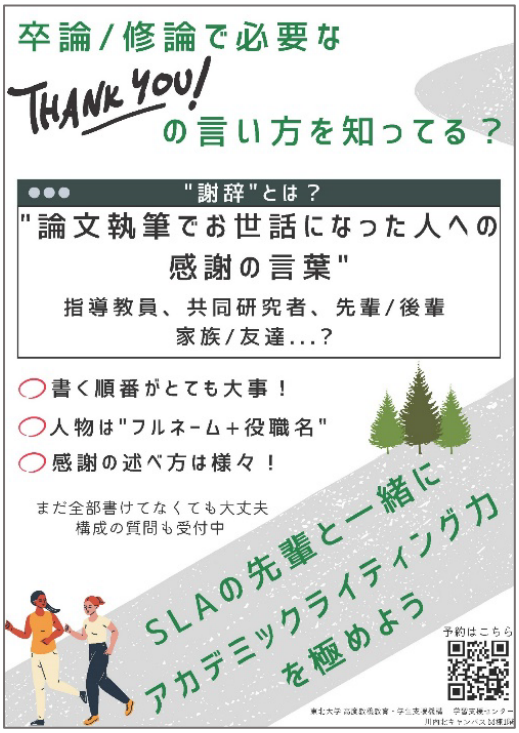
12）ライティング利用案内（後期）



13）ライティングポスター①



14）ライティングポスター②



15）ライティングポスター③

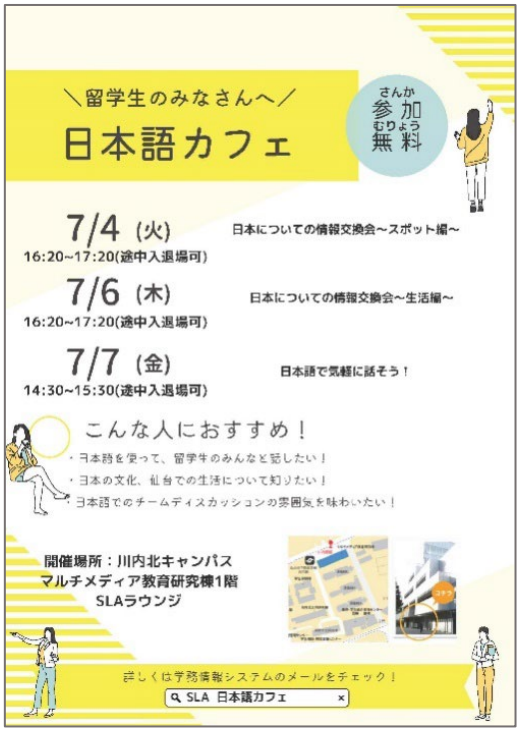
16）ライティングポスター④

17）ライティングポスター⑤

18）英語イベント案内（6 月）

19）英語イベント案内（10-11 月）

20）英語イベント案内（12 月）



21）日本語カフェ案内（7 月）

22）日本語カフェ案内（10-11 月）

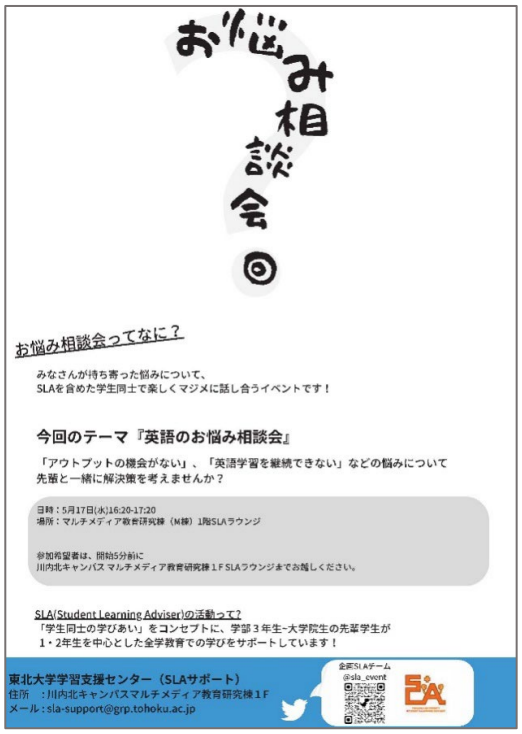
23）日本語カフェ案内（12 月）

24）日本語カフェ案内（1 月）

25）日本語会話 1on1 案内（英語版）

26）日本語会話 1on1 案内（日本語版）

27）美術館クイズラリー案内



28）英語お悩み相談会案内

29）美術館国際交流案内（日本語版）

30）美術館国際交流案内（英語版）

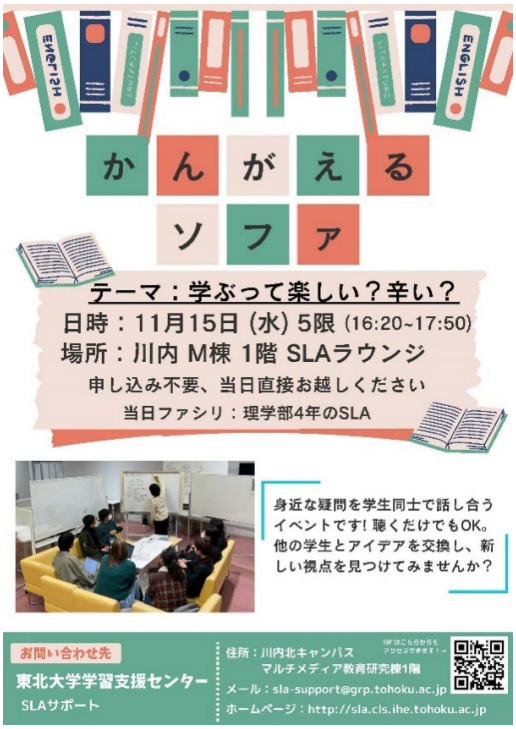
31）合同哲学カフェ案内（7 月）

32）美術館創作イベント案内

33）読書会イベント案内

34）ビブリオバトル案内

35）合同哲学カフェ案内（10 月）



36）かんがえるソファ案内（11 月）

37）合同哲学カフェ案内（11 月）

38）ビブリオトーク案内

39）美術館鑑賞イベント案内

40）てつがくカフェ案内（12 月）

41）合同哲学カフェ案内（12 月）

42）かんがえるソファ（1 月）

43）Productivity System 案内

44）合同哲学カフェ案内（1 月）

＝編集後記＝

『学習支援センター（SLA サポート）年次活動報告書』第 10 号が刊行の運びとなりました。2023 年度は、新型コロナウィルス感染症拡大の影響も落ち着き、全面的に対面での活動を再開できた年になりました。無事に 1 年間の活動を終えられました事、関係の皆様に心より御礼申し上げます。

2023 年度は、前年度に顕在化した課題等を踏まえ、SLA サポート事業を大きく見直した年ともなりました。その内容は西塚先生の論考（pp.20-31）にも詳述されていますが、歴代の SLA とスタッフが協働して構築してきた SLA のあり方をしっかりと振り返り、大切に引き継ぐべきは引継ぎ、また見直すべきは見直して、過去 10 年間の SLA サポートの活動の中でも最も良い状態で 1 年を終えることができました。「良い状態」というのは主観的な表現ではありますが、具体的に言えば、1 つは業務の効率化を進め、そこで生み出せた幾分かの余力を新しい挑戦に費やすことができました。もう 1 つは、SLA の各部会の運営を SLA たちが積極的かつ主体的に担ってくれたことで、相互に協力的な関係性を構築できていたと感じております。もちろん何事も「一切の問題がない」状態を実現するのは不可能で、様々な課題や限界もありましたが、SLA サポートの実践の歴史に、1 つの到達点をもたらしたと評価できる 1 年でした。

SLA サポート事業を支える組織体制は制度的に不安定で、SLA も教職員もおよそ数年単位で入れ替わります。そのサイクルの中にあって、2024 年度は改めての再スタートとなります。何年にも渡って「良い状態」を維持していくためには、常に走り続けなければなりません。SLA サポート事業の運営方法も、その時々の SLA やスタッフにとっての最適を模索することになります。日進月歩、社会的な状況も、また活用できる情報科学技術も変化していきます。その中で、東北大学の SLA サポート事業を支える担い手として、私たちは、日々学び続け、前に進んでいく必要があります。引き続きのご支援・ご協力の程、宜しくお願い致します。

（佐藤 智子）

学習支援センター（SLA サポート）年次活動報告書 －2023 年度－
Annual Report 2023 / Center for Learning Support (SLA Support Office)

2025 年 3 月 5 日発行
東北大学 高度教養教育・学生支援機構 学習支援センター（SLA サポート）
〒980-8576 宮城県仙台市青葉区川内 41 番地 マルチメディア教育研究棟 1F
website : http://sla.cls.ihe.tohoku.ac.jp/

印刷 北日本印刷株式会社

※SLA 学生の各種作成物の情報は、学生個人の見解によるものも含まれることをあらかじめご了承ください。
※本冊子掲載の写真データの無断使用を固く禁じます。

Together we learn,
Together we grow,
"TOMOSODACHI"!

with Student Learning Adviser